

令和6年度 豊田市環境審議会 第3回専門部会（循環型社会）
次第

日時：令和7年1月17日（金）午前10時から
開催場所：市役所東庁舎 7階 東大会議室2

1 部会長御挨拶

2 議 題

- ・次期豊田市一般廃棄物処理基本計画について（協議） 資料1、補足資料0～1-6、参考資料1
- ・次期豊田市環境基本計画について（協議） 資料2、参考資料2-1～2-3

3 その他

- ・意見交換

（資料1）豊田市一般廃棄物処理基本計画の概要

（補足資料0）議題事項まとめ

（補足資料1-1）ヒアリング・ワークショップ実施報告書（概要版）

（補足資料1-2）各調査から得られた意見と課題の整理

（補足資料1-3）ヒアリング・ワークショップ実施報告書

（補足資料1-4）ごみ排出量予測と目標値の考え方

（補足資料1-5）豊田市一般廃棄物処理基本計画事業一覧

（補足資料1-6）指標に対する主な施策と効果

（参考資料1）他自治体との比較

（資料2）次期環境基本計画について

（参考資料2-1）環境審議会 課題管理表

（参考資料2-2）環境基本計画素案

（参考資料2-3）環境基本計画施策・事業一覧イメージ（基本方針4）

<次回開催の御連絡>

○豊田市環境審議会

第4回専門部会（循環型社会）2月実施予定

○環境審議会本会議

開催日時：令和7年3月14日（金）午前10時00分から正午

会場：豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室

■ 循環型社会部会 委員名簿

(敬称略、部会長以下五十音順)

氏名		職名等
部会長	谷口 功	椋山女学園大学 情報社会学部 教授
	梅村 良	とよたエコライフ倶楽部 運営委員
	川上 正弘	豊田市区長会
	竹内 徹	市民公募
	長谷川 陽一	あいち豊田農業協同組合 常務理事
	前田 洋枝	南山大学 総合政策学部 教授

1. 豊田市におけるごみ処理の現状と課題
※第2回部会で協議

- ごみ処理の現状（裏面参照）
- 課題
- ★ごみ処理の現状から得られた課題（裏面参照）
 - ①ごみの排出状況
- ★ヒアリング等から得られた課題（補足資料 1-1、1-2、1-3 参照）
 - ②資源回収に対する市民利便性向上
 - ③ゼロカーボンシティに向けた廃棄物分野の対応強化
 - ④地域特性を踏まえた持続可能な廃棄物処理
 - ⑤他部局/市民団体等との連携強化
 - ⑥情報発信

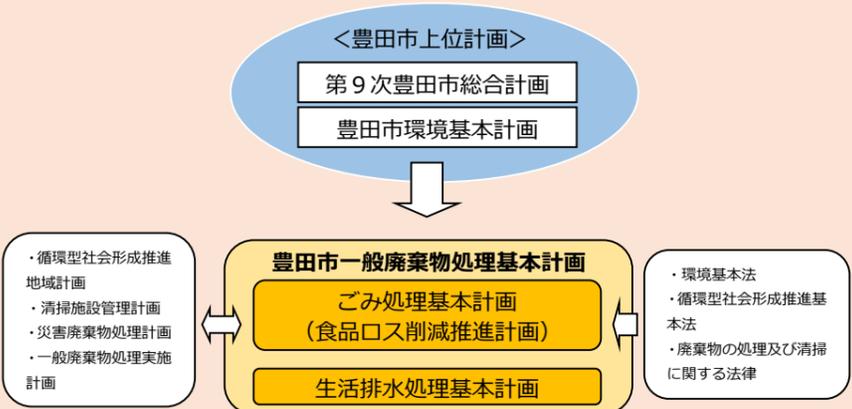
2. 基本理念 ※第2回部会で協議

『ミライにつながる循環型のまちをめざして』
市民・事業者・行政の各主体がつながり
取り組みやすい仕組みと体制をつくります

3. 施策の柱 ※第2回部会で協議

1	廃棄物の発生抑制の促進
2	資源の循環利用の促進
3	廃棄物処理の脱炭素化
4	廃棄物の適正処理の推進
5	持続可能な廃棄物処理体制の構築
1～5の基盤となる施策の柱	
6	学習機会・知識の提供・情報発信
7	共働の推進

4. 計画の位置付け・計画期間・対象区域



計画期間：令和8年度から令和17年度の10年間
対象区域：豊田市の市行政区画全体を対象区域

一般廃棄物処理基本計画
5-1 計画目標（協議事項1）

10年間の計画期間を前期と後期に分け、令和12年度を中間目標年度、令和17年度を最終目標年度とする。中間目標年度においては、前期計画期間の状況を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行う。
脱炭素化と資源循環の促進に対する指標として、新たに**④家庭系ごみの分別協力率**を設定（補足資料 1-4 参照）

指標	目標値（案）	基準年度 令和5年度	目標年度 令和17年度
① 1人1日当たりのごみ排出量			
i) 家庭系ごみ（燃やすごみ）		467.9 g	423.1 g
ii) 家庭系ごみ（総排出量）		589.9 g	544.8 g
② 燃やすごみ排出量（家庭系+事業系）		99,749 t/年	89,618 t/年
③ 最終処分量（直接埋立）		1,226 t/年	1,097t/年
④ 家庭系ごみの分別協力率※			
i) プラスチック使用製品廃棄物		21.7%	40.4%

※分別協力率 = 資源化量 / (燃やすごみ中の資源混入量 + 資源化量)

6. 生活排水処理基本計画（次回部会で提示）

本市で発生する生活排水をどのような方法でどの程度処理していくかを定めるとともに、生活排水処理を行う過程で発生する汚泥等の処理方法等を含めた生活排水処理全般に係る基本方針を定めることで、計画的に生活排水対策を行う生活排水処理基本計画を策定する。

7. ごみ処理施設の整備

本市が所有している清掃施設の状況を把握し、計画期間内における施設の延命化対策や整備の時期等を整理する。

【施設更新のイメージ図※現行計画より抜粋】

施設	年度（西暦）																													
	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24	'25	'26	'27	'28	'29	'30	'31	'32	'33	'34	'35	'36	'37	'38	'39	'40	'41	'42	'43	'44	'45	'46	'47
焼却施設	[Timeline showing facility status: 既設稼働, 更新施設, 延命化工事]																													
資源化施設	[Timeline showing facility status: 既設稼働, 更新施設]																													
最終処分場	[Timeline showing facility status: 既設稼働, 更新施設]																													
し尿処理施設	[Timeline showing facility status: 既設稼働, 更新施設]																													

5-2. 施策の体系（協議事項2）

施策の柱	基本施策	事業（抜粋） その他の事業については補足資料 1-5、1-6 を参照
1	家庭系ごみの発生抑制	多言語によるごみ出しマナーの周知
	事業系ごみの発生抑制	事業者・従業員向け啓発・勉強会事業
	使用済製品等の再使用の促進	リユーススポットの拡充
2	資源の再生利用の促進	製品プラスチックの再商品化の検討・促進事業
	新たな資源化方法の検討	使用済み紙おむつの再生利用の検討事業
3	バイオマス・再生材利用等の検討	バイオマス・再生材利用等の導入検討事業
	廃棄物からのエネルギー回収・活用の推進	植物性廃食用油資源化事業
	効率的・安定的な収集・運搬体制の構築	ごみ収集サポートシステム導入事業
4	不適正排出防止への対策強化	リチウムイオン電池対策事業
	不法投棄・不適正処理への対策強化	DX・AI・IoTを活用した不法投棄等の早期発見・対策の検討事業
5	災害廃棄物処理体制の強化	災害廃棄物処理体制の整備
	安定かつ効率的なごみ処理体制の構築	次期施設整備及び運営事業の検討事業
	費用負担の在り方の検討	ごみ処理費用負担の検討事業

各事業の基盤

6	分かりやすい情報の公開・発信	戦略的な情報発信
7	各主体との連携体制構築と市民参加の機会創出	ごみ処理や資源循環について、関係主体と連携した市民が学ぶ・自ら考える仕掛けづくり

8. パブリックコメントまでのスケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
パブリックコメント							実施
環境審議会			第3回			第4回	
部会		第3回	第4回		第5回		
一般廃棄物処理基本計画		素案完成					

豊田市のごみ処理の現状

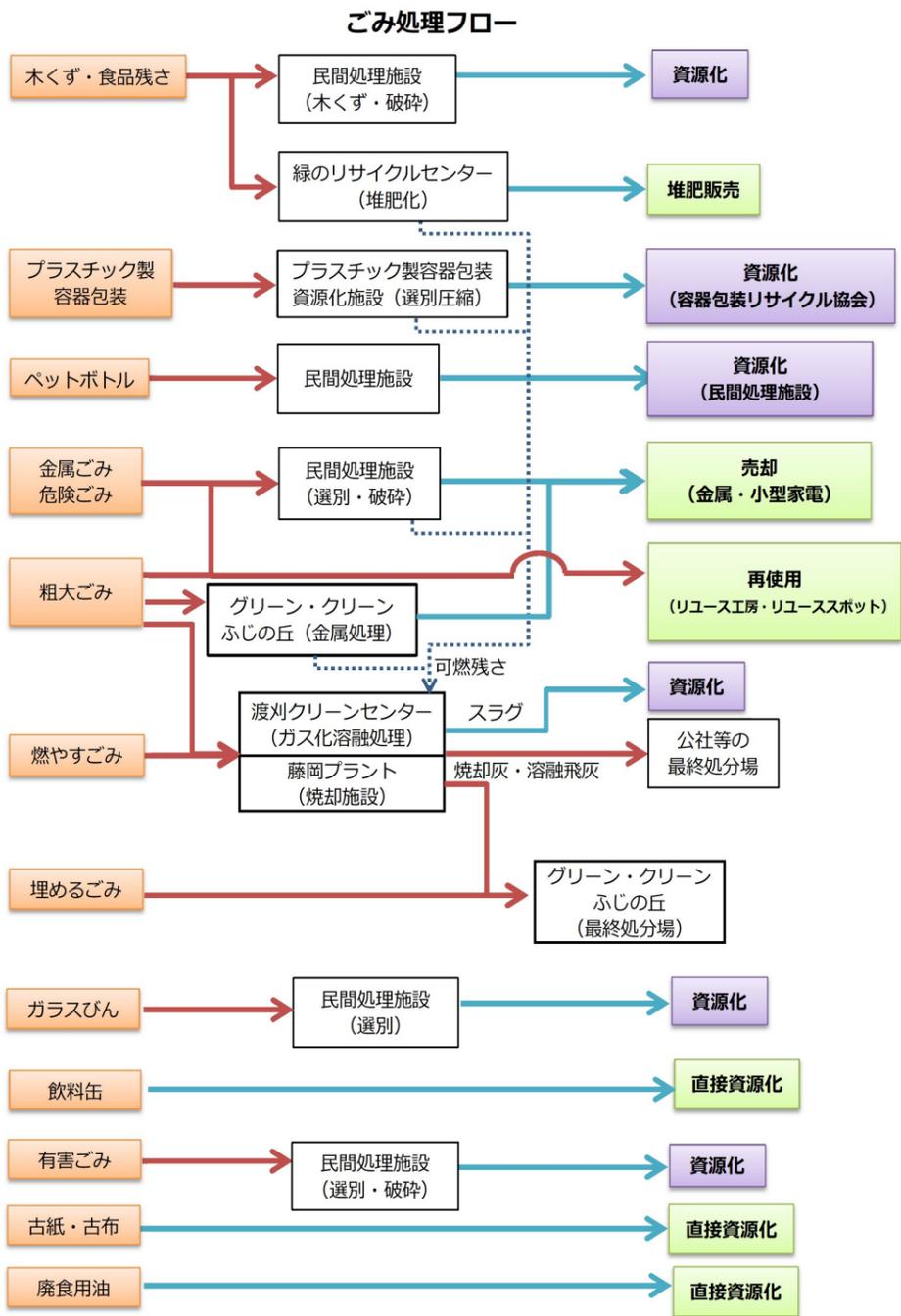
①家庭系ごみの分別区分と収集体制

分別区分	内容	ステーション収集	拠点回収	戸別回収
燃やすごみ	生ごみ、紙おむつ、紙くず、木くず、焼却灰、プラスチック製容器包装以外のプラスチック製品等	○	-	※1
埋めるごみ	ガラス類、割れた飲食用びん、陶器、陶磁器類、ブロック、レンガ、アスベスト製品、その他の不燃ごみ	○	-	※1
金属ごみ	金属製品、飲料缶以外の缶、家電製品、金属とプラスチックの複合製品	○	-	※1
資源	飲料缶	飲料用のアルミ缶、飲料用のスチール缶	○	※1
	ガラスびん	飲食用のびん、化粧品のびん	○	※1
	ペットボトル	PETマークのついた、飲料用、酒類用、しょう油用のもの等	○	※1
	プラスチック製容器包装	プラマークのついたラップ類、トレイ・バック類等	○	※1
有害ごみ	蛍光管、乾電池、体温計、充電式小型家電※2、等	○	○	※1
危険ごみ	ライター、スプレー缶、カセットボンベ	○	○	※1
古紙	新聞紙、雑誌、雑紙、ダンボール、紙バック	-	○	-
古布	古着、タオル、毛布等	-	○	-
廃食用油	廃食用油	-	○	-
木くず	刈草、せん定枝	-	-	-
粗大ごみ	大型の家電製品（テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機を除く）、自転車、マシン、ベッド、ふとん、タンス、ソファ、スキー板等	-	-	○

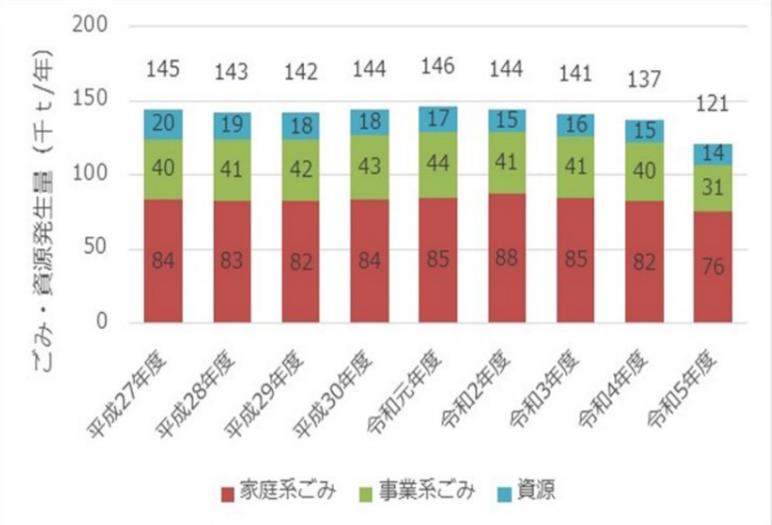
※1 ふれあい収集の対象物
 ※2 一辺が30cm以上のものは金属ごみ

家庭系ごみは、ステーション収集又は自己搬入を基本としている。
 また、家庭から排出されるごみや資源を所定のごみステーションまで持ち出すことが困難な高齢者や障がい者に対して、ごみの収集を支援する「ふれあい収集」（戸別収集）を実施している。
 このほかに拠点回収施設のリサイクルステーションで、古紙類、古布類、飲料缶、ペットボトル、ガラスびん、プラスチック製容器包装、有害ごみ、危険ごみ及び廃食用油を随時受け入れている。
 事業系ごみは、燃やすごみ、食品残さ及び木くずで、許可業者による収集又は自己搬入としている。

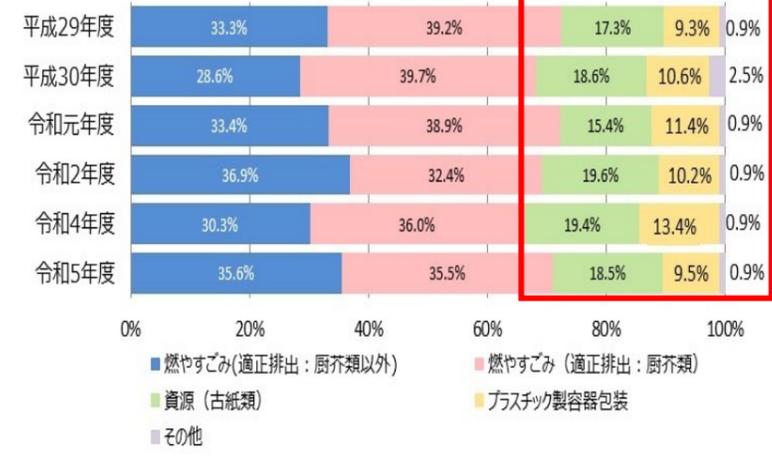
②ごみ処理フロー



③ごみの排出実績



④家庭系燃やすごみの組成割合の推移



平成29年度から令和5年度までの家庭系燃やすごみの組成割合は上記のとおりである。ただし、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止のため、家庭系燃やすごみの組成調査は実施していない。
厨芥類(生ごみ等)の割合が約3割～4割で、厨芥類以外の燃やすごみが3割前後で推移している。資源(古紙等・プラスチック製容器包装)はほぼ横ばい(3割前後)である。

議題事項まとめ

次期豊田市一般廃棄物処理基本計画（構成案）

第1章 計画策定の基本的事項⇒第4回部会で報告

背景と目的、計画の位置付け、計画期間、対象区域

第2章 地域の概要⇒第4回部会で報告

人口動態、人口及び世帯数、産業特性、事業所数及び従業者数等

第3章 ごみ処理の現状及び課題⇒本日概要報告

3.1 現在のごみ処理体制

ごみ分別区分と収集方法、ごみ処理施設等の概要、ごみ処理体制、ごみ処理フロー

3.2 ごみ排出・処理等の状況

3.2-1 ごみ排出・処理実績 ⇒第4回部会で報告

3.2-2 ごみの組成 ⇒第4回部会で報告

3.2-3 一般廃棄物処理経費 ⇒第4回部会で報告

3.2-4 一般廃棄物処理に関わる温室効果ガスの排出量
⇒第4回部会で報告

3.2-5 これまでの成果（前回計画の実績と評価の概要）
⇒第4回部会で報告

3.2-6 施策の取組状況 ⇒第4回部会で報告

3.2-7 他の自治体、県の計画との比較評価⇒本日報告

3.2-8 ごみ処理の課題⇒本日報告

第4章 ごみ処理基本計画

4.1 一般廃棄物の将来予測

4.1-1 ごみ量予測 ⇒本日協議

4.2 計画の基本フレーム

4.2-1 基本理念 ⇒前回部会で報告

4.2-2 施策の柱 ⇒前回部会で報告

4.2-3 市民・事業者・行政の役割⇒第4回部会で報告

4.3 計画目標

4.3-1 目標値の設定 ⇒本日協議

4.3-2 指標設定の考え方⇒本日協議

4.3-3 減量目標によるごみ排出量等の見通し⇒本日協議

4.4 計画の実現に向けた施策⇒以下前回部会での報告内容を踏まえ本日協議

- 4. 4 - 1 廃棄物の発生抑制の促進
- 4. 4 - 2 資源の循環利用の促進
- 4. 4 - 3 廃棄物の脱炭素化
- 4. 4 - 4 廃棄物の適正処理の推進
- 4. 4 - 5 持続可能な廃棄物処理体制の構築
- 4. 4 - 6 学習機会・知識の提供・情報発信
- 4. 4 - 7 共働の推進
- 4. 5 計画の推進体制と進行管理 ⇒第4回部会で報告
 - 4. 5 - 1 計画の推進体制
 - 4. 5 - 2 計画の進行管理
- 4. 6 安定的なごみ処理体制の確保に向けた施設整備の検討
⇒第4回部会で報告
 - 4. 6 - 1 施設整備見通し
 - 4. 6 - 2 次期施設に求められる役割等

第5章 生活排水処理基本計画⇒第4回部会で報告

- 6. 1 生活排水処理の現状と課題
- 6. 2 基本方針・目標値の設定
- 6. 3 し尿・浄化槽汚泥処理計画
- 6. 4 目標達成及び生活環境対策に向けて

1 市民アンケート調査結果（抜粋）

＜調査概要＞	
【調査方法】 郵送	【調査期間】 8月27日～9月16日
【対象地域】 豊田市全域	【有効回収数】 903通
【発送数】 2,000通	【有効回収率】 45.2%

＜調査結果＞		＜考察＞	
--------	--	------	--

- 日々の生活における環境に配慮した行動について
- 食品ロスを減らす取組は、世代を問わず高い割合で実施されている。
 - リサイクルステーションの利用率は高齢者になるほど低下している。
 - 資源の店頭回収や集団回収は、40代、50代をピークに若者層と高齢者層の取組率が低い。

問2 環境に配慮した行動の取組状況		ごみの分別や減量		1. 計画的な買い物や手前どり、食べ残しをしないなどで食品ロスを減らす		2. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用になったものを譲渡・販売する		3. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する		4. スーパーマーケットなどの資源の店頭回収や地域の集回回収に取り組み		5. 兼設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している	
全体		取組んでいる	取組んでいない	取組んでいる	取組んでいない	取組んでいる	取組んでいない	取組んでいる	取組んでいない	取組んでいる	取組んでいない	取組んでいる	取組んでいない
問1	1. 10歳代 (n=15)	86.7%	13.3%	33.3%	66.7%	40.0%	60.0%	60.0%	40.0%	80.0%	20.0%		
	2. 20歳代 (n=69)	91.3%	8.7%	47.8%	52.2%	47.8%	52.2%	71.0%	29.0%	87.0%	13.0%		
	3. 30歳代 (n=80)	88.6%	11.4%	50.6%	49.4%	48.1%	51.9%	78.5%	21.5%	91.0%	9.0%		
	4. 40歳代 (n=132)	91.7%	8.3%	50.0%	50.0%	50.8%	49.2%	83.3%	16.7%	92.4%	7.6%		
	5. 50歳代 (n=171)	90.6%	9.4%	39.2%	60.8%	36.3%	63.7%	85.2%	14.8%	91.8%	8.2%		
	6. 60歳代 (n=156)	88.9%	11.1%	34.8%	65.2%	34.4%	65.6%	78.6%	21.4%	95.5%	4.5%		
	7. 70歳代 (n=181)	91.6%	8.4%	21.5%	78.5%	21.7%	78.3%	76.8%	23.2%	86.0%	14.0%		
	8. 80歳代以上 (n=104)	92.2%	7.8%	16.0%	84.0%	19.4%	80.6%	74.0%	26.0%	82.5%	17.5%		

問2 環境に配慮した行動の取組状況		ごみの分別や減量		6. マイボトルを持ち歩く		7. エコバッグを持ち歩く		8. 衣類、家具等を長く使う		9. 豊田市やその近郊でれた野菜やお肉などの食材を食べる		10. 油や調理くずは排水に流さないようにする	
全体		取組んでいる	取組んでいない	取組んでいる	取組んでいない	取組んでいる	取組んでいない	取組んでいる	取組んでいない	取組んでいる	取組んでいない	取組んでいる	取組んでいない
問1	1. 10歳代 (n=15)	66.7%	33.3%	93.3%	6.7%	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%	93.3%	6.7%		
	2. 20歳代 (n=69)	73.0%	26.1%	88.4%	11.6%	95.7%	4.3%	58.0%	42.0%	94.1%	5.9%		
	3. 30歳代 (n=80)	74.7%	25.3%	94.9%	5.1%	96.2%	3.8%	73.4%	26.6%	92.4%	7.6%		
	4. 40歳代 (n=132)	81.8%	18.2%	93.2%	6.8%	96.2%	3.8%	72.0%	28.0%	91.7%	8.3%		
	5. 50歳代 (n=171)	73.7%	26.3%	97.1%	2.9%	97.7%	2.3%	78.9%	21.1%	95.3%	4.7%		
	6. 60歳代 (n=156)	78.7%	21.3%	94.2%	5.8%	98.7%	1.3%	78.7%	21.3%	95.5%	4.5%		
	7. 70歳代 (n=181)	76.0%	24.0%	95.5%	4.5%	96.0%	4.0%	85.3%	14.7%	96.1%	3.9%		
	8. 80歳代以上 (n=104)	83.2%	16.8%	93.1%	6.9%	97.1%	2.9%	88.3%	11.7%	95.1%	4.9%		

- ごみ関連の情報の入手方法
- 世代を問わず「ごみ分別カレンダー」「広報とよた」「地域の回覧板」から情報を入手したいと考えている。
 - 20代から80代と広い世代で分別アプリ、市のホームページから情報を入手したいと考えている。

問10 ごみに関する情報入手方法		1. 広報とよた		2. 地域の回覧板		3. ごみ分別カレンダー		4. 環境学習施設・出前講座		5. 分別アプリ		6. 子どもから（学校等で知った情報や配布物）		7. 市のホームページ		8. 公共施設等の掲示物		9. アプリ・スマートフォン上の掲示物		10. SNS		11. その他（ ）	
問1	1. 10歳代 (n=15)	21.9%	25.0%	34.4%	0.0%	3.1%	0.0%	9.4%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%											
	2. 20歳代 (n=70)	23.8%	23.0%	25.4%	0.8%	8.7%	7.9%	1.6%	1.6%	4.0%	0.8%												
	3. 30歳代 (n=80)	22.8%	21.2%	22.8%	0.0%	11.4%	3.3%	9.2%	1.6%	1.1%	5.4%	1.1%											
	4. 40歳代 (n=132)	28.9%	24.7%	23.7%	0.3%	8.2%	1.0%	6.2%	2.1%	2.1%	0.7%												
	5. 50歳代 (n=171)	30.3%	21.0%	20.3%	1.2%	7.8%	0.9%	7.1%	3.1%	4.7%	0.2%												
	6. 60歳代 (n=156)	26.9%	21.3%	25.3%	1.4%	6.5%	0.9%	10.9%	1.9%	3.9%	0.0%												
	7. 70歳代 (n=181)	26.6%	23.0%	24.8%	1.4%	7.0%	0.8%	8.4%	3.4%	1.8%	0.0%												
	8. 80歳代以上 (n=104)	26.0%	23.3%	25.0%	2.1%	6.3%	1.0%	6.6%	6.3%	1.0%	2.4%	0.0%											

※利用しているものを複数回答

- ・食品ロス削減への取組状況は高いものの、ごみ組成調査の結果から見える食品ロスの発生状況は横ばいである。
- ・若者のリサイクルステーションの利用率低下に対する要因分析と対策を検討していく必要がある。
- ・高齢者は、車の保有状況が低いと考えられ、店頭回収や集団回収の場所まで資源物を持ち込みにくいと考えられる。
- ・世代を問わず分別アプリからの情報提供求められていることから、情報提供の有効な手段として考えられる。
- ・10代から30代はSNSから情報入手したい割合が高いため、SNS通じた情報発信が有効な手段のひとつと考えられる。

＜調査結果＞		＜考察＞	
--------	--	------	--

- ごみの減量・資源化に関する取組で日頃から取り組んでいること
- 適正なごみの分別をすることに対して、積極的に取り組んでいる回答が多いが、若い年代ほど回答割合が低い。
 - 環境学習施設 eco-T や出前講座による環境学習に対して、今のところ取り組むつもりがないとの回答が多い。

問11 ごみに関する取組状況		1. コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する		2. 販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する		3. 自治区や子ども会等が実施している、集団回収を利用する		4. 市が実施している「リユース工房」、リユーススポットを利用する	
全体		積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである
問1	1. 10歳代 (n=15)	12.5%	17.5%	22.0%	48.0%	41.2%	39.2%	9.0%	10.6%
	2. 20歳代 (n=88)	12.8%	16.3%	29.1%	41.9%	47.1%	26.4%	10.3%	16.1%
	3. 30歳代 (n=74)	12.3%	13.7%	17.8%	56.2%	42.5%	37.0%	6.8%	13.7%
	4. 40歳代 (n=149)	9.5%	17.7%	21.1%	51.7%	45.9%	29.7%	13.5%	10.8%
	5. 50歳代 (n=105)	5.9%	17.6%	24.5%	52.0%	45.2%	34.6%	7.7%	12.5%
	6. 60歳代 (n=37)	19.4%	16.7%	22.2%	41.7%	42.9%	37.1%	8.6%	11.4%
	7. 70歳代 (n=43)	11.9%	16.7%	14.3%	57.1%	34.9%	41.9%	4.7%	18.6%
	8. 80歳代以上 (n=11)	36.4%	9.1%	9.1%	45.5%	36.4%	9.1%	36.4%	18.2%
問1	9. 10歳代 (n=14)	35.7%	35.7%	14.3%	14.3%	35.7%	42.9%	7.1%	14.3%
	10. 20歳代 (n=16)	12.5%	12.5%	12.5%	62.5%	25.0%	25.0%	12.5%	37.5%
	11. 30歳代 (n=5)	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	12. 40歳代 (n=10)	30.0%	30.0%	30.0%	10.0%	50.0%	40.0%	0.0%	10.0%
	13. 50歳代 (n=81)	11.1%	14.8%	22.2%	51.9%	33.3%	38.3%	12.3%	16.0%

問11 ごみに関する取組状況		5. 資源・ごみ分別webアプリ（さんあ〜）※等を用いてごみに関する情報を得る※豊田市がスマートフォンやタブレット端末向けに配信しているアプリ		6. 環境学習施設eco-Tや出前講座等による環境学習に参加する		7. ごみの排出量を削減する		8. 適正なごみの分別をする	
全体		積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである
問1	1. 10歳代 (n=15)	16.6%	14.1%	31.2%	38.2%	1.0%	7.5%	23.5%	68.0%
	2. 20歳代 (n=88)	16.5%	11.8%	29.4%	42.4%	1.2%	4.8%	32.1%	61.9%
	3. 30歳代 (n=74)	13.7%	12.3%	43.8%	30.1%	1.4%	6.8%	34.2%	57.5%
	4. 40歳代 (n=149)	17.2%	15.2%	24.8%	42.8%	2.0%	6.8%	22.4%	68.7%
	5. 50歳代 (n=105)	17.5%	15.5%	32.0%	35.0%	1.0%	5.8%	28.2%	65.0%
	6. 60歳代 (n=37)	8.3%	19.4%	33.3%	38.9%	0.0%	8.3%	30.6%	61.1%
	7. 70歳代 (n=43)	18.6%	16.3%	34.9%	30.2%	2.4%	4.8%	31.0%	61.9%
	8. 80歳代以上 (n=11)	9.1%	27.3%	9.1%	54.5%	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%
問1	9. 10歳代 (n=14)	7.1%	7.1%	35.7%	50.0%	0.0%	21.4%	21.4%	57.1%
	10. 20歳代 (n=16)	18.8%	6.3%	31.3%	43.8%	6.3%	6.3%	12.5%	75.0%
	11. 30歳代 (n=5)	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%
	12. 40歳代 (n=10)	22.2%	44.4%	11.1%	22.2%	10.0%	10.0%	20.0%	60.0%
	13. 50歳代 (n=81)	19.8%	14.8%	25.9%	39.5%	2.5%	8.6%	21.0%	67.9%

問11 ごみに関する取組状況		1. コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する		2. 販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する		3. 自治区や子ども会等が実施している、集団回収を利用する		4. 市が実施している「リユース工房」、リユーススポットを利用する	
全体		積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである
問1	1. 10歳代 (n=15)	13.3%	33.3%	26.7%	26.7%	26.7%	40.0%	26.7%	6.7%
	2. 20歳代 (n=70)	11.4%	15.7%	24.3%	48.6%	38.6%	30.0%	12.9%	18.6%
	3. 30歳代 (n=80)	3.8%	20.0%	27.5%	48.8%	31.3%	43.8%	11.3%	20.0%
	4. 40歳代 (n=132)	9.1%	11.4%	21.2%	57.6%	33.3%	39.4%	12.9%	31.1%
	5. 50歳代 (n=171)	7.6%	13.5%	24.0%	55.0%	45.0%	35.1%	11.7%	32.7%
	6. 60歳代 (n=156)	11.5%	17.9%	17.9%	52.6%	45.5%	31.4%	14.7%	36.5%
	7. 70歳代 (n=181)	14.4%	21.5%	22.7%	39.8%	43.1%	33.7%	8.3%	13.3%
	8. 80歳代以上 (n=104)	26.9%	20.2%	16.3%	26.9%	49.0%	26.9%	7.7%	10.6%

問11 ごみに関する取組状況		5. 資源・ごみ分別webアプリ（さんあ〜）※等を用いてごみに関する情報を得る※豊田市がスマートフォンやタブレット端末向けに配信しているアプリ		6. 環境学習施設eco-Tや出前講座等による環境学習に参加する		7. ごみの排出量を削減する		8. 適正なごみの分別をする	
全体		積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	積極的に取り組んでいる	積極的に取り組んでいないが、今後取り組むつもりである
問1	1. 10歳代 (n=15)	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	13.3%	20.0%	66.7%
	2. 20歳代 (n=70)	14.3%	14.3%	27.1%	44.3%	1.4%	4.3%	22.9%	71.4%
	3. 30歳代 (n=80)	20.0%	15.0%	30.0%	35.0%	1.3%	11.3%	25.0%	62.5%
	4. 40歳代 (n=132)	27.3%	18.2%	20.5%	33.3%	1.5%	6.1%	19.7%	72.0%
	5. 50歳代 (n=171)	14.0%	12.9%	40.9%	32.2%	1.8%	4.7%	29.2%	64.3%
	6. 60歳代 (n=156)	10.9%	15.4%	37.2%	35.3%	1.9%	5.8%	27.6%	62.2%
	7. 70歳代 (n=181)	12.7%	13.3%	28.2%	42.5%	0.0%	7.2%	28.2%	63.0%
	8. 80歳代以上 (n=104)	15.4%	15.4%	19.2%	38.5%	2.9%	10.6%	26.0%	50.0%

- ・居住地区、年齢に問わず市民の適正なごみ分別に対する意識と、実際のごみ組成調査の結果から見える資源物の分別協力率には、乖離があるため、要因分析と対策を検討していく必要がある。
- ・環境学習施設や出前講座だけではなく、普段から市民が身近に気付きや学びを得られる仕組みを検討して行く必要がある。
- ・問によっては、年代別の回答割合に違いがあるため、各事業を啓発するにあたり、年代を意識する必要がある。
- ・山村地域では地区によっては店頭回収の取組率が低い地域があり、地域特性を加味した、資源回収を検討する必要がある。

2 事業者アンケート調査結果（抜粋）

＜調査概要＞						
【調査方法】 郵送、メール		回答数	回答数			
【調査期間】 9月2日～9月25日		1. 農業、林業、漁業	48	8. 卸売業・小売業	27	
【対象地域】 豊田市全域 【発送数】 500社		2. 建設業	32	9. 金融業・保険業	0	
【有効回収数】 212通 【有効回収率】 42.4%		3. 鉱業、採石業、砂利採取業	1	10. 不動産業、物品賃貸業	1	
		4. 製造業	49	11. 宿泊業・飲食サービス業	12	
		5. 電気・ガス・熱供給・水道業	2	12. その他サービス業	29	
		6. 情報通信業	1	13. 教育、学習支援業	10	
		7. 運輸業・郵便業	6	14. 医療・福祉	26	
＜調査結果＞			＜考察＞			
<p>■ 環境に関する取組状況</p> <p>➢ 従業員への環境教育は積極的に取り組んでおり、ペーパーレスや古紙分別に取り組む割合が高い。</p> <p>➢ ごみの減量に対しては、積極的に取り組んでいる項目が多い。</p>						
上段:度数 下段: %		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、これから取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	該当しない
環境教育	1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う	63 29.9%	86 40.8%	11 5.2%	38 18.0%	13 6.2%
	2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する	15 7.1%	25 11.8%	17 8.1%	100 47.4%	54 25.6%
	3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う	17 8.1%	17 8.1%	14 6.6%	93 44.1%	70 33.2%
	16. ペーパーレス化を推進する	94 44.1%	103 48.4%	10 4.7%	4 1.9%	2 0.9%
ごみの減量	17. 古紙分別を行い、資源化している	118 55.4%	77 36.2%	3 1.4%	4 1.9%	11 5.2%
	18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む	44 20.7%	62 29.1%	8 3.8%	13 6.1%	86 40.4%
	19. 事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する	59 27.7%	89 41.8%	4 1.9%	13 6.1%	48 22.5%
	20. 文房具等の消耗品を節約する	77 36.2%	114 53.5%	6 2.8%	11 5.2%	5 2.3%
	1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う	4 8.2%	1 2.0%	38 77.6%	6 12.2%	
2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する	10 8.8%	4 3.5%	86 75.4%	14 12.3%		
3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う	12 11.5%	4 3.8%	76 73.1%	12 11.5%		
上段:度数 下段: %		特に取り組む必要性は感じないから	一事業所として取り組んでも大きな効果はないと考えるから	必要性を感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない	環境への取組と事業活動には関連がないため	
環境教育	1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う	4 8.2%	1 2.0%	38 77.6%	6 12.2%	
	2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する	10 8.8%	4 3.5%	86 75.4%	14 12.3%	
	3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う	12 11.5%	4 3.8%	76 73.1%	12 11.5%	
	16. ペーパーレス化を推進する	1 8.3%	- 0.0%	11 91.7%	- 0.0%	
ごみの減量	17. 古紙分別を行い、資源化している	- 0.0%	- 0.0%	6 85.7%	1 14.3%	
	18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む	2 11.1%	- 0.0%	11 61.1%	5 27.8%	
	19. 事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する	4 26.7%	3 20.0%	7 46.7%	1 6.7%	
	20. 文房具等の消耗品を節約する	5 33.3%	2 13.3%	7 46.7%	1 6.7%	

・「取り組むつもりがない」と回答した事業者の回答理由の多くは、「資金や人材の不足」であるため、人的支援やDXの推進は有効である。

・事業所主催でイベントを開催する事業所が一定数いることから、市と連携してイベントに取り組むことが有効である。

＜調査結果＞					＜考察＞	
<p>■ 資源循環に関する取組</p> <p>➢ ごみ量の把握、分別の徹底等は実施されているが、技術・製品の開発、目標設定や体制の構築といった中長期的な取組の実施率は低い。</p>						
上段:度数 下段: %	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない		
1. ごみ量の把握	103 50.5%	62 30.4%	17 8.3%	22 10.8%		
2. ごみの分別の徹底	142 67.6%	61 29.0%	5 2.4%	2 1.0%		
3. リサイクル（再生利用・再資源化）	114 55.9%	79 38.7%	9 4.4%	2 1.0%		
4. リユース（再使用）	82 40.8%	89 44.3%	22 10.9%	8 4.0%		
5. 環境にやさしい原材料、製品の選択	51 25.2%	93 46.0%	43 21.3%	15 7.4%		
6. プラスチックごみの削減・代替品の検討	50 25.1%	82 41.2%	46 23.1%	21 10.6%		
7. エコマーク品※などの環境に配慮した技術・製品の開発	31 20.3%	39 25.5%	44 28.8%	39 25.5%		
8. 資源循環に向けた短期的または中長期的な目標の設定	33 18.1%	48 26.4%	49 26.9%	52 28.6%		
9. 資源循環に関する取組を推進する体制の構築	34 18.3%	50 26.9%	51 27.4%	51 27.4%		
<p>■ 廃棄物の適正処理に関する取組</p> <p>➢ 社内ルールの設定、従業員への教育等について、実施率は高い。</p>						
上段:度数 下段: %	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない		
1. 社内でごみの減量・分別ルール（事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区分）の設定	144 68.2%	62 29.4%	4 1.9%	1 0.5%		
2. 従業員への教育	101 48.1%	87 41.4%	13 6.2%	9 4.3%		
3. 張り紙等での周知	101 48.8%	72 34.8%	18 8.7%	16 7.7%		
<p>■ 市の取組に対する重要性</p> <p>➢ 市が実施する取組に対しては、重要視している割合が高い。</p>						
上段:度数 下段: %	非常に重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない	
1. 環境問題へ取り組むための指針、ガイドラインの作成	68 32.2%	57 27.0%	71 33.6%	8 3.8%	7 3.3%	
2. 環境保全についての取組事例紹介や情報提供	54 25.5%	73 34.4%	69 32.5%	7 3.3%	9 4.2%	
3. 技術指導・助言を行う環境アドバイザーの紹介や派遣	33 15.6%	57 26.9%	89 42.0%	19 9.0%	14 6.6%	
4. 環境保全のための公的融資や補助金制度等の充実	64 30.2%	69 32.5%	56 26.4%	14 6.6%	9 4.2%	
5. 環境保全のための助成制度の充実	63 29.7%	72 34.0%	56 26.4%	12 5.7%	9 4.2%	
6. 再生可能エネルギーの導入促進エリアの設定	35 16.5%	69 32.5%	80 37.7%	19 9.0%	9 4.2%	
7. 行政、民間企業・団体、住民などと連携するための仕組みづくり	48 22.6%	62 29.2%	82 38.7%	11 5.2%	9 4.2%	
8. 環境問題に関する相談窓口の設置	32 15.1%	67 31.6%	88 41.5%	16 7.5%	9 4.2%	
9. 環境保全への貢献を評価し、市民に紹介する	25 11.8%	57 26.9%	101 47.6%	15 7.1%	14 6.6%	

・技術・製品の開発、目標設定や体制の構築といった中長期的な取組の実施率が低いため、中長期的な目標等を設定した上で、ごみ量の把握や分別の徹底等を実施することにより、より効果的な取組となる。

・社内ルールの設定、従業員への教育等について、実施率は高いことから、内容を把握し、市と連携して実施することが有効である。

・市が実施する取組に対し重要視している割合が高いことから、取組に応じた市と事業者が連携して実施することも市民への働きかけとして有効である。

3 市民へのヒアリング結果

<現状>	<対応>
<p>【対 象】とよた学生もりあげ隊（市内の学生）【実施日】2024年10月4日</p> <p><現状の課題認識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの出しやすさや出し忘れへの対策として、回収場所、頻度を増やしてほしい。 ・プラマークがついていても、汚れている場合はプラスチック製容器包装には捨てられない認識であったが、ある程度汚れていても捨ててよいことは初めて知った。また、値札シールの貼付についても、同様に捨てられない認識であった。プラスチック製容器包装に捨ててよいかの適否をわかりやすくする必要はある。 ・プラスチックの表示について、わかりにくいと感じている。誰にとってもわかりやすいよう、サイズ・デザイン等を工夫するべきである。 <p><情報発信・啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみガイドブックのような冊子で情報提供するのではなく、手軽に、また定期的に見るよう、回覧板を使用するのはどうか。ごみガイドブックは冊子で提供し、市民がわかりにくい部分のみ、改めて周知する形でもよい。 ・豊田市の小学校では、4年生の時に廃棄物処理施設の見学に行くが、それ以降も授業等でごみの話題を扱ってほしい。子どもの理解を通して、家庭への浸透も狙うのはどうか。 ・情報を発信する際は、生活に役立つ知識やあまり知られていない意外な情報等を含めると、興味関心から見てもらいやすいと考える。 	<p>①ごみカレンダーのイラストを増やす、文字を大きくするなどの対応を検討していく。</p> <p>②ごみガイドブックに加え、ポイントを絞った啓発資料の作成等を検討していく。</p>
<p>【対 象】いなぶ地域包括支援センター【実施日】2024年10月8日</p> <p><現状の課題認識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの方は自分で排出しているが、分別区分に沿った分別ができない。特にプラスチックの分別がわかりにくい。 ・ごみ出しの時間に間に合わない話を聞いている。8:30までに持って行くのが難しいため夜間に出している人もいる。当地域は家が散在しており、収集場所も限られていることから、そのような状況が生まれやすいと推測する。 ・ふれあい収集もあるが、利用できる人は限定的であり、その基準にない人へのフォローが必要である。 ・車を持たない人は、ごみを出すことが困難である場合がある。 <p><情報発信・啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の約9割が自治会に所属しているため、多くの人が見る機会はある。 ・「終活に役立つお片付け情報」や「匂わないオムツの捨て方」等、日々の生活に役立つ情報を追加して、ごみ出しに関する講座を行うと、集客が見込めると考えられる。 	<p>①ごみ出しを含めて、高齢者への生活支援の在り方を市全体で検討していく必要がある。</p> <p>②地域包括センター等のある組織や支援体制、講座等と連携しながら進められる取組を検討していく。</p>

<現状>	<対応>
<p>【対 象】トルシーダ（外国人支援団体）【実施日】2024年10月15日</p> <p><現状の課題認識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・粗大ごみを出す際、回収業者に日本語で連絡する点がハードルとなっている。 ・当団体の活動拠点に隣接する団地は住民の入れ替わりが多いため、引越し時のごみが多く発生する。 ・団地では目立たない場所に不法投棄される傾向にある。一方で、勝手に不要品をもらっていく文化もある。 <p><今後の傾向></p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親が外国人で、小さい頃から日本に居住している人は、母国語と日本語能力が共に中途半端になる傾向にあり、今後その人口は増加するだろう。これまで以上に言語や文化に対するサポートが必要である。 ・ごみガイドブックについては、単に翻訳するだけでなくシンプルな構成にする等外国人向けにわかりやすくする必要があると考えている。 ・住民の入れ替わりが多い地域ではルールが徹底が難しいため、通常とは異なるごみ出しのルールを決めることも有効ではないか。 	<p>①単に多言語での啓発資料を準備するのではなく、実態や外国人居住者の文化を踏まえ、対象を絞った効果的な普及啓発の方法・ツールの検討が必要である。</p>
<p>【対 象】つなGO（子育て団体）【実施日】2024年10月22日</p> <p><現状の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルステーションは10:00-18:00と利用可能時間が短く、平日は行くことができない。休日は出かけた帰りでは閉まっていることが多い。利用可能時間の延長、無人の回収場所等を整備できないか。 ・リサイクルステーションには子どもを連れていくこともある。駐車スペースや車の動線等を考慮し、ステーション内の安全性を確保してほしい。 <p><市への要望></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他都市では、子育て支援センターで子ども服のリユースを実施しており、子どもを支援センターで遊ばせたついでに子どもとサイズ合わせができる。子ども支援センター等子どもと一緒に訪問する場所で実施してほしい。 ・小学生以上の子どもが遊べる屋内の場所が限られている。現在、渡刈クリーンセンターの熱を老人福祉施設に供給しているが、屋内プール等のような多くの世代が利用できる施設が望ましい。 ・資源回収をしているスーパーがあり、買い物ついでに利用できる点は便利であるが、市の分別品目をスーパー等で回収できるのが望ましい。 	<p>①様々な立場の市民の利用ニーズに応じたステーションの設置・運用を検討していく。</p> <p>②子育て支援センターなど、子育て世代がよく利用する施設と連携し、ニーズの高い品目に限定してリユース事業を実施することなどを検討していく。</p> <p>③次期施設整備事業の中で、子どもの遊び場という視点も考慮する。</p>
<p>【対 象】足助自治区 【実施日】2024年10月22日</p> <p><現状の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚れたプラスチックの分別において、燃やすごみかプラスチック製容器包装にするか等、分別がわかりにくい。 ・豊田市が設置しているリサイクルステーションは付近にはない。当自治区の小学校にて、古布類、段ボール、新聞紙、雑紙を曜日問わず回収している。 <p><情報発信・啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会への加入率は100%に近い稀であるが、自治会に加入していない世帯については、分別への協力状況がよくない場合がある。市から市民への情報提供に回覧板は有用だと考えるが、加入しない世帯には、回覧板は回らない。 	<p>①ポイントを絞った啓発を検討する。</p> <p>②地域の実態や今後の自治会の在り方も含め、安定的なごみ収集体制を検討していく。</p>

4 事業者へのヒアリング

<現状>	<対応>	<現状>	<対応>
<p>【対 象】トヨタ生協メグリア 【実施日】2024年10月10日</p> <p><廃棄物の発生抑制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗での発生抑制は主に発注によるが、発注で無駄を抑えるのは難しい。クリスマス、節分といった季節のイベントに合わせた食品は予約生産にし、処分量を減らしている。 ・社員への教育としては、アルバイトも含め、分別等の研修を行っているが、徹底することは難しいと感じている。 <p><市との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場が広い店舗等、土地に余裕がある場合は市の回収ボックスを置くなどの連携の可能性はある。実施する場合は、建設当初から検討しておくのが望ましい。 ・宅配サービスのチラシ類に広報を入れることは可能である。しかし、宅配サービスを利用している組合員に届くため、豊田市に限定することは出来ない。 <p><市への要望></p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃プラスチックの処理は、現在高価であるため、事業所から処理出来る場所がほしい。 ・市民に対する生ごみ処理機の補助はあるので、事業者に対する補助も検討していただきたい。 	<p>①市との連携には協力的であるため、まずは、どのような点で従業員の理解に不足があるか把握するなど、実態を把握し、事業者（従業員）への啓発事業の内容を検討する。</p> <p>②市と連携した資源回収が可能な店舗と、その地域での回収ボックスのニーズを調べるなど、連携に向けた検討を進める。</p>	<p>【対 象】豊田市一般廃棄物協同組合 【実施日】2024年10月16日</p> <p><現状の課題認識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧町村地域における小規模事業者（飲食／小売）では、事業系ごみを家庭系ごみとして排出しているように見受けられる。 ・スーパーマーケットでは、特に廃プラスチックの分別状況がよくない。 ・学生寮では、ペットボトルの中にたばこの吸い殻が入れており、家庭系の一般廃棄物として排出されるため、他エリアで収集した事業系一般廃棄物と分けなければならず苦労している。 ・コンビニエンスストアでは、買い物客が家庭系の分別区分に従いごみを捨ててしまう場合や従業員への分別教育が徹底されていない印象もあり、直営・フランチャイズに関係なく分別状況がよくないと感じている。 <p><排出事業者への啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排出事業者から汚れの付いた弁当容器を一般廃棄物として収集したところ、展開検査で産業廃棄物として出すよう持ち帰りの指示を受けたことがある。排出側では、洗う場所がない事業者も存在するため、収集業者としては「汚れを洗い流してください」等の依頼ができない状況である。 ・飲食店等の従業員も普段は家庭でごみを捨てる市民であるため、職場でも家庭系の一般廃棄物の分別区分に従って分けてしまう傾向にある（特に廃プラスチック）。各事業者のごみ担当者への指導だけではなく、現場で働く従業員への啓発が重要と感じている。 ・飲食店の従業員は非常に忙しいため、完璧に分別することはできないとの意見を受けたことがある。 <p><市との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・（参加事業者の一社では）既にDXを実施している。燃料代の削減やルートを把握しきれていない新入社員に対しては有効と考えるが、導入コストがかかるため、現時点で大きな効果は感じていない。検討に向けた意見交換は可能である。 ・補助金を活用できるなど、費用負担の軽減につながるのであればDXを導入検討する。 <p><市への要望></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近では、収集運搬費に対して管理会社が仲介役として代金の支払い等を担うケースが増えているため、排出事業者と直接コミュニケーションを取る機会が減少している。収集運搬業者の立場では排出事業者に対して指導を行うことが難しいため、市から働きかけていただきたい。 ・搬入物検査について見直していただきたい。燃やすごみ3tのうち10kg程度プラスチックが混入していた際に、持ち帰りの指示を受けたことがある。検査で指摘された事項を基に排出事業者へ広報で周知していただきたい。 	<p>①排出事業者（従業員）への普及啓発事業を検討する。</p>

5 中学生へのワークショップ

ワークショップの進め方

事前に Web アンケートを実施し、豊田市のごみ分別区分への理解度<アンケート結果①>を共有した上で、現在の市の取組に感じる課題や正しい分別区分を普及啓発するためのアイデアを考えてもらった。

<ワークショップでの主な意見>

【課題認識】

- ▶ バッテリー等の有害ごみについては、間違った分別を行うと事故につながる可能性があるため、優先的に周知を行う必要があるのではないか。
- ▶ 金属のファスナー付きのカバン（革、布製）といった複数の素材でつくられたごみ、汚れた衣類など、普段日常的に捨てないごみの分別は迷いやすい。
- ▶ 汚れたプラスチック製容器包装について、どの程度洗えばプラスチック資源として排出してよいか分かりやすい目安があるとよい。
- ▶ 資源として回収されたものが、何にリサイクルされるか周知すると、取り組む意義も分かって市民の協力率が高まるのではないか。
- ▶ 資源の日が月 1 回のみであるため、利便性を高めるために回収頻度を増やすとよいのではないか。

【啓発に対する意見】

- ▶ 学校内で分別ルールの普及啓発（クイズを実施する、放送で呼びかけを行う等）やごみ分別の強化週間を設けることで、子どもから各家庭への啓発につながるのではないか。
- ▶ 高齢者等インターネットを使わない層に対する資源・ごみ分別アプリの知名度が低いと考えられるため、新聞や回覧板を用いて周知を行う。
- ▶ 資源・ごみ分別アプリの知名度を向上させるため、テレビ等で広告（CM）を出す。
- ▶ 分別ごみステーションにごみ分別に関するポスターを掲示する。
- ▶ ごみ分別ガイドブックや資源・ごみ分別アプリを活用しない人もいるため、指定ごみ袋に捨ててはいけないものを印字するのはどうか。

<事前アンケート・ワークショップを終えての所感>

- ▶ そもそも中学生は、正しい知識を持っておらず、「知らなかった!」という反応が多かった。
- ▶ 小学四年生で渡刈クリーンセンターの見学に行ったことは覚えていても、それ以降、ごみや資源循環について定期的に触れる機会がないとの意見もあった。
- ▶ ごみや環境に関する授業を日常的に取り入れることは、長期的な視点から自ら考え行動する市民を増やすために有効と考える。短期的な効果として、子どもたちが正しい知識を家庭に持ち帰ることで、子育て世代への普及啓発が期待できる。

<事前アンケート>

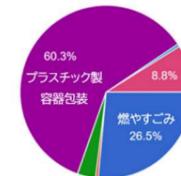
【調査方法】web アンケート 【対象地域】豊田市立逢妻中学校 2 年生 【回収数】204 件

<アンケート結果①>

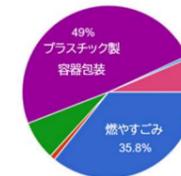
■ 豊田市のごみ分別区分への理解度

- ▶ 写真のように汚れのとれないプラスチック製容器包装は本来「燃やすごみ」であるが、約 60%が「プラスチック製容器包装」と回答している。
- ▶ お菓子の袋は、49%の生徒が「プラスチック製容器包装」と回答したものの、約 36%の生徒が「燃やすごみ」と回答している。
- ▶ 金属を含むプラスチック製品は、「金属ごみ」だが、約 28%が「金属ごみ」、約 25%ずつ「資源ごみ」・「わからない」と回答している。
- ▶ 充電式ハンディファンはバッテリーが搭載されているため、「有害ごみ」だが、約 10%が「資源」、約 25%が「金属ごみ」、約 26%が「埋めるごみ」、約 24%が「わからない」と回答している。
- ▶ 果物の保護ネットは「プラスチック製容器包装」だが、約 44%の生徒が「燃やすごみ」と回答している。

お弁当、パスタの容器



お菓子などの袋



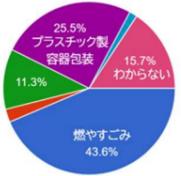
ハンガー



充電式ハンディファン



果物の保護ネット



● 燃やすごみ ● 金属ごみ ● プラスチック製容器包装
● 埋めるごみ ● 資源（資源ステーションまたはリサイクルステーション） ● 有害ごみ ● わからない

<考察>

- ・プラスチック製容器包装の分別における汚れの判断が難しいことが推察される。
- ・お菓子の袋や果物の保護ネット等、比較的汚れが少なく資源として回収出来るものの分別区分が、プラスチック製容器包装であるという認識が低く、子どもの分別意識は家庭環境も大きく関係することを踏まえると、プラスチック製容器包装ごみの回収率が低い理由が伺える。
- ・ハンディファンのようなバッテリーが組み込まれたごみが、燃やすごみや金属ごみとして分別され、収集車や破砕機で火災の原因となる事例が全国でも相次いでおり、正しい分別の知識の周知が不可欠である。

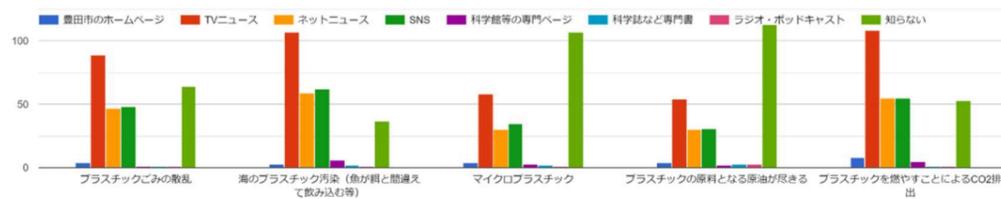
＜アンケート結果②＞

＜考察＞

■ 身の回りの環境問題について

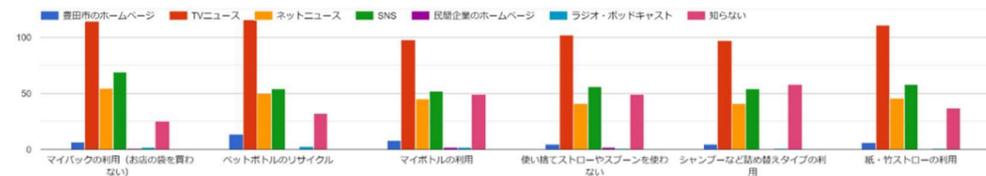
(1) プラスチックの環境問題に関する情報源について

- プラスチックの環境問題に関する情報源は、環境問題の内容によって情報源は異なるものの、テレビニュース、ネットニュース、SNSが多くを占めている。
- 豊田市のホームページは、環境問題の情報源としてはあまり機能していない。
- マイクロプラスチックやプラスチック原料である原油の枯渇など、「取り上げた環境問題そのものを知らない」という回答も多い。



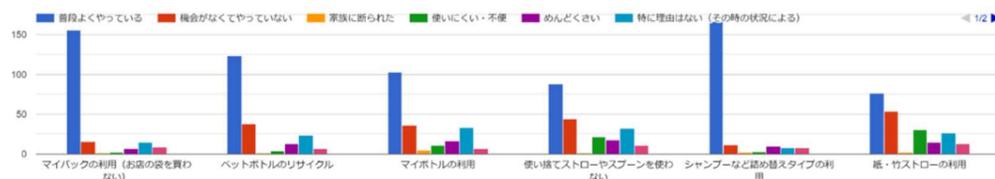
(2) プラスチックごみを減らすための取組に関する情報源

- プラスチックを減らすための取組に関する情報源は、どの項目においてもテレビニュースが最も多い回答数を占めた。次いで、ネットニュースとSNSが多くなっている。
- いずれの項目についても、「知らない」という回答が一定数ある。



(3) 普段実施している取組について

- (2) で回答した取組の中で、普段取り組んでいるものに関する設問については、いずれの項目についても「普段よくやっている」が最も多い。
- 一方で、いずれの項目についても、「機会が無くてやっていない」が次点である。



- ネットニュースやSNSといった情報源は、多くの場合本人の興味関心や、日頃の情報収集に基づくアルゴリズムから表示されるため、多くの生徒が見る機会を得られないのではないかと。
- 分別が分からない品目については、なぜその分別が必要かを説明していくなど、一歩進んだ啓発を行う必要がある。
- プラスチックごみを減らす取組については、テレビ番組で頻繁に取り上げられており、見る機会が多いものの、そもそもなぜ「プラスチックごみを減らす必要があるか」という理解度は低いのではないかと。
- 取組については実施率が高いため、正しい知識を身につけることで資源回収率は向上すると考えられる。また子どもが実践することで家庭内や社会生活にも波及することが考えられる。

各調査結果の抜粋

- 市民アンケート調査の結果
 - ・回答者の約7割の方がリサイクルステーションを積極的に利用し、少しは利用するという回答を含めると約9割の方が日常的に利用している。リサイクルステーションの利用率と分別協力率に乖離が見られる。
- ヒアリング調査等での主な意見
 - ・車を持たない人、特に高齢者にはリサイクルステーションまで持って行く負担が大きい。(いなぶ地域包括支援センター)
 - ・都市部では距離の面での利便性は高いものの、土日には混雑している。(つなGO)
 - ・山村地域ではリサイクルステーションの数が少なく、距離も遠い。排出量も多くないので、紙類や衣類も資源の日に一緒に出せるようになるといい。(いなぶ地域包括支援センター)
- ヒアリング調査等での主な意見
 - ・プラスチック製容器包装の表示・分別について、わかりにくいと感じている。(とよた学生もりあげ隊・足助自治区)
 - ・施設利用者の排出するごみが、分別区分に沿った分別ができない。特にプラスチック製容器包装の分別がわかりにくい。(いなぶ地域包括支援センター)
- 中学生向けアンケートの結果
 - ・プラスチック製容器包装に分別される、お菓子の外袋を「燃やすごみ」と約36%の生徒が回答している。
- ヒアリング調査等での主な意見
 - ・山間部ではリサイクルステーションの数が少なく、距離も遠い。排出量も多くないので、紙類や衣類も資源の日に一緒に出せるようになるといい。(いなぶ地域包括支援センター)(再掲)
 - ・住民の入れ替わりが多い地域ではルール of 徹底が難しいため、通常とは異なるごみ出しのルールを決めることも有効ではないか。(トルシーダ)
- ヒアリング調査等での主な意見
 - ・各地域、市民団体、事業者がそれぞれの地域等で抱える課題等に対して、解決に向けた取組を実施・検討しているが、お互いに連携できる内容であるにも関わらず、市からの支援や市との連携体制が整っていない。(いなぶ地域包括支援センター)
- ヒアリング調査等での主な意見
 - ・ごみガイドブックは情報過多であるため基本的に見ることはない。(つなGO)
 - ・外国人向けの啓発は、資料の単なる翻訳ではなく、やさしい日本語やシンプルな構成等が必要である。(トルシーダ)
 - ・事業者にはアルバイトを含む従業員を対象とした啓発強化が必要である。(トヨタ生協メグリア)

関連する課題

- ▶ ②資源回収に対する市民利便性向上
- ▶ ③ゼロカーボンシティに向けた廃棄物分野の対応強化
- ▶ ④地域特性を踏まえた持続可能な廃棄物処理
- ▶ ⑤他部局/市民団体等との連携強化
- ▶ ⑥情報発信

Ⅱ-1 豊田市一般廃棄物処理基本計画にかかる市民ヒアリング

Ⅱ-1.1 とよた学生もりあげ隊（若年層：18～22歳）

実施日時：2024年10月4日（金）19:00～20:00

Ⅱ-1.1-1 現状の課題認識について

- ・ごみの出しやすさや出し忘れへの対策として、回収場所、頻度を増やしてほしい。
- ・ごみステーションでプラスチック製容器包装を回収していることやステーションの場所等、家庭によっては認知度が低いと考えられるため、情報発信を行うべきである。
- ・プラマークがついていても、汚れている場合はプラスチック製容器包装には捨てられない認識であったが、ある程度汚れていても捨ててよいことは初めて知った。また、値札シールの貼付についても、同様に捨てられない認識であった。プラ製容器包装に捨ててよいかの適否をわかりやすくする必要がある。
- ・プラスチック製容器包装の表示について、わかりにくいと感じている。誰にとってもわかりやすいよう、サイズ・デザイン等を工夫するべきである。

Ⅱ-1.1-2 情報発信・啓発方法について

- ・分別方法についてごみガイドブックに掲載されているが、日常的に見ないため、指定ごみ袋にチラシをいれておくのはどうか。
- ・ごみガイドブックのような冊子で情報提供するのではなく、手軽に、また定期的に見るよう、回覧板を使用するのはどうか。ごみガイドブックは冊子で提供し、市民がわかりにくい部分のみ、改めて周知する形でもよい。
- ・豊田市の小学校では、4年生の時に廃棄物処理施設の見学に行くが、それ以降も授業等でごみの話題を扱ってほしい。子どもの理解を通して、家庭への浸透も狙うのはどうか。
- ・テレビ番組で、ごみの話題を扱うと様々な世代に対して広く情報提供できるのではないか。
- ・情報を発信する際は、生活に役立つ知識やあまり知られていない意外な情報等を含めると、興味関心から見てもらいやすいと考える。

Ⅱ-1.2 いなぶ地域包括センター（A 自治区、高齢者）

実施日時：2024年10月8日（火）14:00～15:00

Ⅱ-1.2-1 現状の課題認識について

（1）当自治区におけるごみの分別について

- ・多くの方は自分で排出しているが、分別区分に沿った分別ができない。特にプラスチック製容器包装の分別がわかりにくい。
- ・資源物を集団回収で回収していることを知らない。
- ・燃やすごみに資源（びん、缶等）を入れて、回収曜日問わず捨てている人がいる。

（2）当自治区におけるごみ出しについて

- ・ごみ出しの時間に間に合わない話を聞いている。8:30 までに持って行くのが難しいため夜間に出している人もいる。当地域は家が散在しており、収集場所も限られていることから、そのような状況が生まれやすいと推測する。
- ・ふれあい収集もあるが、利用できる人は限定的であり、その基準にない人へのフォローが必要。
- ・車を持たない人は、ごみを出すことが困難である場合がある。移動手段として、基幹バス、地域バス、予約デマンドバス、ボランティアタクシーがあり、知り合いで相乗りする等など地域での互助も行っているが、バスやタクシーを使ってごみ出しは行えない。免許証返納を推奨されているが、車を持たない人への支援は足りないと感じている。
- ・高齢世帯では、子どもの帰省時に車を使用してまとまった買い物や粗大ごみの持ち込み等を行う、という話も聞いている。
- ・粗大ごみを片道40分程度かけて藤岡プラントに持って行くこともある。
- ・山村地域は広い庭や納屋があるためごみを自宅に溜め込む人や、昔の習慣から庭や畑で野焼きしてしまう人もいるため、分別区分の周知や資源収集場所「を増加させると共に、ごみ出しそのものを促す必要がある。

（3）包括センターから排出される紙オムツについて

- ・紙オムツは現在燃やすごみの区分で捨てている。ひとり1日当たりの排出量は、パットに加え、要介護度が高ければ3～4枚、通常は1枚程度である。
- ・当施設では、捨てる区分は燃やすごみだが、オムツは分けているため分別区分に追加されたとしても負担が大きく増えることにはならないと考える。ただし、積極的な分別対応のためには、わかりやすく袋の色を変える、福祉関係者は袋の価格が安くなる、ポイントがたまる等インセンティブがあるとよい。

II-1.2-2 情報発信・啓発方法について

- ・当地域の高齢者はテレビ番組や近隣住民同士の口コミが主な情報源である。
- ・地域住民の約9割が自治会に所属しているため、多くの人が見聞板を見る機会はある。
- ・「終活に役立つお片付け情報」や「匂わないオムツの捨て方」等、日々の生活に役立つ情報を追加して、ごみ出しに関する講座を行うと、集客が見込めると考えられる。

II-1.2-3 市との連携可能性について

- ・当センターでの、講座・イベントでは連携可能である。
- ・当地域に若年層は少ないが、アプローチとしてボランティアサークルやこども園、学校、商工会等、若年層が活動している場所へ直接訪問することが有効であると考えられる。
- ・比較的店舗の駐車場は広いと、ドラッグストア等の店舗で資源の回収拠点を置くスペースはあるのではないかと。
- ・介護保険の減免制度の認知度が低いなど、そもそも市の取組の認知度が低い。分別アプリの存在も知らなかった。所管課に限らず、包括センターの関係者会議で紹介してもらえれば、市民への周知の部分の連携できるのではないかと。

II-1.2-4 市への要望

(1) 資源回収について

- ・新聞販売店による古紙回収の実施、民間の無人回収が便利であるが、市の回収資源頻度・回収拠点を増やしてほしい。拠点を増やすのが難しい場合は、移動式リサイクルステーション、ふれあい収集のサブスク等の検討は出来ないかと。
- ・月に一回の資源の日、雑紙や衣類等も集めてほしい。

(2) その他

- ・カバン型コンポストの貸与が渡刈クリーンセンター以外でもやってほしい。興味がある人はいるものの、片道1時間以上かけて渡刈クリーンセンターまで取りに行くのは難しい。
- ・いわゆる認知機能のグレーゾーンの方について、親や友人等支援をしていた人がいなくなった際の対策が必要になるのではないかと。
- ・空き家や現在住んでいても身寄りがない人は、家財も含め家にごみとなるものが溜まっている状況である。今後、これらの片付けを行うと大量にごみが発生すると思われる。

Ⅱ-1.3 トルシーダ（海外からの居住者）

実施日時：2024年10月15日（火）15:00～16:00

Ⅱ-1.3-1 現状の課題認識について

（1）基本情報

- ・支援を行う際の使用言語については、簡単な日本語を基本としている。簡単な日本語が通じない人に対しては、通訳者を付けて利用者の母国語でコミュニケーションをとる。

（2）ごみの分別・ごみ出しについて

- ・粗大ごみを出す際、回収業者に日本語で連絡する必要がある点がハードルとなっている。
- ・当団体の活動拠点に隣接する団地は住民の入れ替わりが多いため、引越し時のごみが多く発生する。
- ・団地では目立たない場所に不法投棄される傾向にある。一方で、不要品を置いておくと、必要な人が持って行くという文化圏出身の人は、勝手に不法投棄された冷蔵庫等の粗大ごみを持っていく場合もある。一部では、事前に Facebook を活用して不要品の受け渡しについてやり取りする人もいるようである。
- ・団地の高層棟は住民数が多いため、ごみステーション1個では足りない。
- ・県営の棟ではごみ置き場の管理を業者が行っていないこともあり、ごみ出しルール等に対する住民の協力状況がよくない。

（3）資源回収について

- ・公営住宅の住民は車を所有していない人が多いため、ステーションまでは徒歩では距離的にも少し遠く、利便性は高くない。
- ・大曽根では NPO 法人が粗大ごみ・新聞雑誌・生ごみ等様々な品目を回収し、ポイントを貯める仕組み（レストラン等で使用できる）となっており、好評と話を伺っており、同じような取組ができるとよいと考えている。
- ・豊田市で運用されているリサイクルステーションやリユース工房は、認知度が低いと思われる。

Ⅱ-1.3-2 情報発信・啓発方法について

- ・現状では、日本語教室やサッカー教室等が主な情報発信場所として有効と考える。
- ・当団地の住民は派遣会社で働くことが多いため、派遣会社の担当者にアプロー

ちすることも有効と考える。

- ・日本語教室ではテーマ学習を行う授業があり、環境に関するテーマを取り上げることもあるため、連携は可能である。

II-1.3-3 市との連携可能性について

- ・子ども食堂などでフードドライブの需要はあると考えるが、受け渡し場所まで取りに行くことがハードルとなっており、その点の支援や負担が少ない仕組みを検討して欲しい。
- ・団地の住民が排出する生ごみから作った堆肥を近所の農園で利用して、地域内での循環を目指している。このような地域個々の取組に対しても行政と連携できるとよい。
- ・過去に自治区、NPO 法人、大学と連携してごみ出しを含めた様々な問題を解決するためのプロジェクトを 3 年間実施したが、住民の理解が得られず上手くいかなかった。プロジェクトを実施する際は、行政との連携が不可欠と感じた。

II-1.3-4 今後の傾向について

- ・両親が外国人で、小さい頃から日本に居住している人は、母国語と日本語能力が共に中途半端になる傾向にあり、今後その人口は増加すると考えている。そのため、これまで以上に言語や文化に対するサポートが必要になっていくと感じている。
- ・ごみガイドブックについては、単に翻訳するだけでなくシンプルな構成にする等外国人向けに分かりやすくする必要があると考えている。
- ・住民の入れ替わりが多い地域ではルール of 徹底が難しいため、通常とは異なるごみ出しのルールを決めることも有効ではないか。

Ⅱ-1.4 つなGO（子育て世代）

実施日時：2024年10月22日（火）9:30～10:30

Ⅱ-1.4-1 現状の課題認識について

（1）ごみの分別・ごみ出しについて

- ・住宅街の道路は幅員が狭いため、パッカー車が朝の子どもの登園時間と重なる混雑時に道を塞ぎ、渋滞することがある。
- ・現在は夫にごみ捨てを任せてもらっているが、育休期間中は自分でごみ捨てを行っていた。子どもが寝ている間等折を見て急いで捨てる必要があり、苦労した。
- ・粗大ごみを渡刈クリーンセンターまで捨てに行ったことがあるが、若干遠かった。
- ・オムツは汚物を除いたうえでオムツ用のごみ箱（蓋付き）に捨てているため、オムツが分別対象になっても手間は変わらない。ただしオムツは必需品であるため、袋が増える分費用が増大することを踏まえ、安価にする、無料で配布する等、考慮してほしい。

（2）発生抑制について

- ・子どもの食べ残しは感染するリスクがあるため、廃棄している。言葉が通じる年齢の場合は、食べる量を事前に聞くことで食べ残しの発生量を最小限に抑えている。

（3）リサイクルステーションについて

- ・リサイクルステーションは10:00-18:00と利用可能時間が短く、平日は行くことができない。休日は出かけた帰りの時間帯では閉まっていることが多い。利用可能時間を延長する、無人の回収場所等を整備する等検討してほしい。資源ステーションも利用しているが、月に一度の回収では、間に合わない。
- ・リサイクルステーションに赴く際は子どもを連れていくこともあるため、駐車スペースや車の動線等を考慮し、ステーション内の安全性を確保してほしい。
- ・都市部はリサイクルステーションが多く設置されているため距離の問題はないが、混雑（特に土日）が気になる。
- ・資源ステーションまでは遠いと感じることはないが、ある資源ステーションで当番していた際、車で捨てに来る人を見かけたことはある。

（4）リユースについて

- ・リユース工房の子ども用品を落札したことがあるが、外観は綺麗で使用感も問

- 題ない。遊具等の子ども用品は人気があり、落札できなかつた経験がある。
- ・PTA が衣服や古紙類を回収しており、学校行事や授業参観等で学校に赴く際に持っていくことがある。売却益の用途については大々的に発信していない。
 - ・下着以外は、リサイクルセンターに持っていくことが多い。子ども用品の交換や回収・販売については、フリーマーケット用アプリに出品する等手間がかかるため、取扱いに苦労する人も多いのではないか。
 - ・他都市では、子育て支援センターで子ども服のリユースを実施しており、子どもを支援センターで遊ばせたついでに子どもとサイズ合わせができる。子ども支援センター等子どもと一緒に訪問する場所で実施してほしい。

II-1.4-2 情報発信・啓発方法について

(1) 豊田市の情報について

- ・豊田市の情報を収集する際は、広報を見ることが多い。急ぎの場合は、ホームページを利用する。
- ・交流館は利用頻度が高いため、そこで市の情報があると目にとまりやすいのではないか。
- ・ごみガイドブックには必要な情報がまとまっていると思うが、冊子で理解するのは難しい、開くのが億劫になる人も多いのではないか。
- ・ごみガイドブックは情報過多であるため基本的に見ることはない。
- ・分別に迷ったときは、ごみガイドブックや豊田市のホームページ等で検索して調べることがある。

(2) その他の情報について

- ・豊田市に限らない情報を収集する際は、インスタグラムを利用する。
- ・学校からの便りや学校行事、子どもの宿題等子どもを通した情報は親に届きやすい。

II-1.4-3 市への要望

- ・小学生以上の子どもが遊べる屋内の場所が限られており、探すのに苦労している。特に昨今の夏は酷暑日が多く、外遊びが危険であるため、屋内施設で遊ばせたい。現在、渡刈クリーンセンターの熱の一部を老人福祉施設に供給しているが、屋内プール等のような多くの世代が利用できる施設が望ましい。
- ・資源回収をしているスーパーがあり、買い物ついでに利用できる点は便利であるが、市と同様の品目を回収していないため、利用しづらい状況である。市の分別品目をスーパー等で回収できるのが望ましい。

Ⅱ-1.5 足助自治区（B自治区、高齢者）

実施日時：2024年10月22日（火）13:30～14:30

Ⅱ-1.5-1 現状の課題認識について

（1）ごみ出しについて

- ・ごみの分別やごみ出しに関して、困っているという声は聞かない。
- ・ごみ出しの時間帯は守られている。収集曜日を間違えてごみを出す人はいるが、多くない。
- ・収集場所までの距離が遠いとの声は聞かない。手押し車でごみを捨てる人は見かけたことがあるが、車でごみ出しに来る人は見かけたことがない。
- ・収集車が回収の際に道を塞ぐこともあるが、住民からの理解は得られているため、苦情は特に聞かない。
- ・粗大ごみについては、渡刈クリーンセンターまでの道が平坦であるため、藤岡プラントより渡刈クリーンセンターに持っていく人の方が多いと推測する。渡刈クリーンセンターまでは距離があるものの、頻度が少ないため不便と感じたことはない。

（2）ごみの分別、資源回収について

- ・汚れたプラスチックの分別において、燃えるごみかプラスチック製容器包装にするか等、分別が分かりにくい。
- ・分別に迷ったときは、ごみ分別ガイドブックを確認するようにしている。
- ・豊田市が設置しているリサイクルステーションは付近にはないが、困っているといった声は聞いていない。月に1度の資源の日に出している。
- ・当自治区の小学校にて、古布類、段ボール、新聞紙、雑紙を回収している。曜日等はきまっておらず、いつでも利用できる。また、子どもがいない人も利用可能である。リサイクルステーションとほぼ同様の機能を果たしているが、距離があり車を使って運べる人しか使わないため、利用者が少ない。なお、販売収益は小学校への寄付としている。

Ⅱ-1.5-2 情報発信・啓発方法について

- ・自治会への加入率は100%に近いため稀であるが、自治会に加入していない世帯については、分別への協力状況がよくない場合がある。市から市民への情報提供に回覧板は有用だと考えるが、加入しない世帯には、回覧板は回らない。
- ・豊田市が運用している空き家情報バンクでなく、不動産の仲介で引っ越した住民に対しては、市の説明が届きにくいと感じている。

- 11月に1か月間祭りがあり、その間は観光協会の管理のもとごみ箱を設置している。ごみ箱の設置箇所が少ないため、ごみ箱以外の場所にごみが捨てられる話は聞いたことがある。この以外の期間において、観光客によるごみの影響等はない。
- 住民への主な情報伝達手段としては、回覧板と広報（チラシ等）の2通りが挙げられる。周知したい情報については、回覧板で伝えるようにしている。

Ⅱ-1.6 豊田市立逢妻中学校（若年層：13、14歳）
実施日時：2024年10月30日（水）14:40～15:30

Ⅱ-1.6-1 現状の課題認識について

（1）ごみ出し・ごみの分別について

- ・バッテリー等の有害ごみについては、間違った分別を行うと事故につながる可能性があるため、優先的に周知を行う必要があるのではないかと。
- ・金属のファスナー付きのカバン（革、布製）といった複数の素材で作られたごみや、普段日常的に捨てないごみの分別は迷いやすい。
- ・汚れた衣類の分別に困ったことがある。
- ・壊れた充電式ハンディファンの廃棄方法が分からなかったため、リサイクルセンターに確認したことがある。

（2）資源回収について

- ・リサイクルステーションの場所が分からない人が一定数いると考えられ、資源回収率向上のためには、場所を周知する取組を強化すべき。
- ・資源・ごみ分別アプリを知っていても利用する人が少ないと思われるため、正しく分別ができたポイントを付与する等、インセンティブのある仕組みを整備するとよい。
- ・弁当・パスタ容器等、汚れたプラスチック製容器包装について、どの程度洗えばプラスチック資源として排出してよいか分かりやすい目安があるとよい。
- ・スーパーマーケットでも資源回収を行っており、市民が日常的に利用するため利用しやすいが、市が回収している品目と異なるため、品目を統一すると、回収率向上につながるのではないかと。
- ・資源の日が月1回のみであるため、利便性を高めるために回収頻度を増やすとよい。
- ・リサイクルされたものが、何にリサイクルされるか周知すると、取り組む意義も分かって市民の協力率が高まるのではないかと。

Ⅱ-1.6-2 啓発方法について

- ・学校内で分別ルールの普及啓発（クイズを実施する、放送で呼びかけを行う等）やごみ分別の強化週間を設けることで、子どもから各家庭への啓発につながるのではないかと。
- ・高齢者等インターネットを使わない層に対する資源・ごみ分別アプリの知名度が低いと考えられるため、新聞や回覧板を用いて周知を行う。
- ・資源・ごみ分別アプリの知名度を向上させるため、テレビ等で広告（CM）を

出す。

- 分別ごみステーションにごみ分別に関するポスターを掲示する。
- ごみ分別ガイドブックや資源・ごみ分別アプリを活用しない人もいるため、指定ごみ袋に捨ててはいけないものを印字するのはどうか。

Ⅱ-2 豊田市一般廃棄物処理基本計画にかかる事業者ヒアリング

Ⅱ-2.1 トヨタ生協メグリア（市内小売店）

実施日時：2024年10月10日（木）13:00～14:00

Ⅱ-2.1-1 廃棄物の発生抑制について

（1）発生抑制の取組状況

- ・店舗での発生抑制は主に発注によるが、発注で無駄を抑えるのは難しい。クリスマス、節分といった季節のイベントに合わせた食品は予約生産にし、処分量を減らしている。

（2）廃棄物発生抑制に向けた社員への教育

- ・社員への教育としては、アルバイトも含め、分別等の研修を行っているが、徹底することは難しいと感じている。

Ⅱ-2.1-2 市との連携可能性について

- ・駐車場が広い店舗等、土地に余裕がある場合は市の回収ボックスを置くなどの連携の可能性はある。実施する場合は、建設当初から検討しておくのが望ましい。
- ・宅配サービスのチラシ類に広報を入れることは可能である。宅配サービスを利用している組合員に届くため、豊田市に限定することは出来ない。

Ⅱ-2.1-3 市への要望

- ・廃プラスチックの処理は、現在高価であるため、事業所から処理出来る場所がほしい。
- ・市民に対する生ごみ処理機の補助はあるので、事業者に対する補助も検討していただきたい。

Ⅱ-2.1-4 その他

- ・小売店では、様々な食品を扱うため、その容器包装も多様である。商品ごとに材質が全部異なるため、材質が統一されればリサイクルはもっと進むのではないか。

Ⅱ-2.2 豊田市一般廃棄物協同組合（一般廃棄物収集運搬事業者）

実施日時：2024年10月16日（水）16:00～17:00

Ⅱ-2.2-1 排出事業者等の分別状況等について

（1）地域や店舗別のごみの分別状況について

- ・旧町村地域における小規模事業者（飲食／小売）では、事業系ごみを家庭系ごみとして排出しているように見受けられる。
- ・スーパーマーケットでは、特に廃プラスチックの分別状況がよくない。
- ・学生寮では、ペットボトルの中にたばこの吸い殻が入れられており、家庭系の一般廃棄物として排出されるため、他エリアで収集した事業系一般廃棄物と分けなければならず苦労している。
- ・コンビニエンスストアでは、買い物客が家庭系の分別区分に従いごみを捨ててしまう場合や、従業員への分別教育が徹底されていない印象もあり、直営・フランチャイズに関係なく分別状況がよくないと感じている。

（2）排出事業者への啓発について

- ・排出事業者から汚れの付いた弁当容器を一般廃棄物として収集したところ、展開検査で産業廃棄物として出すよう持ち帰りの指示を受けたことがある。排出側では、洗う場所がない事業者も存在するため、収集業者としては「汚れを洗い流してください」等の依頼ができない状況である。
- ・飲食店等の従業員も普段は家庭でごみを捨てる市民であるため、職場でも家庭系の一般廃棄物の分別区分に従って分けてしまう傾向にある（特に廃プラスチック）。各事業者のごみ担当者への指導だけではなく、現場で働く従業員への啓発が重要と感じている。
- ・飲食店の従業員は非常に忙しいため、完璧に分別することはできないとの意見を聞いたことがある。

Ⅱ-2.2-2 排出事業者の分別状況を改善に向けて

- ・飲食店等の事業者が開業する際に、運搬許可業者との契約書を提出させる仕組みなどはどうか。
- ・近年は、ごみ処理等をまとめる管理会社がいるため、事業者ではなく、管理会社へアプローチする必要がある。
- ・ごみ減量・リサイクル出前講座を実施することも有効と考える。

Ⅱ-2.2-3 市との連携について

（1）DX化について

- ・(参加事業者の一社では) 既に実施している。燃料代の削減やルートを把握できていない新入社員に対しては有効と考えるが、導入コストがかかるため、現時点で大きな効果は感じていない。検討に向けた意見交換は可能である。
- ・補助金を活用できるなど、費用負担の軽減につながるのであれば導入検討する。

(2) その他

- ・市が搬入物検査に立ち会うのであれば、同席することが可能である。

II-2.2-4 市への要望

(1) 排出事業者への啓発について

- ・最近では、管理会社が仲介役として代金の支払い等を担うケースが増えているため、排出事業者と直接コミュニケーションを取る機会が減少している。収集運搬業者の立場では排出事業者に対して指導を行うことが難しいため、市から働きかけていただきたい。
- ・搬入物検査について見直していただきたい。燃やすごみ3 tのうち10 kg程度プラスチックが混入していた際に、持ち帰りの指示を受けたことがある。検査で指摘された事項を基に排出事業者に広報で周知していただきたい。

(2) その他

- ・事業者から排出されるプラスチック類について、きれいなプラスチック類と汚れたプラスチック類の量を把握して、分別区分の見直しを検討していただきたい。
- ・産業廃棄物や排出事業者について、市民に周知していただきたい。
- ・現状廃プラスチックとその他のごみ袋を一緒に積載できないため、廃プラスチックを収集するために2周せざるを得ない状況となっている。網付きのパッカー車の購入に補助金を付けていただきたい。

Ⅲ 基本計画に係る豊田市の環境に関する市民・事業者アンケート

Ⅲ-1 基本計画に係る豊田市の環境に関する市民アンケート（ごみ処理・資源循環に関連するものを抜粋）

Ⅲ-1.1 一廃計画に係るアンケート部分の単純集計及びクロス集計

【問2】日々の生活における環境に配慮した行動について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない
ごみの分別や減量	1. 計画的な買い物や手前どり、食べ残しをしないなどで食品ロスを減らす	340 37.5%	483 53.3%	79 8.7%	5 0.6%
	2. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用品になったものを譲渡・販売する	87 9.6%	232 25.7%	346 38.3%	239 26.4%
	3. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する	69 7.7%	251 27.9%	338 37.6%	241 26.8%
	4. スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む	438 48.6%	272 30.2%	139 15.4%	52 5.8%
	5. 常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している	644 71.0%	170 18.7%	65 7.2%	28 3.1%
	6. マイボトルを持ち歩く	437 48.4%	261 28.9%	140 15.5%	65 7.2%
	7. エコバッグを持ち歩く	733 80.9%	122 13.5%	37 4.1%	14 1.5%
	8. 衣類、家具等を長く使う	665 73.5%	213 23.5%	25 2.8%	2 0.2%
	9. 豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる	314 34.6%	390 43.0%	177 19.5%	26 2.9%
	10. 油や調理くずは排水に流さないようにする	669 73.8%	189 20.8%	45 5.0%	4 0.4%

上段:度数 下段: %		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない
環境学習	18. 環境学習講座や自然観察会の情報を収集する	14 1.6%	104 11.7%	343 38.5%	430 48.3%
	19. 環境学習講座や自然観察会に参加する	10 1.1%	65 7.3%	313 35.0%	506 56.6%
	20. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や知人と話す	76 8.5%	402 45.0%	318 35.6%	97 10.9%

また、「4.まったく取り組んでいない」を回答された場合は、その理由を下表の【理由の選択肢】のア～サから1つ選んで、記入してください。

上段:度数 下段: %		そのような取組は大切だと思わない	そのような取組は行うのがめんどい	どのように取り組めばよいか分からない	取り組む機会がない	取り組むための時間がない	経済的な負担が増加する(お金がかかる)	一緒に協力して活動できる仲間や団体がない	そのような取組をする自分の生活の快適さを損なうと思う	自分だけ取り組んでも意味がない	取組の方法について相談できる窓口がない	その他
ごみの分別や減量	1. 計画的な買い物や手前どり、食べ残しをしないなどで食品ロスを減らす	1	-	-	-	-	1	-	2	-	-	1
		20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	2. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用品になったものを譲渡・販売する	5	48	51	80	20	1	8	5	-	6	14
		2.1%	20.2%	21.4%	33.6%	8.4%	0.4%	3.4%	2.1%	0.0%	2.5%	5.9%
	3. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する	9	28	39	83	11	7	12	14	1	5	31
		3.8%	11.7%	16.3%	34.6%	4.6%	2.9%	5.0%	5.8%	0.4%	2.1%	12.9%
	4. スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む	-	5	9	24	5	2	-	-	1	1	5
		0.0%	9.6%	17.3%	46.2%	9.6%	3.8%	0.0%	0.0%	1.9%	1.9%	9.6%
	5. 常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している	1	4	4	10	1	-	1	-	-	1	5
		3.7%	14.8%	14.8%	37.0%	3.7%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	3.7%	18.5%
6. マイボトルを持ち歩く	7	20	2	18	1	2	-	5	-	-	9	
	10.9%	31.3%	3.1%	28.1%	1.6%	3.1%	0.0%	7.8%	0.0%	0.0%	14.1%	
7. エコバッグを持ち歩く	4	5	2	-	-	-	-	1	-	-	2	
	28.6%	35.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	14.3%	
8. 衣類、家具等を長く使う	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
9. 豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる	-	3	2	6	-	7	2	2	-	1	5	
	0.0%	10.7%	7.1%	21.4%	0.0%	25.0%	7.1%	7.1%	0.0%	3.6%	17.9%	
10. 油や調理くずは排水に流さないようにする	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1
	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	

上段:度数 下段: %		そのような取組は大切だと思わない	そのような取組は行うのがめんどい	どのように取り組めばよいか分からない	取り組む機会がない	取り組むための時間がない	経済的な負担が増加する(お金がかかる)	一緒に協力して活動できる仲間や団体がない	そのような取組をする自分の生活の快適さを損なうと思う	自分だけ取り組んでも意味がない	取組の方法について相談できる窓口がない	その他
環境学習	18. 環境学習講座や自然観察会の情報を収集する	11	27	41	229	42	-	7	3	4	5	59
		2.6%	6.3%	9.6%	53.5%	9.8%	0.0%	1.6%	0.7%	0.9%	1.2%	13.8%
	19. 環境学習講座や自然観察会に参加する	14	38	39	252	78	4	9	2	4	3	62
	2.8%	7.5%	7.7%	49.9%	15.4%	0.8%	1.8%	0.4%	0.8%	0.6%	12.3%	
20. ニュースで話題になった環境問題などについて、家族や知人と話す	7	5	8	50	4	-	2	-	5	-	15	
	7.3%	5.2%	8.3%	52.1%	4.2%	0.0%	2.1%	0.0%	5.2%	0.0%	15.6%	

年齢別に見る【問2】の結果は、以下に示すとおりである。

		問2 環境に配慮した行動の取組状況									
		ごみの分別や減量									
全体		1. 計画的な買い物や手前どり、食べ残しをしないなどで食品ロスを減らす		2. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、自分には不用品になったものを譲渡・販売する		3. フリーマーケットやリユースショップ、フリマサイトなどを利用して、リユース品を購入する		4. スーパーマーケットなどでの資源の店頭回収や地域の集団回収に取り組む		5. 常設で資源を回収する「リサイクルステーション」を利用している	
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問1 4 年齢	1. 10歳代 (n=15)	86.7%	13.3%	33.3%	66.7%	40.0%	60.0%	60.0%	40.0%	80.0%	20.0%
	2. 20歳代 (n=69)	91.3%	8.7%	47.8%	52.2%	47.8%	71.0%	29.0%	87.0%	13.0%	
	3. 30歳代 (n=80)	88.6%	11.4%	50.6%	49.4%	48.1%	51.9%	78.5%	21.5%	91.0%	9.0%
	4. 40歳代 (n=132)	91.7%	8.3%	50.0%	50.0%	50.8%	49.2%	83.3%	16.7%	92.4%	7.6%
	5. 50歳代 (n=171)	90.6%	9.4%	39.2%	60.8%	36.3%	63.7%	85.2%	14.8%	91.8%	8.2%
	6. 60歳代 (n=156)	88.9%	11.1%	34.8%	65.2%	34.4%	65.6%	78.6%	21.4%	95.5%	4.5%
	7. 70歳代 (n=181)	91.6%	8.4%	21.5%	78.5%	21.7%	78.3%	76.8%	23.2%	86.0%	14.0%
	8. 80歳代以上 (n=104)	92.2%	7.8%	16.0%	84.0%	19.4%	80.6%	74.0%	26.0%	82.5%	17.5%

		問2 環境に配慮した行動の取組状況									
		ごみの分別や減量									
全体		6. マイボトルを持ち歩く		7. エコバッグを持ち歩く		8. 衣類、家具等を長く使う		9. 豊田市やその近郊でとれた野菜やお肉などの食材を食べる		10. 油や調理くずは排水に流さないようにする	
		取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいる	取り組んでいない
問1 4 年齢	1. 10歳代 (n=15)	66.7%	33.3%	93.3%	6.7%	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%	93.3%	6.7%
	2. 20歳代 (n=69)	73.9%	26.1%	88.4%	11.6%	95.7%	4.3%	58.0%	42.0%	94.1%	5.9%
	3. 30歳代 (n=80)	74.7%	25.3%	94.9%	5.1%	96.2%	3.8%	73.4%	26.6%	92.4%	7.6%
	4. 40歳代 (n=132)	81.8%	18.2%	93.2%	6.8%	96.2%	3.8%	72.0%	28.0%	91.7%	8.3%
	5. 50歳代 (n=171)	73.7%	26.3%	97.1%	2.9%	97.7%	2.3%	78.9%	21.1%	95.3%	4.7%
	6. 60歳代 (n=156)	78.7%	21.3%	94.2%	5.8%	98.7%	1.3%	78.7%	21.3%	95.5%	4.5%
	7. 70歳代 (n=181)	76.0%	24.0%	95.5%	4.5%	96.0%	4.0%	85.3%	14.7%	96.1%	3.9%
	8. 80歳代以上 (n=104)	83.2%	16.8%	93.1%	6.9%	97.1%	2.9%	88.3%	11.7%	95.1%	4.9%

【問 10】ごみに関する市からの情報について、どのような方法で入手したいと思いますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

	割合
1. 広報とよた	69.0%
3. ごみ分別カレンダー	61.4%
2. 地域の回覧板	57.4%
7. 市のホームページ	20.8%
5. 分別アプリ	19.1%
8. 公共施設等の掲示物	7.6%
10. SNS	7.0%
9. アパート・マンションの掲示物	6.6%
6. 子どもから（学校等で知った情報や配布物）	2.9%
4. 環境学習施設・出前講座	2.9%
11. その他（ ）	2.9%

年齢別にみる【問 10】の結果は、以下に示すとおりである。

		問10 ごみに関する情報入手方法										
		1. 広報とよた	2. 地域の回覧板	3. ごみ分別カレンダー	4. 環境学習施設・出前講座	5. 分別アプリ	6. 子どもから（学校等で知った情報や配布物）	7. 市のホームページ	8. 公共施設等の掲示物	9. アパート・マンションの掲示物	10. SNS	11. その他（ ）
問 1 4 年 齢	1. 10歳代	21.9%	25.0%	34.4%	0.0%	3.1%	0.0%	9.4%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%
	2. 20歳代	23.8%	23.0%	25.4%	0.8%	8.7%	1.6%	7.9%	2.4%	1.6%	4.0%	0.8%
	3. 30歳代	22.8%	21.2%	22.8%	0.0%	11.4%	3.3%	9.2%	1.6%	1.1%	5.4%	1.1%
	4. 40歳代	28.9%	24.7%	23.7%	0.3%	8.2%	1.0%	6.2%	2.1%	2.1%	2.1%	0.7%
	5. 50歳代	30.3%	21.0%	20.3%	1.2%	7.8%	0.9%	7.1%	3.1%	4.7%	3.3%	0.2%
	6. 60歳代	26.9%	21.3%	25.3%	1.4%	6.5%	0.9%	10.9%	1.9%	3.9%	0.9%	0.0%
	7. 70歳代	26.6%	23.0%	24.8%	1.4%	7.0%	0.8%	8.4%	3.4%	1.8%	2.8%	0.0%
	8. 80歳代以上	26.0%	23.3%	25.0%	2.1%	6.3%	1.0%	6.6%	6.3%	1.0%	2.4%	0.0%

【問 11】ごみの減量・資源化に関する取組で日頃から取り組んでいることは何ですか。

上段:度数 下段: %	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する	110 12.2%	160 17.8%	197 21.9%	431 48.0%
2. 販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する	379 42.1%	313 34.7%	93 10.3%	116 12.9%
3. 自治区や子ども会等が実施している、集団回収を利用する	323 35.8%	309 34.3%	125 13.9%	144 16.0%
4. 市が実施している「リユース工房」、「リユーススポット」を利用する	83 9.3%	140 15.7%	293 32.9%	375 42.1%
5. 資源・ごみ分別webアプリ(さんあ〜) ※等を用いてごみに関する情報を得る ※豊田市がスマートフォンやタブレット端末向けに配信しているアプリ	142 15.9%	132 14.8%	274 30.8%	343 38.5%
6. 環境学習施設eco-Tや出前講座等による環境学習に参加する	13 1.5%	63 7.1%	236 26.4%	581 65.1%
7. ごみの排出量を削減する	249 27.5%	451 49.9%	137 15.2%	67 7.4%
8. 適正なごみの分別をする	632 69.9%	229 25.3%	31 3.4%	12 1.3%

居住地区別に見る【問 11】の取組状況は、以下に示すとおりである。

	全体	1. コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する				2. 販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する				3. 自治区や子ども会等が実施している、集団回収を利用する				4. 市が実施している「リユース工房」、「リユーススポット」を利用する			
		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
問17 居住地区	1. 茅母 (n=202)	12.5%	17.5%	22.0%	48.0%	41.2%	39.2%	9.0%	10.6%	30.5%	36.5%	15.0%	18.0%	9.1%	17.2%	34.3%	39.4%
	2. 高橋 (n=88)	12.8%	16.3%	29.1%	41.9%	47.1%	26.4%	10.3%	16.1%	47.1%	25.9%	12.9%	14.1%	13.3%	13.3%	37.3%	36.1%
	3. 上郷 (n=74)	12.3%	13.7%	17.8%	56.2%	42.5%	37.0%	6.8%	13.7%	33.8%	33.8%	16.2%	16.2%	15.1%	13.7%	37.0%	34.2%
	4. 高岡 (n=149)	9.5%	17.7%	21.1%	51.7%	45.9%	29.7%	13.5%	10.8%	39.2%	35.8%	11.5%	13.5%	5.4%	15.6%	29.9%	49.0%
	5. 接投 (n=105)	5.9%	17.6%	24.5%	52.0%	45.2%	34.6%	7.7%	12.5%	37.9%	42.7%	9.7%	9.7%	5.9%	19.6%	29.4%	45.1%
	6. 松平 (n=37)	19.4%	16.7%	22.2%	41.7%	42.9%	37.1%	8.6%	11.4%	36.1%	38.9%	11.1%	13.9%	5.7%	22.9%	28.6%	42.9%
	7. 藤岡 (n=43)	11.9%	16.7%	14.3%	57.1%	34.9%	41.9%	4.7%	18.6%	27.9%	41.9%	9.3%	20.9%	14.0%	7.0%	34.9%	44.2%
	8. 小原 (n=11)	36.4%	9.1%	9.1%	45.5%	36.4%	9.1%	36.4%	18.2%	54.5%	27.3%	18.2%	0.0%	9.1%	18.2%	9.1%	63.6%
	9. 足助 (n=14)	35.7%	35.7%	14.3%	14.3%	35.7%	42.9%	7.1%	14.3%	57.1%	21.4%	7.1%	14.3%	14.3%	14.3%	35.7%	35.7%
	10. 下山 (n=16)	12.5%	12.5%	62.5%	25.0%	25.0%	37.5%	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	31.3%	18.8%	6.3%	0.0%	18.8%	75.0%
	11. 旭 (n=5)	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%
	12. 稲武 (n=10)	30.0%	30.0%	30.0%	10.0%	50.0%	40.0%	0.0%	10.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	22.2%	33.3%	11.1%	33.3%
	13. 地区が分からない (n=81)	11.1%	14.8%	22.2%	51.9%	33.3%	38.3%	12.3%	16.0%	19.8%	29.6%	17.3%	33.3%	6.2%	16.0%	30.9%	46.9%

	全体	5. 資源・ごみ分別webアプリ(さんあ〜) ※等を用いてごみに関する情報を得る ※豊田市がスマートフォンやタブレット端末向けに配信しているアプリ				6. 環境学習施設eco-Tや出前講座等による環境学習に参加する				7. ごみの排出量を削減する				8. 適正なごみの分別をする			
		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
問17 居住地区	1. 茅母 (n=202)	16.6%	14.1%	31.2%	38.2%	1.0%	7.5%	23.5%	68.0%	27.2%	54.5%	13.4%	5.0%	71.8%	25.7%	1.5%	1.0%
	2. 高橋 (n=88)	16.5%	11.8%	29.4%	42.4%	1.2%	4.8%	32.1%	61.9%	31.4%	40.7%	17.4%	10.5%	69.0%	23.0%	5.7%	2.3%
	3. 上郷 (n=74)	13.7%	12.3%	43.8%	30.1%	1.4%	6.8%	34.2%	57.5%	21.6%	58.1%	12.2%	8.1%	67.6%	28.4%	4.1%	0.0%
	4. 高岡 (n=149)	17.2%	15.2%	24.8%	42.8%	2.0%	6.8%	22.4%	68.7%	21.6%	52.0%	17.6%	8.8%	77.4%	18.5%	2.7%	1.4%
	5. 接投 (n=105)	17.5%	15.5%	32.0%	35.0%	1.0%	5.8%	28.2%	65.0%	29.1%	51.5%	14.6%	4.9%	66.3%	29.8%	3.8%	0.0%
	6. 松平 (n=37)	8.3%	19.4%	33.3%	38.9%	0.0%	8.3%	30.6%	61.1%	32.4%	45.9%	16.2%	5.4%	56.8%	37.8%	2.7%	2.7%
	7. 藤岡 (n=43)	18.6%	16.3%	34.9%	30.2%	2.4%	4.8%	31.0%	61.9%	28.6%	57.1%	7.1%	7.1%	76.2%	19.0%	0.0%	4.8%
	8. 小原 (n=11)	9.1%	27.3%	9.1%	54.5%	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%	27.3%	45.5%	18.2%	9.1%	81.8%	18.2%	0.0%	0.0%
	9. 足助 (n=14)	7.1%	7.1%	35.7%	50.0%	0.0%	21.4%	21.4%	57.1%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	64.3%	28.6%	7.1%	0.0%
	10. 下山 (n=16)	18.8%	6.3%	31.3%	43.8%	6.3%	6.3%	12.5%	75.0%	12.5%	43.8%	37.5%	6.3%	56.3%	37.5%	0.0%	6.3%
	11. 旭 (n=5)	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	12. 稲武 (n=10)	22.2%	44.4%	11.1%	22.2%	10.0%	10.0%	20.0%	60.0%	40.0%	50.0%	0.0%	10.0%	70.0%	20.0%	10.0%	0.0%
	13. 地区が分からない (n=81)	19.8%	14.8%	25.9%	39.5%	2.5%	8.6%	21.0%	67.9%	28.4%	44.4%	14.8%	12.3%	60.5%	34.6%	2.5%	2.5%

年齢別にみる【問 11】の取組状況は、以下に示すとおりである。

		問11 ごみに関する取組状況																
		1. コンポストや生ごみ処理機等を利用して、生ごみの資源化・減量を実施する				2. 販売店でのペットボトル、トレー、小型家電等の回収を利用する				3. 自治区や子ども会等が実施している、集団回収を利用する				4. 市が実施している「リユース工房」/「リユーススポット」を利用する				
		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	
問 1 4 年 齢	1. 10歳代	(n=15)	13.3%	33.3%	26.7%	26.7%	26.7%	40.0%	26.7%	6.7%	33.3%	46.7%	13.3%	6.7%	0.0%	20.0%	46.7%	33.3%
	2. 20歳代	(n=70)	11.4%	15.7%	24.3%	48.6%	38.6%	30.0%	12.9%	18.6%	28.6%	30.0%	21.4%	20.0%	12.9%	14.3%	25.7%	47.1%
	3. 30歳代	(n=80)	3.8%	20.0%	27.5%	48.8%	31.3%	43.8%	17.5%	7.5%	20.0%	37.5%	21.3%	21.3%	7.5%	16.3%	33.8%	42.5%
	4. 40歳代	(n=132)	9.1%	11.4%	21.2%	57.6%	33.3%	39.4%	12.9%	12.9%	31.1%	34.1%	17.4%	16.7%	6.1%	15.9%	25.8%	51.5%
	5. 50歳代	(n=171)	7.6%	13.5%	24.0%	55.0%	45.0%	35.1%	8.2%	11.7%	32.7%	39.8%	11.1%	16.4%	11.7%	12.3%	36.8%	39.2%
	6. 60歳代	(n=156)	11.5%	17.9%	17.9%	52.6%	45.5%	31.4%	8.3%	14.7%	36.5%	32.7%	12.2%	17.9%	12.8%	15.4%	34.6%	36.5%
	7. 70歳代	(n=181)	14.4%	21.5%	22.7%	39.8%	43.1%	33.7%	8.3%	13.3%	39.8%	33.7%	13.3%	12.2%	6.6%	16.6%	33.1%	40.3%
	8. 80歳代以上	(n=104)	26.9%	20.2%	16.3%	26.9%	49.0%	26.9%	7.7%	10.6%	51.9%	24.0%	6.7%	10.6%	6.7%	16.3%	27.9%	36.5%

		問11 ごみに関する取組状況																
		5. 資源・ごみ分別webアプリ（さんあ〜る）※等を用いてごみに関する情報を得る※豊田市がスマートフォンやタブレット端末向けに配信しているアプリ				6. 環境学習施設eco-Tや出前講座等による環境学習に参加する				7. ごみの排出量を削減する				8. 適正なごみの分別をする				
		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	
問 1 4 年 齢	1. 10歳代	(n=15)	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	13.3%	20.0%	66.7%	26.7%	53.3%	20.0%	0.0%	46.7%	40.0%	13.3%	0.0%
	2. 20歳代	(n=70)	14.3%	14.3%	27.1%	44.3%	1.4%	4.3%	22.9%	71.4%	28.6%	40.0%	18.6%	12.9%	60.0%	32.9%	4.3%	2.9%
	3. 30歳代	(n=80)	20.0%	15.0%	30.0%	35.0%	1.3%	11.3%	25.0%	62.5%	15.0%	60.0%	13.8%	11.3%	57.5%	33.8%	2.5%	6.3%
	4. 40歳代	(n=132)	27.3%	18.2%	20.5%	33.3%	1.5%	6.1%	19.7%	72.0%	21.2%	55.3%	12.1%	10.6%	64.4%	31.1%	3.8%	0.0%
	5. 50歳代	(n=171)	14.0%	12.9%	40.9%	32.2%	1.8%	4.7%	29.2%	64.3%	25.7%	51.5%	18.7%	4.1%	70.2%	26.3%	2.9%	0.6%
	6. 60歳代	(n=156)	10.9%	15.4%	37.2%	35.3%	1.9%	5.8%	27.6%	62.2%	27.6%	47.4%	17.3%	7.7%	74.4%	21.8%	2.6%	1.3%
	7. 70歳代	(n=181)	12.7%	13.3%	28.2%	42.5%	0.0%	7.2%	28.2%	63.0%	29.3%	50.8%	12.7%	6.1%	76.2%	19.3%	3.3%	0.6%
	8. 80歳代以上	(n=104)	15.4%	15.4%	19.2%	38.5%	2.9%	10.6%	26.0%	50.0%	43.3%	35.6%	11.5%	4.8%	71.2%	18.3%	3.8%	1.0%

【問 12】市の環境への取組について、どの程度満足していますか。また、今後の取組としてはどの程度重要だと思えますか。

【満足度】上段:度数 下段: %	非常に満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	非常に不満
5. ごみの減量、リサイクルの推進	86	379	361	55	12
	9.6%	42.4%	40.4%	6.2%	1.3%
6. 廃棄物の適正処理や不法投棄の防止	47	251	444	110	31
	5.3%	28.4%	50.3%	12.5%	3.5%
13. 環境教育や人づくり	34	203	561	69	18
	3.8%	22.9%	63.4%	7.8%	2.0%
14. 環境配慮行動を实践しようとする 市民・事業者への支援	32	152	622	66	10
	3.6%	17.2%	70.5%	7.5%	1.1%
15. 環境に関する情報提供の推進	28	171	603	66	15
	3.2%	19.4%	68.3%	7.5%	1.7%

Ⅲ-2 基本計画に係る豊田市の環境に関する事業者アンケート（ごみ処理・資源循環に関連するものを抜粋）

【問1】貴事業所における環境に関連する取組状況について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

上段:度数 下段: %		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないがこれから取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	該当しない
環境教育	1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う	63 29.9%	86 40.8%	11 5.2%	38 18.0%	13 6.2%
	2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する	15 7.1%	25 11.8%	17 8.1%	100 47.4%	54 25.6%
	3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う	17 8.1%	17 8.1%	14 6.6%	93 44.1%	70 33.2%

上段:度数 下段: %		積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないがこれから取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない	該当しない
ごみの減量	16. ペーパーレス化を推進する	94 44.1%	103 48.4%	10 4.7%	4 1.9%	2 0.9%
	17. 古紙分別を行い、資源化している	118 55.4%	77 36.2%	3 1.4%	4 1.9%	11 5.2%
	18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む	44 20.7%	62 29.1%	8 3.8%	13 6.1%	86 40.4%
	19. 事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する	59 27.7%	89 41.8%	4 1.9%	13 6.1%	48 22.5%
	20. 文房具等の消耗品を節約する	77 36.2%	114 53.5%	6 2.8%	11 5.2%	5 2.3%

上段:度数 下段: %		特に取り組む必要性を感じないから	一事業所として取り組んでも大きな効果はないと考えるから	必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない	環境への取組と事業活動には関連がないため
環境教育	1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う	4 8.2%	1 2.0%	38 77.6%	6 12.2%
	2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する	10 8.8%	4 3.5%	86 75.4%	14 12.3%
	3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う	12 11.5%	4 3.8%	76 73.1%	12 11.5%

上段:度数 下段: %		特に取り組む必要性は感じないから	一事業所として取り組んでも大きな効果はないと考えるから	必要性は感じるが、資金や人材等を投入してまで取り組むことができない	環境への取組と事業活動には関連がないため
ごみの減量	16. ペーパーレス化を推進する	1 8.3%	- 0.0%	11 91.7%	- 0.0%
	17. 古紙分別を行い、資源化している	- 0.0%	- 0.0%	6 85.7%	1 14.3%
	18. 自社で取り扱う製品などの簡易包装化に取り組む	2 11.1%	- 0.0%	11 61.1%	5 27.8%
	19. 事務所内で発生する食べ残しや調理くずなどの食品ごみを削減する	4 26.7%	3 20.0%	7 46.7%	1 6.7%
	20. 文房具等の消耗品を節約する	5 33.3%	2 13.3%	7 46.7%	1 6.7%

業種別に見る【問1】の取組状況は、以下に示すとおりである。

		問1 環境に関連する取組状況									
		環境教育									
		1. 従業員に対して職場や家庭での環境配慮行動について教育や実施の働きかけを行う				2. 事業所主催で一般向けの環境学習講座やイベントなどを開催する		3. 小中学校から環境学習の受け入れなどを行う			
		合計		取り組んでいる		取り組んでいない		取り組んでいる		取り組んでいない	
問1 2 業 種	1. 農業、林業、漁業	(n=4)	100.0%	0.0%	66.7%	33.3%	100.0%	0.0%			
	2. 建設業	(n=33)	74.2%	25.8%	21.7%	78.3%	5.3%	94.7%			
	3. 鉱業、採石業、砂利採取業	(n=1)	100.0%	0.0%	-	-	-	-			
	4. 製造業	(n=49)	93.6%	6.4%	31.7%	68.3%	20.0%	80.0%			
	5. 電気・ガス・熱供給・水道業	(n=2)	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%			
	6. 情報通信業	(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%			
	7. 運輸業・郵便業	(n=6)	66.7%	33.3%	40.0%	60.0%	20.0%	80.0%			
	8. 卸売業・小売業	(n=27)	76.0%	24.0%	15.0%	85.0%	26.3%	73.7%			
	9. 金融業・保険業	(n=0)	-	-	-	-	-	-			
	10. 不動産業、物品賃貸業	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%			
	11. 宿泊業・飲食サービス業	(n=12)	80.0%	20.0%	20.0%	80.0%	50.0%	50.0%			
	12. その他サービス業	(n=29)	65.4%	34.6%	22.2%	77.8%	43.8%	56.3%			
	13. 教育、学習支援業	(n=10)	90.0%	10.0%	33.3%	66.7%	22.2%	77.8%			
	14. 医療・福祉	(n=26)	45.8%	54.2%	5.9%	94.1%	6.3%	93.8%			
	15. その他 ()	(n=12)	50.0%	50.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%			

【問8】貴事業所では、資源循環に関連してどのような取組を行っていますか。

上段:度数 下段: %	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. ごみの量の把握	103 50.5%	62 30.4%	17 8.3%	22 10.8%
2. ごみの分別の徹底	142 67.6%	61 29.0%	5 2.4%	2 1.0%
3. リサイクル（再生利用・再資源化）	114 55.9%	79 38.7%	9 4.4%	2 1.0%
4. リユース（再使用）	82 40.8%	89 44.3%	22 10.9%	8 4.0%
5. 環境にやさしい原材料、製品の選択	51 25.2%	93 46.0%	43 21.3%	15 7.4%
6. プラスチックごみの削減・代替品の検討	50 25.1%	82 41.2%	46 23.1%	21 10.6%
7. エコマーク品※などの環境に配慮した技術・製品の開発	31 20.3%	39 25.5%	44 28.8%	39 25.5%
8. 資源循環に向けた短期的または中長期的な目標の設定	33 18.1%	48 26.4%	49 26.9%	52 28.6%
9. 資源循環に関連する取組を推進する体制の構築	34 18.3%	50 26.9%	51 27.4%	51 27.4%

【問9】貴事業所では、廃棄物の適正処理に関連してどのような取組を行っていますか。

上段:度数 下段: %	積極的に取り組んでいる	少し取り組んでいる	取り組んでいないが、今後取り組むつもりである	今のところ取り組むつもりはない
1. 社内でごみの減量・分別ルール（事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区分）の設定	144 68.2%	62 29.4%	4 1.9%	1 0.5%
2. 従業員への教育	101 48.1%	87 41.4%	13 6.2%	9 4.3%
3. 張り紙等での周知	101 48.8%	72 34.8%	18 8.7%	16 7.7%

【問 10】環境保全に関して市が更に進める必要がある対策について、貴事業所はどの程度重要だと考えますか。

上段:度数 下段: %	非常に重要	やや重要	普通	あまり重要でない	重要でない
1. 環境問題へ取り組むための指針、ガイドラインの作成	68 32.2%	57 27.0%	71 33.6%	8 3.8%	7 3.3%
2. 環境保全についての取組事例紹介や情報提供	54 25.5%	73 34.4%	69 32.5%	7 3.3%	9 4.2%
3. 技術指導・助言を行う環境アドバイザーの紹介や派遣	33 15.6%	57 26.9%	89 42.0%	19 9.0%	14 6.6%
4. 環境保全のための公的融資や補助金制度等の充実	64 30.2%	69 32.5%	56 26.4%	14 6.6%	9 4.2%
5. 環境保全のための助成制度の充実	63 29.7%	72 34.0%	56 26.4%	12 5.7%	9 4.2%
6. 再生可能エネルギーの導入促進エリアの設定	35 16.5%	69 32.5%	80 37.7%	19 9.0%	9 4.2%
7. 行政、民間企業・団体、住民などと連携するための仕組みづくり	48 22.6%	62 29.2%	82 38.7%	11 5.2%	9 4.2%
8. 環境問題に関する相談窓口の設置	32 15.1%	67 31.6%	88 41.5%	16 7.5%	9 4.2%
9. 環境保全への貢献を評価し、市民に紹介する	25 11.8%	57 26.9%	101 47.6%	15 7.1%	14 6.6%

将来予測と目標について

※将来予測の詳細結果は p.3 以降参照

1. 将来ごみ量予測の基本的な方法

将来のごみ量予測は、過去 10 年間の原単位から統計手法によるトレンド推計を行い、予測された予測値から表 1 の算定式で将来ごみ量を算出する。

表 1 将来ごみ量予測方法

区分	原単位	年間排出量 (t/年) 算定式
家庭系ごみ	1 人 1 日当たりごみ排出量 (g/人・日)	原単位 (g/人・日) × 将来予測人口 (人) × 年間日数 (365) × 10 ⁻⁶
事業系ごみ	1 日当たりごみ排出量 (t/年)	原単位 (t/日) × 年間日数 (365)

2. 前提条件の整理

通常、ごみの将来予測では、過去の実績から統計手法によるトレンド推計を行うことが一般的であるが、豊田市では令和 5 年度に搬入ごみ処理手数料の料金改定を行っていることから、特に表 2 に示す分別区分については、令和 4 年度までと比較して、令和 5 年度の排出傾向はそれ以前と異なる挙動を示している。

表 2 排出傾向が変わっている区分

排出区分	分別区分	収集形態
家庭系ごみ	燃やすごみ	収集 (市・委託)
		自己搬入
	埋めるごみ	自己搬入
	木くず (刈草)	自己搬入
	木くず (せん定枝)	自己搬入
事業系ごみ	燃やすごみ	許可収集
		自己搬入
	食品残さ	—

令和 6 年度以降のごみ排出傾向を検討するため、令和 5 年度と令和 6 年度の上半期 (4 月～9 月) までの各月のごみ排出量の比較を行った。その結果、表 1 に示す分別区分については、令和 5 年度と令和 6 年度の上半期の排出傾向に明確な違いがないことが確認できたことから、これらの品目の原単位は令和 5 年度と同じであると仮定した。

3. 将来予測（単純推計）

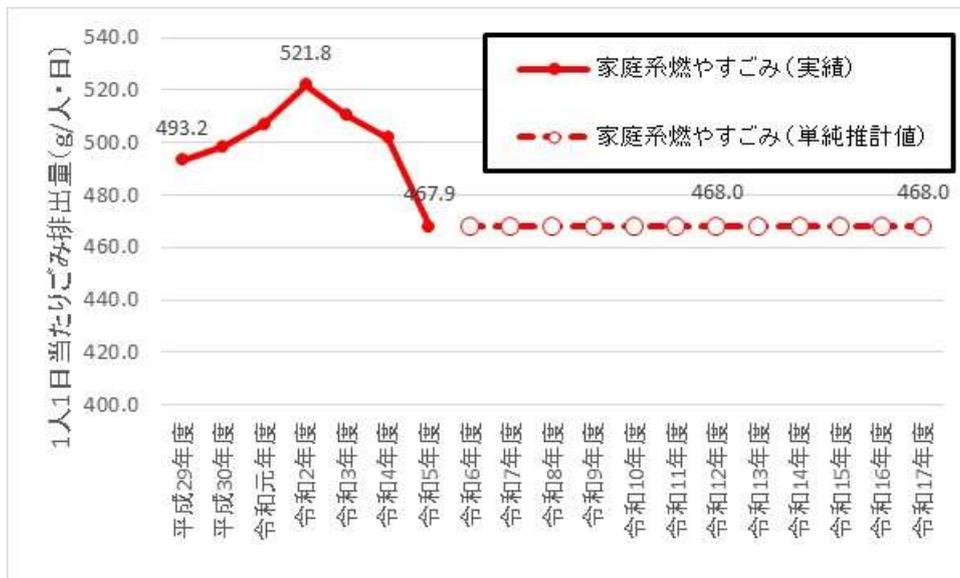


図1 単純推計結果（家庭系燃やすごみ 1人1日当たりごみ排出量）



図2 単純推計結果（家庭系ごみ総排出量 1人1日当たりごみ排出量）

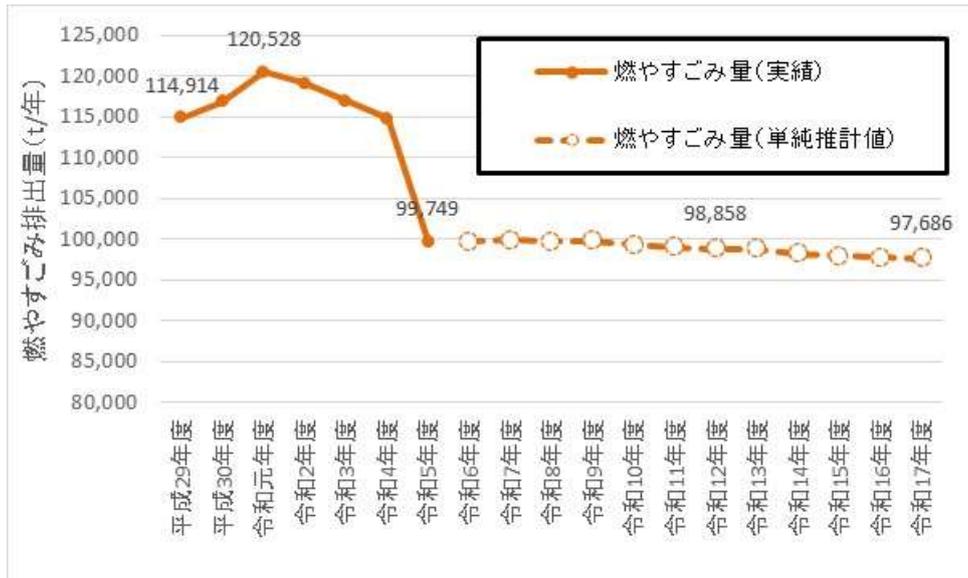


図3 単純推計結果（燃やすごみ排出量）

3-2. ごみ量予測 (単純推計)

表4 ごみ量予測結果 (単純推計)

区分\年度		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度
人口(人)※10月1日現在		422,521	424,716	425,718	425,828	426,142	423,084	420,022	418,009	416,890	418,179	419,477	418,233	416,989	415,745	414,501	413,257	411,572	409,887	408,203	406,518	404,833
可燃ごみ	収集	74,771	73,713	73,017	73,212	74,683	75,134	73,214	71,569	68,391	68,417	68,630	68,426	68,409	68,019	67,816	67,612	67,521	67,061	66,785	66,509	66,415
	自己・罹災	3,392	3,381	3,614	4,266	4,394	5,452	5,041	4,998	3,007	3,008	3,018	3,009	3,008	2,991	2,982	2,973	2,969	2,949	2,937	2,925	2,920
	小計	78,163	77,094	76,631	77,478	79,077	80,586	78,255	76,567	71,398	71,426	71,647	71,435	71,418	71,010	70,797	70,585	70,490	70,009	69,722	69,434	69,336
不燃ごみ (埋めるごみ)	収集	1,085	1,015	1,057	1,092	1,029	1,202	1,070	981	945	973	967	955	945	931	919	908	898	883	871	859	850
	自己・罹災	1,036	812	704	1,350	615	876	1,183	581	289	288	289	289	288	288	287	286	285	285	283	282	280
	小計	2,121	1,827	1,761	2,442	1,644	2,078	2,253	1,562	1,234	1,261	1,256	1,243	1,234	1,218	1,205	1,193	1,182	1,166	1,153	1,140	1,130
	(内、純粋自己搬入)	489	409	397	465	445	555	466	461	281	281	282	281	281	279	278	278	277	275	274	273	273
	(内、直接埋立)	1,574	1,424	1,454	1,557	1,474	1,757	1,537	1,477	1,226	1,359	1,347	1,327	1,310	1,287	1,268	1,249	1,232	1,209	1,190	1,170	1,155
資源	収集	1,027	840	1,011	949	949	1,021	877	858	828	827	816	799	785	767	752	737	723	706	691	676	663
	リサイクルステーション	1,578	1,529	1,453	1,478	1,371	1,325	1,414	1,387	1,308	1,307	1,288	1,262	1,240	1,212	1,188	1,164	1,142	1,115	1,091	1,068	1,048
	計	2,605	2,369	2,464	2,427	2,320	2,346	2,291	2,245	2,136	2,134	2,104	2,062	2,026	1,979	1,939	1,900	1,865	1,820	1,782	1,744	1,711
びん類	収集	152	172	154	159	147	163	140	128	122	128	129	129	130	129	129	129	128	128	127	126	126
	リサイクルステーション	341	325	316	318	359	357	391	378	359	377	379	379	380	379	378	377	377	375	373	371	370
	計	493	497	470	477	506	520	531	506	480	506	509	509	510	508	507	506	506	502	500	497	496
飲料缶	収集	286	296	297	292	272	304	274	305	287	293	299	304	309	313	318	322	328	331	336	341	346
	リサイクルステーション	644	647	602	649	693	663	762	740	746	761	777	789	803	813	825	838	852	862	874	886	901
	計	930	943	899	941	965	967	1,036	1,045	1,033	1,054	1,076	1,093	1,112	1,126	1,143	1,160	1,180	1,193	1,210	1,227	1,247
プラ容器	収集	1,611	1,556	1,485	1,463	1,455	1,551	1,466	1,417	1,422	1,426	1,421	1,421	1,420	1,411	1,407	1,402	1,400	1,390	1,384	1,377	1,375
	リサイクルステーション	338	358	391	398	415	385	459	452	460	462	463	461	461	458	457	455	454	451	449	447	446
	計	1,949	1,914	1,876	1,861	1,870	1,940	1,980	1,918	1,877	1,884	1,889	1,882	1,881	1,870	1,863	1,857	1,854	1,841	1,833	1,825	1,822
廃食用油	収集	13	14	16	18	21	22	24	23	21	21	28	30	32	35	38	41	44	48	52	56	60
	リサイクルステーション	5,325	5,005	4,664	4,339	3,875	2,814	2,572	2,490	2,231	2,009	1,860	1,707	1,566	1,426	1,298	1,179	1,070	964	870	783	705
	計	7,834	7,498	7,154	6,894	6,554	6,075	6,350	6,286	5,814	5,236	4,848	4,449	4,082	3,715	3,382	3,072	2,789	2,513	2,266	2,040	1,838
古紙類	収集	13,159	12,503	11,818	11,233	10,429	8,889	9,122	8,776	8,045	7,246	6,708	6,156	5,648	5,141	4,680	4,251	3,859	3,477	3,135	2,823	2,544
	リサイクルステーション	123	105	102	99	96	80	69	64	53	55	55	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44
	計	485	435	430	445	484	473	485	431	412	431	424	415	407	397	388	380	373	363	355	347	340
古布類	収集	608	540	532	544	580	553	554	495	465	486	478	468	459	448	438	429	420	410	400	391	384
	リサイクルステーション	3,076	2,864	2,947	2,863	2,823	3,043	2,812	2,757	2,654	2,671	2,670	2,653	2,644	2,621	2,605	2,590	2,579	2,554	2,537	2,521	2,511
	計	11,233	10,806	10,362	10,200	9,897	9,300	10,085	9,697	9,119	8,601	8,210	7,788	7,409	7,012	6,660	6,330	6,035	5,729	5,463	5,219	5,009
資源	収集	5,448	5,110	4,766	4,438	3,971	2,994	2,641	2,554	2,284	2,065	1,915	1,760	1,619	1,477	1,348	1,228	1,118	1,011	915	827	749
	リサイクルステーション	19,757	18,780	18,075	17,501	16,691	15,237	15,538	15,008	14,057	13,337	12,795	12,201	11,671	11,109	10,612	10,148	9,732	9,295	8,916	8,567	8,269
	計	16,681	15,916	15,128	14,638	13,868	12,194	12,726	12,251	11,403	10,666	10,125	9,548	9,027	8,489	8,007	7,558	7,153	6,740	6,378	6,046	5,758
	資源の原単位	127.8	121.1	116.3	112.6	107.0	98.7	101.4	98.4	92.1	87.4	83.6	79.9	76.5	73.2	70.1	67.3	64.6	62.1	59.8	57.7	55.8
粗大ごみ	可燃	304	308	288	306	304	307	311	301	313	290	289	287	285	282	280	278	276	273	271	269	267
	不燃	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	金属	528	441	482	531	546	640	605	569	402	545	549	550	553	552	552	553	554	552	551	550	551
	リユース	11	10	10	8	7	5	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	小計	843	759	781	845	857	952	923	877	715	835	839	837	838	834	832	830	830	825	822	819	818
リユース	リユース工房									9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	リユーススポット									6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	小計									15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
金属ごみ	収集	1,829	1,752	1,841	1,940	1,984	2,301	1,938	1,608	1,419	1,425	1,434	1,434	1,437	1,433	1,432	1,431	1,425	1,425	1,422	1,419	1,419
	自己・被災	691	684	742	903	1,068	1,324	1,091	1,034	702	720	740	754	769	779	790	801	813	819	827	835	844
	小計	2,520	2,436	2,583	2,843	3,052	3,625	3,029	2,642	2,121	2,145	2,174	2,188	2,206	2,212	2,222	2,232	2,245	2,244	2,249	2,253	2,263
有害ごみ	収集	146	142	141	143	143	151	142	137	132	132	132	131	131	130	129	128	128	127	126	125	125
	危険ごみ	85	81	97	90	129	149	139	136	126	138	142	145	148	150	152	154	156	158	159	161	163
	計	23	25	19	20	23	30	24	35	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
木くず	刈草(自己搬入)	268	251	243	268	263	363	303	334	210	211	211	211	211	209	209	208	208	206	206	205	204
	せん定枝(自己搬入)	291	276	282	288	286	393	327	369	229	229	230	229	229	228	227	226	226	224	223	223	222
	計	98,516	96,242	95,009	94,823	95,516	95,126	92,964	90,316	85,785	85,257	84,937	84,129	83,580	82,606	81,892	81,211	80,696	79,773	79,101	78,459	78,059
小計	収集	5,410	5,153	5,322	6,807	6,363	8,045	7,642	6,982	4,227	4,246	4,277	4,280	4,295	4,284	4,285	4,286	4,292	4,275	4,269	4,262	4,267
	自己搬入	103,926	101,395	100,331	101,630	101,879	103,171	100,606	97,298	90,012	89,503	89,214	88,409	87,874	86,890	86,177	85,497	84,989	84,048	83,370	82,721	82,326
	計	78,163	77,094	76,631	77,478	79,077	80,586	78,255	76,567	71,398	71,426	71,647	71,435	71,418	71,010	70,797	70,585	70,490	70,009	69,722	69,434	69,336
	1人1日当たり排出量(g/人・日)	505.4	497.3	493.2	498.5	507.0	521.8	510.4	501.8	467.9	468.0	468.0	468.0	468.0	468.0	468.0	468.0	468.0	468.0	468.0	468.0	468.0
	家庭系(可燃)ごみ排出量	84,169	82,615	82,256	84,129	85,188	87,934	85,068	82,290	75,955	76,166	76,419	76,208	76,203	75,781	75,565	75,349	75,257	74,753	74,454	74,155	74,057
	1人1日当たり排出量(g/人・日)	544.3	532.9	529.4	541.3	546.2	569.4	554.9														

4. 目標設定に向けた削減対象の考え方

豊田市のごみ排出特性に加え将来の施設整備を見据え、ごみ削減に向けた基本的な対象は燃やすごみとした。

表5に、今後もごみの分別状況が変わらないとした場合の将来ごみ量（単純推計）における燃やすごみ中の資源混入量や分別協力率を示す。

まず、家庭系ごみについては、燃やすごみの中には厨芥類（食品ロス含む）が約3割以上を占めており、その削減を徹底する。食品ロスについては、そもそもの発生抑制に向けた対策強化を行う。

次に、燃やすごみに約10%混入しているプラスチック製容器包装については、現状、分別協力率が約21%となっており、他都市と比較しても低い状況にある。今後、製品プラスチックの再商品化の開始を予定していることから、製品プラスチックと合わせて、プラスチック使用製品廃棄物の分別協力率を高めていくための施策を展開する。

混入している資源物の大部分を占める紙類についても、分別協力率を高めていくための施策を展開する。

表5 単純推計時の家庭系燃やすごみの状況と目標設定の考え方

区分\年度			2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035			
			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度			
家庭系（燃やすごみ量）			77,478	79,077	80,586	78,255	76,567	71,398	71,426	71,647	71,435	71,418	71,010	70,797	70,585	70,490	70,009	69,722	69,434	69,336			
組成	燃やすごみ	生ごみ	39.72	38.87	32.36		35.96	35.49	36.48	36.48	36.48	36.48	36.48	36.48	36.48	36.48	36.48	36.48	36.48	36.48	36.48		
		内,食ロス					11.57	12.60	12.08	12.08	12.08	12.08	12.08	12.08	12.08	12.08	12.08	12.08	12.08	12.08	12.08	12.08	
		容器プラ	10.61	11.36	10.20		13.92	9.50	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	11.12	
		ペットボトル	1.37	0.46	0.56		0.51	0.38	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	
		製品プラ（全部）					2.98	2.86	2.92	2.92	2.92	2.92	2.92	2.92	2.92	2.92	2.92	2.92	2.92	2.92	2.92	2.92	
		製品プラ（大部分）					0.40	0.64	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52	0.52
		布類	1.32	2.52	3.39		4.09	4.44	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97
		新聞紙・折り込みチラシ	3.23	1.51	2.82				2.52	2.52	2.52	2.52	2.52	2.52	2.52	2.52	2.52	2.52	2.52	2.52	2.52	2.52	2.52
		雑誌	1.65	0.67	1.38				1.23	1.23	1.23	1.23	1.23	1.23	1.23	1.23	1.23	1.23	1.23	1.23	1.23	1.23	1.23
		雑紙	8.23	8.53	7.97				8.24	8.24	8.24	8.24	8.24	8.24	8.24	8.24	8.24	8.24	8.24	8.24	8.24	8.24	8.24
		ダンボール	0.89	0.57	1.38				0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94
		紙バック	1.74	1.09	1.48				1.44	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44	1.44
		紙類計	15.74	12.37	15.03		14.23	13.62	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20	14.20
燃やすごみ中の混入量			30,773	30,737	26,075		27,533	25,336	26,055	26,136	26,058	26,052	25,903	25,826	25,748	25,713	25,538	25,433	25,328	25,292			
燃やすごみ中の混入量	燃やすごみ	内,食ロス					8,859	8,994	8,631	8,658	8,632	8,630	8,581	8,555	8,529	8,518	8,460	8,425	8,390	8,378			
		容器プラ	8,222	8,984	8,218		10,657	6,781	7,941	7,965	7,942	7,940	7,894	7,871	7,847	7,837	7,783	7,751	7,719	7,708			
		ペットボトル	1,058	365	455		392	269	342	343	342	342	340	339	338	338	335	334	332	332			
		製品プラ（全部）					2,278	2,041	2,084	2,090	2,084	2,083	2,071	2,065	2,059	2,056	2,042	2,034	2,025	2,023			
		製品プラ（大部分）					306	459	373	374	373	373	370	369	368	368	365	364	362	362			
		布類	1,026	1,993	2,730		3,130	3,168	2,836	2,845	2,837	2,836	2,820	2,811	2,803	2,799	2,780	2,769	2,757	2,753			
		新聞紙・折り込みチラシ	2,500	1,196	2,275																		
		雑誌	1,282	531	1,109																		
		雑紙	6,379	6,742	6,426																		
		ダンボール	689	448	1,109																		
		紙バック	1,346	864	1,194																		
		紙類計	12,197	9,781	12,113		10,896	9,724	10,141	10,173	10,143	10,140	10,082	10,052	10,022	10,009	9,940	9,899	9,859	9,845			
		分別協力率			18.5%	17.2%	19.1%		15.3%	21.7%	19.2%	19.2%	19.2%	19.2%	19.1%	19.1%	19.1%	19.1%	19.1%	19.1%	19.1%	19.1%	
分別協力率	燃やすごみ	容器プラ	47%	73%	68%		73%	79%	75%	76%	76%	76%	77%	77%	77%	78%	78%	78%	79%	79%			
		ペットボトル																					
		製品プラ（全部）																					
		製品プラ（大部分）																					
		布類	35%	23%	17%		14%	13%	15%	14%	14%	14%	14%	14%	13%	13%	13%	13%	13%	12%	12%		
		新聞紙・折り込みチラシ																					
		雑誌																					
		雑紙																					
		ダンボール																					
		紙バック																					
		紙類計	48%	52%	42%		45%	45%	42%	40%	38%	36%	34%	32%	30%	28%	26%	24%	22%	21%			

①：新たな施策を実施しない場合の将来の家庭系燃やすごみ量
（単純推計による家庭系燃やすごみの推移）

②：将来の家庭系燃やすごみ中に混入している資源物等

③：資源物の分別協力率

区分\年度			2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度
家庭系（燃やすごみ量）			77,478	79,077	80,586	78,255	76,567	71,398	71,026	70,847	70,235	69,618	68,793	68,164	67,535	66,720	65,519	64,512	63,504	62,686

削減量	t/年	生ごみ							43	86	129	171	214	257	300	400	500	600	700	800
	t/年	食ロス							43	86	129	171	214	257	300	400	500	600	700	800
分別量	t/年	容器プラ							129	257	386	514	643	771	900	1,200	1,500	1,800	2,100	2,400
	t/年	製品プラ（全部）									0	200	217	233	250	290	330	370	410	450
	t/年	布類							43	86	129	171	214	257	300	380	460	540	620	700
	t/年	紙類							143	286	429	571	714	857	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
	t/年	計							400	800	1,200	1,800	2,217	2,633	3,050	3,770	4,490	5,210	5,930	6,650

1人1日あたり	g/人・日	生ごみ	0	1	1	1	1	1	2	2	3	3	4	5	5
		食ロス	0	1	1	1	1	1	2	2	3	3	4	5	5
		容器プラ	1	2	3	3	4	5	6	8	10	12	14	16	
		製品プラ（全部）	0	0	0	1	1	2	2	2	2	2	3	3	
		布類	0	1	1	1	1	2	2	3	3	4	4	5	
		紙類	1	2	3	4	5	6	7	7	8	9	9	10	
		計	3	5	8	12	15	17	20	25	30	35	40	45	
単純削減量		1	1	2	2	3	3	4	5	7	8	9	11		

⑥：④を達成した場合の、家庭系燃やすごみ量

④：②から削減又は分別にまわる目標量を設定
⇒・生ごみ、食ロスは①及び②から設定量をマイナス
・容器、製品プラ（全部）、布類、紙類は①及び②からマイナスし、資源の回収量にプラスする。（=ごみ総量としては±0）

⑤：④の場合の1人1日あたりに削減・分別する量（g/人・日）

補足資料 1-5 に示す各事業の実施によって達成を目指す。

5. 指標と目標値

現計画の指標と豊田市のごみ排出状況や課題を踏まえ、4つの指標を設け「4. 目標設定に向けた削減対象の考え方」を実施した場合の目標値を表6に示す。

表6 指標と目標値

大区分	細区分	単位	R5	R12	R17		
			基準年	中間年	目標年	削減率	
-	人口	推計人口	人	416,880	413,257	404,833	-
①	1人1日当たり排出量	家庭系燃やすごみ	g/人・日	467.9	447.7	423.1	10% 削減
		家庭系ごみ総排出量	g/人・日	589.9	562.8	544.8	8% 削減
②	燃やすごみ	家庭系+事業系	t/年	99,749	95,059	89,618	10% 削減
③	直接埋立量	家庭系	t/年	1,226	1,151	1,097	11% 削減
④	家庭系ごみ分別協力率※1	プラスチック使用製品廃棄物※2	%	21.7	25.6	40.4	-

※1 分別協力率 (%)

= 資源として排出された量 / (燃やすごみ中の混入量 + 資源として排出された量)

※2 プラスチック製容器包装とそれ以外の製品プラスチック (バケツ、歯ブラシなど)

<指標設定の考え方>

環境省発行の「ごみ処理基本計画策定指針」では、指標の例として一般廃棄物の「排出量」、「再生利用率」、「1人1日当たりの家庭系ごみ排出量」等が挙げられており、「排出量」及び「1人1日当たりの家庭系ごみ排出量」を次期計画の指標として下記の理由から採用した。なお、「再生利用率」については、民間回収による回収ルート等の増加により資源化量が減少していることから、採用しない。

上記内容を踏まえ、以下の指標を次期計画に採用する。

① 1人1日当たりのごみ排出量

市民のごみ減量の取組等の活動指標として家庭系ごみの1人1日当たりのごみ排出量を2つの区分で設定する。

i) 燃やすごみ

豊田市のごみ排出量の内、7割以上が家庭系ごみであり、その中の6割が燃やすごみとなっている。家庭系の燃やすごみの中には、生ごみ(食品口ス含む)が約3~4割を占め、紙類などの資源物が約2割、プラスチック製容器包装が約1割を占めており、生ごみなどそもそもの発生量を削減する取組と資源物は燃やすごみへの混入を減らし、資源としての分別を促進する取組を進める必要がある。

ii) 総排出量

i) の燃やすごみ中の生ごみなどそもそもの発生量を削減する取組と資源物は燃やすごみへの混入を減らし、資源としての分別を促進する取組に加え、その他の埋めるごみや粗大ごみ、金属ごみ等の排出抑制やリユースの拡大、資源物の分別を進める必要がある。

② 燃やすごみ排出量

前計画では、事業系の燃やすごみを指標として設定していたが、将来のごみ焼却施設整備を見据え、環境省通知「循環型社会形成推進交付金等に係る施設の整備規模について」で示される施設規模算定の基礎となる“計画1人1日平均排出量”に対応するため、家庭系と事業系を合わせた燃やすごみ量として設定し、引き続き内訳として、事業系ごみの燃やすごみ量は管理する。

③ 最終処分量（直接埋立）

市民のごみ減量の取組等の活動指標として現行計画から引き続き設定する。

陶磁器やガラスくずなどの市民から排出される埋めるごみが直接埋立に当たるが、びん類などの資源物が一定数混入している。

全ての最終処分量のうち約2割が直接埋立量であり、残りの約8割は燃やすごみの焼却処理によって発生する焼却灰等である。

なお、焼却灰等の削減は、燃やすごみの削減やごみの分別の徹底により、効果を把握していく。

④ 家庭系ごみ分別協力率（プラスチック使用製品廃棄物）

施策の柱である資源の循環利用の促進と廃棄物処理の脱炭素化につながる目標として新たに設定する。

現在は燃やすごみに混入しているプラスチック製容器包装や燃やすごみとしている製品プラスチック（バケツや歯ブラシ等のプラスチック製品）を分別して、資源化を促進することで資源の循環使用につなげるとともに、これらを焼却する際に排出されるCO₂の削減にもつながる。

なお、現行計画で指標としている次の2つについては、以下の理由から次期計画の指標からは除外する。

ごみ焼却施設発電量：燃やすごみ量やごみ質によって発電量が減る可能性があることと、施設の運転維持管理については、施設運転の

ノウハウを持っている民間事業者に委託していることから、その時々条件下での最大限の発電を実施しているため。

ごみ焼却施設稼働率：施設の運転維持管理については、民間事業者に委託しており、燃やすごみ量やごみ質、施設の修繕等を踏まえて、その中で効率的な運転計画がなされているため。

6. 将来予測（目標反映）

単純推計結果から「4. 目標設定に向けた削減対象の考え方」のとおり、削減・分別を達成した場合の将来ごみ量結果を示す。

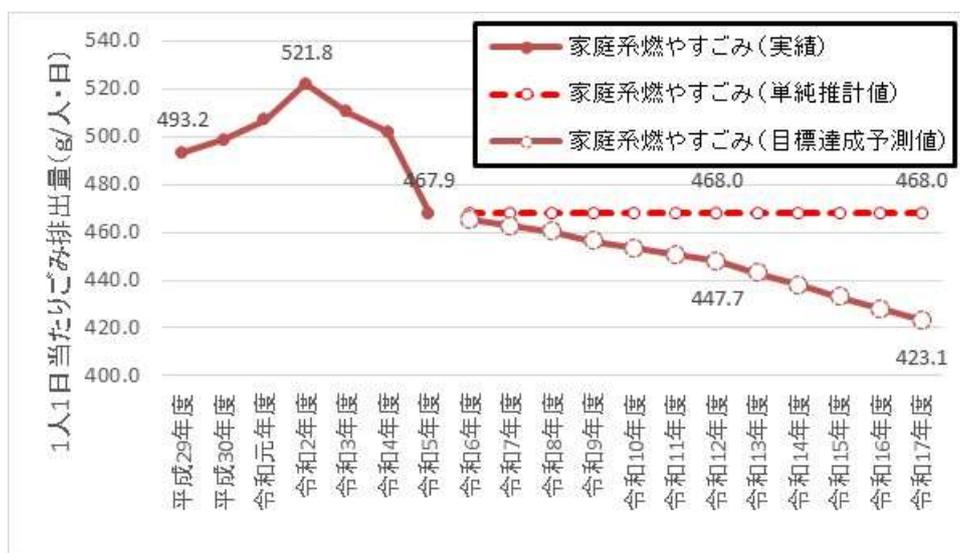


図4 将来ごみ量予測（目標反映：1人1日当たりごみ排出量）

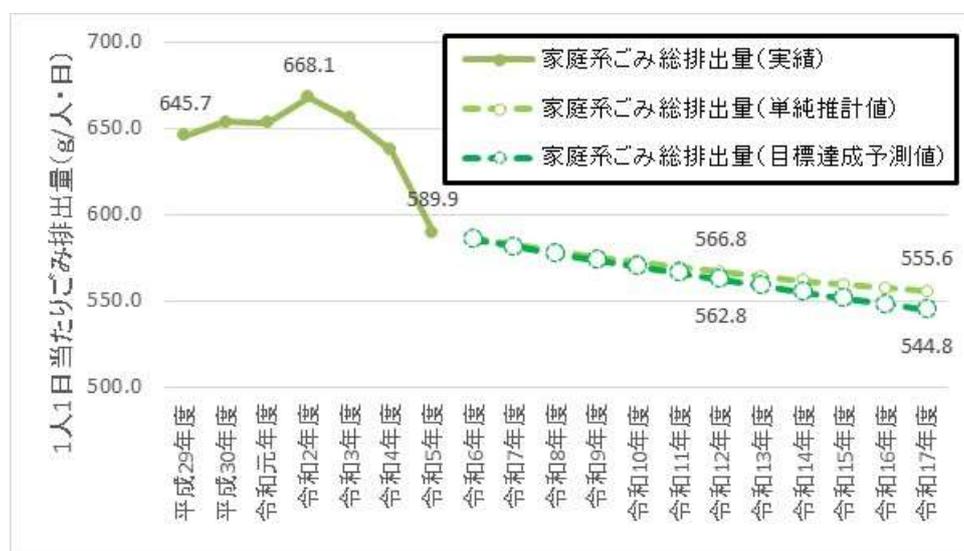


図5 将来ごみ量予測（目標反映：1人1日当たりごみ排出量）

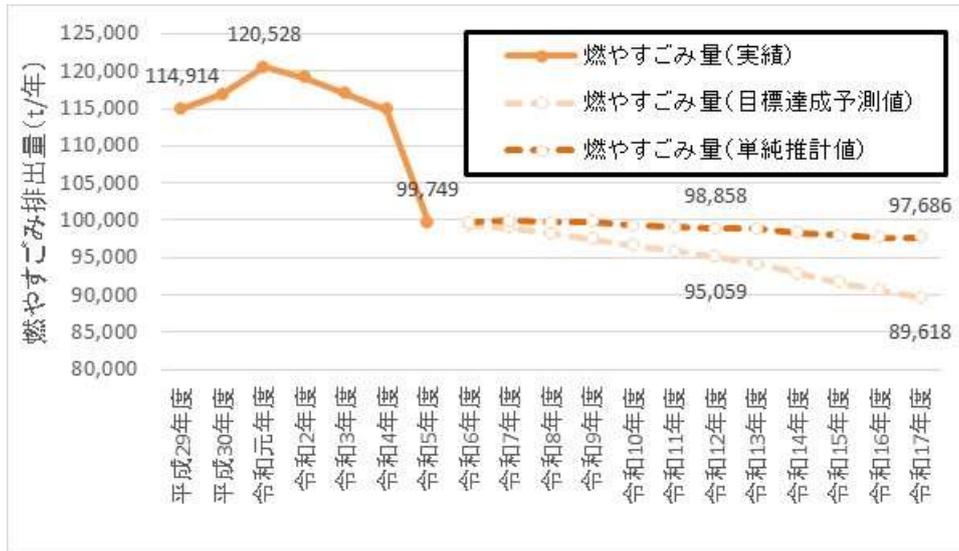


図6 将来ごみ量予測（目標反映：燃やすごみ排出量）

5-1. 1人1日当たりごみ排出量の推移(目標反映)

表7 1人1日当たりごみ排出量の推移(目標反映)

区分\年度		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度		
人口(人)※10月1日現在		422,521	424,716	425,718	425,828	426,142	423,084	420,022	418,009	416,880	418,179	419,477	418,233	416,989	415,745	414,501	413,257	411,572	409,887	408,203	406,518	404,833		
家庭系ごみ	可燃ごみ	収集	483.51	475.50	469.90	471.04	478.84	486.54	477.56	469.08	448.24	445.62	443.01	440.38	436.45	433.63	430.83	428.02	423.21	418.23	413.27	408.27	403.36	
		自己・罹災	21.93	21.81	23.26	27.45	28.17	35.31	32.88	32.76	19.71	19.71	19.71	19.71	19.71	19.71	19.71	19.71	19.71	19.71	19.71	19.71	19.71	
		小計	505.44	497.31	493.16	498.49	507.01	521.85	510.44	501.84	467.95	465.33	462.72	460.09	456.16	453.34	450.54	447.73	442.92	437.94	432.98	427.98	423.07	
	不燃ごみ (埋めるごみ)	収集	7.02	6.55	6.80	7.03	6.60	7.78	6.98	6.43	6.19	6.37	6.31	6.25	6.19	6.13	6.08	6.02	5.96	5.90	5.85	5.79	5.74	
		自己・罹災	6.70	5.24	4.53	8.69	3.94	5.67	7.72	3.81	1.89	1.89	1.89	1.89	1.89	1.89	1.89	1.89	1.89	1.89	1.89	1.89	1.89	
		小計	13.72	11.79	11.33	15.72	10.54	13.45	14.70	10.24	8.08	8.26	8.20	8.14	8.08	8.02	7.97	7.91	7.85	7.79	7.74	7.68	7.63	
	資源	(内、純粋自己搬入)	収集	3.16	2.64	2.55	2.99	2.85	3.59	3.04	3.02	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84	1.84
			小計	10.18	9.19	9.36	10.02	9.45	11.38	10.03	9.68	8.04	7.96	7.87	7.82	7.75	7.73	7.68	7.57	7.55	7.51	7.47	7.40	7.40
		びん類	収集	6.64	5.42	6.51	6.11	6.08	6.61	5.72	5.62	5.43	5.42	5.33	5.24	5.14	5.06	4.97	4.88	4.80	4.72	4.64	4.56	4.48
			リサイクルステーション	10.20	9.86	9.35	9.51	8.79	8.58	9.22	9.09	8.57	8.56	8.42	8.27	8.13	7.99	7.85	7.71	7.58	7.45	7.32	7.20	7.07
		飲料缶	収集	0.98	1.11	0.99	1.02	0.94	1.06	0.91	0.84	0.80	0.84	0.84	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85
			リサイクルステーション	2.21	2.10	2.03	2.05	2.30	2.31	2.55	2.48	2.35	2.47	2.48	2.49	2.49	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50	2.50
		ペットボトル	収集	1.85	1.91	1.91	1.88	1.74	1.97	1.79	2.00	1.88	1.92	1.95	1.99	2.02	2.06	2.10	2.14	2.18	2.22	2.26	2.30	2.34
			リサイクルステーション	4.16	4.17	3.87	4.18	4.44	4.29	4.97	4.85	4.89	4.99	5.08	5.17	5.26	5.36	5.46	5.55	5.66	5.76	5.86	5.97	6.08
		プラスチック	収集	6.01	6.08	5.78	6.06	6.18	6.26	6.76	6.85	6.77	6.91	7.03	7.16	7.28	7.42	7.56	7.69	7.84	7.98	8.12	8.27	8.42
			リサイクルステーション	10.42	10.04	9.56	9.41	9.33	10.07	9.92	9.61	9.29	10.16	10.99	11.84	12.67	13.54	14.40	15.26	16.12	16.98	17.84	18.70	19.56
		廃食用油	収集	2.19	2.31	2.52	2.56	2.66	2.49	2.99	2.96	3.01	3.02	3.02	3.02	3.02	3.02	3.02	3.02	3.02	3.02	3.01	3.01	3.01
			リサイクルステーション	12.61	12.35	12.08	11.97	11.99	12.56	12.91	12.57	12.30	13.18	14.01	14.86	15.69	16.56	17.42	18.28	19.14	20.00	20.86	21.72	22.58
	古紙類	収集	34.43	32.29	30.02	27.92	24.84	18.22	16.78	16.32	14.62	13.16	12.15	11.18	10.26	9.39	8.58	7.81	7.10	6.44	5.84	5.28	4.76	
		リサイクルステーション	50.66	48.37	46.04	44.36	42.02	39.34	42.72	41.20	38.11	35.24	33.53	31.95	30.49	29.19	28.02	27.00	25.82	24.82	23.93	23.18	22.53	
古布類	収集	0.80	0.68	0.66	0.64	0.62	0.52	0.45	0.42	0.35	0.36	0.35	0.35	0.34	0.34	0.33	0.32	0.32	0.31	0.31	0.30	0.30		
	リサイクルステーション	3.14	2.81	2.77	2.86	3.10	3.06	3.16	2.82	2.70	3.10	3.33	3.56	3.79	4.03	4.27	4.51	5.00	5.50	6.01	6.52	7.02		
資源	収集	19.89	18.48	18.97	18.42	18.09	19.71	18.34	18.07	17.40	18.34	19.11	19.92	20.68	21.51	22.32	23.13	25.09	27.10	29.12	31.15	33.15		
	リサイクルステーション	85.56	83.62	82.58	83.52	84.31	82.07	89.61	86.40	80.63	84.94	85.85	86.89	88.34	90.01	92.13	94.63	97.61	100.79	104.52	108.74	113.59		
粗大ごみ	収集	35.23	32.97	30.68	28.56	25.46	18.74	17.23	16.74	14.97	13.52	12.51	11.53	10.60	9.73	8.91	8.13	7.42	6.75	6.15	5.58	5.06		
	リサイクルステーション	140.68	135.07	132.23	130.50	127.86	120.52	125.18	121.21	113.00	116.80	117.47	118.34	119.62	121.25	123.36	125.89	130.12	134.64	139.79	145.47	151.80		
資源	資源化回収事業	120.79	116.59	113.26	112.08	109.77	100.81	106.84	103.14	95.60	98.46	98.36	98.42	98.94	99.74	101.04	102.76	105.03	107.54	110.67	114.32	118.65		
	資源の原単位	0.91	0.87	0.85	0.84	0.82	0.78	0.82	0.79	0.74	0.77	0.77	0.78	0.78	0.80	0.82	0.83	0.86	0.90	0.94	0.98	1.02		
粗大ごみ	可燃	1.97	1.99	1.85	1.97	1.95	1.99	2.03	1.97	2.05	1.90	1.89	1.88	1.87	1.86	1.85	1.84	1.83	1.82	1.82	1.81	1.80		
	不燃	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
リユース	金属	3.41	2.84	3.10	3.42	3.50	4.14	3.95	3.73	2.63	3.57	3.59	3.61	3.62	3.64	3.65	3.66	3.68	3.69	3.70	3.71	3.72		
	リユース	0.07	0.06	0.06	0.05	0.04	0.03	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05		
金属ごみ	収集	11.83	11.30	11.85	12.48	12.72	14.90	12.64	10.54	9.30	9.33	9.36	9.39	9.42	9.44	9.47	9.49	9.51	9.53	9.54	9.56	9.58		
	自己・罹災	4.47	4.41	4.78	5.81	6.85	8.57	7.12	6.78	4.60	4.72	4.83	4.94	5.04	5.13	5.22	5.31	5.39	5.47	5.55	5.62	5.70		
有害ごみ	収集	16.30	15.71	16.63	18.29	19.57	23.47	19.76	17.32	13.90	14.05	14.19	14.33	14.46	14.57	14.69	14.80	14.90	15.00	15.09	15.18	15.28		
	リサイクルステーション	0.94	0.92	0.91	0.92	0.92	0.98	0.93	0.90	0.87	0.87	0.86	0.86	0.86	0.86	0.85	0.85	0.85	0.85	0.85	0.84	0.84		
木くず	刈草(自己搬入)	0.55	0.52	0.62	0.58	0.83	0.96	0.91	0.89	0.83	0.90	0.93	0.95	0.97	0.99	1.00	1.02	1.04	1.05	1.07	1.08	1.10		
	せん定枝(自己搬入)	0.15	0.16	0.12	0.13	0.15	0.19	0.16	0.23	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12		
小計	収集	1.73	1.62	1.56	1.72	1.69	2.35	1.98	2.19	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38	1.38		
	自己搬入	1.88	1.78	1.68	1.85	1.84	2.54	2.14	2.42	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50	1.50		
家庭系(可燃)ごみ排出量	収集	649.98	634.75	627.33	627.99	633.26	637.84	630.23	614.80	583.11	585.36	583.42	581.66	579.00	577.80	577.09	576.79	576.20	575.71	575.89	576.53	577.94		
	自己搬入	34.98	33.24	34.25	43.80	40.80	52.09	49.86	45.77	27.70	27.82	27.93	28.04	28.14	28.23	28.32	28.41	28.49	28.57	28.65	28.72	28.80		
家庭系ごみ排出量(資源を除く)	収集	684.96	667.99	661.58	671.79	674.06	689.93	680.09	660.57	610.81	613.18	611.35	609.70	607.14	606.03	605.41	605.20	604.69	604.28	604.54	605.25	606.74		
	自己搬入	3.27	3.21	3.17	3.21	3.25	3.38	3.33	3.29	3.07	3.05	3.02	3.01	2.99	2.98	2.98	2.97	2.94	2.93	2.91	2.88	2.86		
家庭系ごみ総排出量	収集	544.28	532.92	529.35	541.29	546.20	569.41	554.91	539.36	497.81	496.38	493.88	491.36	487.52	484.78	482.05	479.31	474.57	469.64	464.75	459.78	454.94		
	自己搬入	3.52	3.44	3.41	3.48	3.50	3.69	3.62	3.54	3.26	3.25	3.23	3.22	3.19	3.19	3.19	3.18	3.15	3.14	3.12	3.10	3.07		
事業系ごみ	収集	684.96	667.99	661.58	671.79	674.06	689.93	680.09	660.57	610.81	613.18	611.35	609.70	607.14	606.03	605.41	605.20	604.69	604.28	604.54	605.25	606.74		
	自己搬入	4.43	4.31	4.26	4.32	4.42	4.47	4.44	4.33	4.00	4.02	3.99	3.99	3.98	3.99	4.00	4.01	4.01	4.04	4.06	4.08	4.09		
可燃ごみ	許可収集	79.02	80.85	82.42	83.46	84.79	75.76	75.04	72.83	63.85	63.76	63.49	63.22	62.78	62.69	62.42	62.16	61.72	61.62	61.36	61.09	60.66		
	自己・罹災	18.59	20.15	22.46	24.38	28.46	29.75	30.93	31.95	13.61	13.59	13.54	13.48	13.39	13.37	13.31	13.25	13.16	13.14	13.08	13.02	12.93		
不燃ごみ (金属ごみ・埋めるごみ)	許可収集	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
	自己・罹災	0.88	0.73	0.68	0.62	0.55	0.61	0.54	0.87	0.54	0.54	0.54	0.54	0.										

5-2. ごみ量予測 (目標反映)

表8 ごみ量予測結果 (目標反映)

区分\年度		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	
人口(人)※10月1日現在		422,521	424,716	425,718	425,828	426,142	423,084	420,022	418,009	416,880	418,179	419,477	418,233	416,989	415,745	414,501	413,257	411,572	409,887	408,203	406,518	404,833	
可燃ごみ	収集	74,771	73,713	73,017	73,212	74,683	75,134	73,214	71,569	68,391	68,017	67,830	67,226	66,609	65,802	65,182	64,562	63,751	62,571	61,575	60,579	59,765	
	自己・罹災	3,392	3,381	3,614	4,266	4,394	5,452	5,041	4,998	3,007	3,008	3,018	3,009	3,008	2,991	2,982	2,973	2,969	2,949	2,937	2,925	2,920	
小計		78,163	77,094	76,631	77,478	79,077	80,586	78,255	76,567	71,398	71,026	70,847	70,235	69,618	68,793	68,164	67,535	66,720	65,519	64,512	63,504	62,886	
不燃ごみ (埋めるごみ)	収集	1,085	1,015	1,057	1,092	1,029	1,202	1,070	981	945	973	967	955	945	931	919	908	898	883	871	859	850	
	自己・罹災	1,036	812	704	1,350	615	876	1,183	581	289	288	289	289	288	287	286	285	285	283	282	280	280	
	小計	2,121	1,827	1,761	2,442	1,644	2,078	2,253	1,562	1,234	1,261	1,256	1,243	1,234	1,218	1,205	1,193	1,182	1,166	1,153	1,140	1,130	
	(内、純粋自己搬入)	489	409	397	465	445	555	466	461	281	281	282	281	281	279	278	278	277	277	274	273	273	
(内、直接埋立)	1,574	1,424	1,454	1,557	1,474	1,757	1,537	1,477	1,226	1,215	1,205	1,194	1,183	1,172	1,162	1,151	1,140	1,129	1,119	1,108	1,097		
資源	収集	1,027	840	1,011	949	949	1,021	877	858	828	827	816	799	785	767	752	737	723	706	691	676	663	
	リサイクルステーション	1,578	1,529	1,453	1,478	1,371	1,325	1,414	1,387	1,308	1,307	1,288	1,262	1,240	1,212	1,188	1,164	1,142	1,115	1,091	1,068	1,048	
	計	2,605	2,369	2,464	2,427	2,320	2,346	2,291	2,245	2,136	2,134	2,104	2,062	2,026	1,979	1,939	1,900	1,865	1,820	1,782	1,744	1,711	
	収集	152	172	154	159	147	163	140	128	122	128	129	129	130	129	129	129	129	128	128	127	126	
	リサイクルステーション	341	325	316	318	359	357	391	378	358	377	379	379	380	379	378	377	377	375	373	373	371	
	計	493	497	470	477	506	520	531	506	480	506	509	509	510	508	507	506	506	502	500	497	496	
	収集	286	296	297	292	272	304	274	305	287	293	299	304	309	313	318	322	328	331	336	341	346	
	リサイクルステーション	644	647	602	649	693	663	762	740	746	761	777	789	803	813	825	838	852	862	874	886	901	
	計	930	943	899	941	965	967	1,036	1,045	1,033	1,054	1,076	1,093	1,112	1,126	1,143	1,160	1,180	1,193	1,210	1,227	1,247	
	収集	1,611	1,556	1,485	1,463	1,455	1,555	1,521	1,466	1,417	1,551	1,683	1,807	1,934	2,054	2,178	2,302	2,600	2,890	3,184	3,477	3,775	
	リサイクルステーション	338	358	391	398	415	385	459	452	460	462	463	461	461	458	457	455	454	451	449	447	446	
	計	1,949	1,914	1,876	1,861	1,870	1,940	1,980	1,918	1,877	2,012	2,146	2,268	2,395	2,512	2,635	2,757	3,054	3,341	3,633	3,925	4,222	
	製品プラ													0	200	217	233	250	290	330	370	410	450
	廃食用油	リサイクルステーション	13	14	16	18	21	22	24	23	21	28	30	32	35	38	41	44	48	52	56	60	65
	古紙類	集団回収	5,325	5,005	4,664	4,339	3,875	2,814	2,572	2,490	2,231	2,009	1,860	1,707	1,566	1,426	1,298	1,179	1,070	964	870	783	705
	リサイクルステーション	7,834	7,498	7,154	6,894	6,554	6,075	6,550	6,286	5,814	5,379	5,134	4,877	4,653	4,429	4,239	4,072	3,889	3,713	3,566	3,440	3,338	
	計	13,159	12,503	11,818	11,233	10,429	8,889	9,122	8,776	8,045	7,388	6,994	6,584	6,220	5,855	5,537	5,251	4,959	4,677	4,435	4,223	4,044	
	古布類	集団回収	123	105	102	99	96	80	69	64	53	55	55	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44
	リサイクルステーション	485	435	430	445	484	473	485	431	412	473	510	543	578	611	646	680	753	823	895	967	1,040	
計	608	540	532	544	580	553	554	495	465	529	564	597	631	662	696	729	800	870	940	1,011	1,084		
資源	収集	3,076	2,864	2,947	2,863	2,823	3,043	2,812	2,757	2,654	2,799	2,927	3,039	3,358	3,480	3,610	3,740	4,069	4,384	4,707	5,031	5,361	
リサイクルステーション	11,233	10,806	10,362	10,200	9,897	9,300	10,085	9,697	9,119	8,787	8,581	8,345	8,152	7,941	7,774	7,630	7,515	7,389	7,303	7,239	7,209		
集団回収	5,448	5,110	4,766	4,438	3,971	2,894	2,641	2,554	2,284	2,065	1,915	1,760	1,619	1,477	1,348	1,228	1,118	1,011	915	827	749		
小計	19,757	18,780	18,075	17,501	16,691	15,237	15,538	14,057	13,651	13,423	13,144	13,128	12,898	12,731	12,598	12,702	12,785	12,926	13,097	13,319			
資源化回収事業	16,681	15,916	15,128	14,638	13,868	12,194	12,726	12,251	11,403	10,851	10,496	10,106	9,770	9,417	9,122	8,858	8,633	8,400	8,218	8,066	7,958		
資源の原単位	127.8	121.1	116.3	112.6	107.0	98.7	101.4	98.4	92.1	89.4	87.7	86.1	86.0	85.0	84.2	83.5	84.3	85.5	86.8	88.3	89.9		
粗大ごみ	可燃	304	308	288	306	304	307	311	301	313	290	289	287	285	282	280	278	276	273	271	269	267	
	不燃	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	金属	528	441	482	531	546	640	605	569	402	545	549	550	553	552	552	553	554	552	551	550	551	
	リユース	11	10	10	8	7	5	7	7														
小計	843	759	781	845	857	952	923	877	715	835	839	837	838	834	832	830	830	825	822	819	818		
リユース	リユース工房								9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
	リユーススポット								6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
小計									15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15		
金属ごみ	収集	1,829	1,752	1,841	1,940	1,984	2,301	1,938	1,608	1,419	1,425	1,434	1,434	1,437	1,433	1,432	1,431	1,432	1,425	1,422	1,419	1,419	
	自己・被災	691	684	742	903	1,068	1,324	1,091	1,034	702	720	740	754	769	779	790	801	813	819	827	835	844	
小計	2,520	2,436	2,583	2,843	3,052	3,625	3,029	2,642	2,121	2,145	2,174	2,188	2,206	2,212	2,222	2,232	2,245	2,244	2,249	2,253	2,263		
有害ごみ	146	142	141	143	143	143	143	142	137	132	132	132	131	131	130	129	128	128	127	126	125	125	
危険ごみ	刈草(自己搬入)	85	81	97	90	129	149	139	136	126	138	142	145	148	150	152	154	156	158	159	161	163	
	せん定枝(自己搬入)	23	25	19	20	23	30	24	35	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	
	計	268	251	243	268	263	363	303	334	210	211	211	211	211	209	209	208	208	206	206	205	204	
小計	291	276	262	288	286	393	327	369	229	229	230	229	229	228	227	226	226	224	223	223	222		
小計	98,516	96,242	95,009	94,823	95,516	95,126	92,964	90,316	85,785	85,171	84,766	83,872	83,237	82,177	81,378	80,611	79,896	78,773	77,901	77,059	76,459		
小計	5,410	5,153	5,322	6,807	6,363	8,045	7,642	6,982	4,227	4,246	4,277	4,280	4,295	4,284	4,285	4,286	4,292	4,275	4,269	4,262	4,267		
計	103,926	101,395	100,331	101,630	101,879	103,171	100,606	97,298	90,012	89,417	89,043	88,152	87,531	86,461	85,663	84,897	84,189	83,048	82,170	81,321	80,726		
家庭系(可燃)ごみ排出量	78,163	77,094	76,631	77,478	79,077	80,586	78,255	76,567	71,398	71,026	70,847	70,235	69,618	68,793	68,164	67,535	66,720	65,519	64,512	63,504	62,886		
1人1日当たり排出量(g/人・日)	505.4	497.3	493.2	498.5	507.0	521.8	510.4	501.8	467.9	465.3	462.7	460.1	456.2	453.3	450.5	447.7	442.9	437.9	433.0	428.0	423.1		
家庭系ごみ排出量(資源を除く)	84,169	82,615	82,256	84,129	85,188	87,934	85,068	82,290	75,955	75,766	75,619	75,008	74,403	73,564	72,932	72,299	71,487	70,263	69,244	68,225	67,407		
1人1日当たり排出量(g/人・日)	544.3	532.9	529.4	541.3	546.2	569.4	554.9	539.3	497.8	496.4	493.9	491.4											

表9 目標達成時の家庭系燃やすごみの状況と資源分別協力率

区分\年度		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	
家庭系（燃やすごみ量）		78,163	77,094	76,631	77,478	79,077	80,586	78,255	76,567	71,398	71,026	70,847	70,235	69,618	68,793	68,164	67,535	66,720	65,519	64,512	63,504	62,686	
燃やすごみ中の混入量	生ごみ				30,773	30,737	26,075		27,533	25,336	26,012	26,050	25,930	25,880	25,689	25,568	25,448	25,313	25,038	24,833	24,628	24,492	
	内, 食ロス				0	0	0		8,859	8,994	8,588	8,572	8,503	8,458	8,366	8,298	8,229	8,118	7,960	7,825	7,690	7,578	
	容リプラ				8,222	8,984	8,218		10,657	6,781	7,812	7,708	7,556	7,425	7,252	7,099	6,947	6,637	6,283	5,951	5,619	5,308	
	ペットボトル				1,058	365	455		392	269	342	343	342	342	340	339	338	338	335	334	332	332	
	製品プラ（全部）				0	0	0		2,278	2,041	2,084	2,090	2,084	1,883	1,855	1,832	1,809	1,766	1,712	1,664	1,615	1,573	
	製品プラ（大部分）				0	0	0		306	459													
	布類				1,026	1,993	2,730		3,130	3,168	2,793	2,759	2,708	2,665	2,606	2,554	2,503	2,419	2,320	2,229	2,137	2,053	
	紙類				12,197	9,781	12,113		10,896	9,724	9,999	9,887	9,714	9,569	9,368	9,195	9,022	8,909	8,740	8,599	8,459	8,345	
分別協力率	容リプラ				18.5%	17.2%	19.1%		15.3%	21.7%	20.5%	21.8%	23.1%	24.4%	25.7%	27.1%	28.4%	31.5%	34.7%	37.9%	41.1%	44.3%	
	ペットボトル				47%	73%	68%		73%	79%	75%	76%	76%	76%	77%	77%	77%	78%	78%	78%	79%	79%	
	製品プラ（全部）													10%	10%	11%	12%	14%	16%	18%	20%	22%	
	製品プラ（大部分）																						
	プラ類（容リ+製品プラ）										16.9%	18.0%	19.0%	21.8%	23.1%	24.3%	25.6%	28.5%	31.5%	34.5%	37.5%	40.4%	
	布類				35%	23%	17%		14%	13%	15.9%	17.0%	18.1%	19.1%	20.3%	21.4%	22.6%	24.9%	27.3%	29.7%	32.1%	34.5%	
	紙類計				48%	52%	42%		45%	45%	42.5%	41.4%	40.4%	39.4%	38.5%	37.6%	36.8%	35.8%	34.9%	34.0%	33.3%	32.6%	

<参考1> 焼却施設規模

新算定方式					旧算定方式						
	年間排出量 (t/年)	実稼働率	施設処理能力 (t/年)	災害廃棄物(10%)考慮 (t/年)	施設規模 (t/日)		実稼働率	調整稼働率	災害廃棄物 10%考慮	施設規模 (t/日)	
R5実績	99,749	0.795	125,470	138,017	379		273	0.767	0.96	1.1	409
中間	94,609	0.795	119,005	130,905	359		259	0.767	0.96	1.1	388
目標	89,468	0.795	112,539	123,793	340		245	0.767	0.96	1.1	367
参考①	100,000	0.795	125,786	138,365	380		274	0.767	0.96	1.1	410
参考②	95,000	0.795	119,497	131,447	361		260	0.767	0.96	1.1	389
参考③	90,000	0.795	113,208	124,528	342		247	0.767	0.96	1.1	369

上記目標に
 残渣 1,500 t/年
 汚泥 1,500 t/年 を追加

	年間排出量 (t/年)	実稼働率	施設処理能力 (t/年)	災害廃棄物(10%)考慮 (t/年)	施設規模 (t/日)		実稼働率	調整稼働率	災害廃棄物 10%考慮	施設規模 (t/日)	
R5実績	102,749	0.795	129,244	142,168	390		282	0.767	0.96	1.1	421
中間	97,609	0.795	122,778	135,056	371		267	0.767	0.96	1.1	400
目標	92,468	0.795	116,313	127,944	351		253	0.767	0.96	1.1	379
参考①	103,000	0.795	129,560	142,516	391		282	0.767	0.96	1.1	422
参考②	98,000	0.795	123,270	135,597	372		268	0.767	0.96	1.1	402
参考③	93,000	0.795	116,981	128,679	353		255	0.767	0.96	1.1	381

【焼却施設の現状】

渡刈クリーンセンター (405 t/日) + 藤岡プラント (90 t/日) = 495 t/日
 ⇒施設更新前に渡刈一施設に集約するためには施設規模を **405 t/日**未満にする必要がある。(基幹改良工事前 (R3) の渡刈焼却量 : 99,318 t)

【目標の考え方】

第1段階 : できるだけ早期に 405 t/日未満にする。

= 参考②程度まで減らす必要がある (R5 比約 5%減)。

第2段階 : 次期施設整備時の財政支出低減を図るため、可能な限りコンパクトにするため排出量を減らす。

次期施設の施設規模検討時期は令和 11 年頃のため、中間年度で計画の進捗を踏まえ目標を見直すことが重要。

<参考 2> 現行計画の目標と達成状況

表 1 現計画の指標及び目標の達成状況

指標	基準年 2015 年度 (平成 27 年度)	目標 2025 年度 ※括弧内の数 値は 2015 年度比	2022 年度 (令和 4 年 度)	2023 年度 (令和 5 年 度)
① 1 人 1 日当たりのごみ排出量				
i) 家庭系ごみ+資源回収量	672g	660g (2%削減)	637.7 ○	589.9 ○
ii) 家庭系ごみ	544g	520g (4%削減)	539.3 ×	497.8 ○
iii) 家庭系ごみ(燃やすごみ)	505g	485g (4%削減)	501.8 ×	467.9 ○
②事業系可燃ごみ排出量	35,723t/年	35,000t/年 (2%削減)	38,245 t/年 ×	28,351 t/年 ○
③最終処分量 (直接埋立)	1,574t/年	1,527t/年 (3%削減)	1,477 t/年 ○	1,226 t/年 ○
④ごみ焼却施設発電量	42,000MW h/年以上	計画初年度か ら 45,000M Wh/年以上	44,353 MWh/年 ×	39,274 MWh/年 ×
⑤ごみ焼却施設稼働率	60%以上	60%以上	60%以上	60%以上

施策の柱：①廃棄物の発生抑制の促進

基本方針：【家庭ごみの発生抑制】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
食品ロス削減に向けた啓発・情報発信事業	市民に対して、食品ロス削減に関する啓発と情報発信を進める。これまで実施している事業を評価し、必要に応じて内容の見直しや強化を図るとともに、啓発対象を意識した効果的な発信を進める。	●			▶						循環型社会推進課
「手前どり運動」の拡充事業	手前どり運動に関する周知・啓発と参加する事業者情報の発信を行う。	●	●		▶						循環型社会推進課
食品ロス量の実態調査事業	市内の家庭系食品ロスの排出実態を把握するための調査等を定期的実施する。			●	▶						循環型社会推進課
フードドライブの実施支援事業	市民や事業者から余った食材や賞味期限の近い食品を集め、未利用食品等を提供するための活動の支援等を行う。	●	●		▶						循環型社会推進課
【拡充】コンポスト等の活用促進事業	家庭から発生する生ごみについては、再生利用（堆肥化等）を促進する。生ごみ処理機器購入補助金の促進や、カバン型コンポストの配布場所の拡充等を検討する。	●			▶						循環型社会推進課
【拡充】地域・世代などの対象に応じたごみ減量・分別等に関する効果的な啓発事業	ごみの減量や食品ロス対策の必要性など、自治区や各種団体等に対してごみの減量や分別を促進するため啓発を強化する。 地域や世代のほか、新規居住者など対象に応じて、効果的な啓発方法を検討する。			●	▶						循環型社会推進課
【拡充】生ごみの堆肥化等による地域循環の検討	生ごみをコンポスト等で堆肥化して、地域の市民農園等と連携し再利用する。	●	●		▶						循環型社会推進課
「資源・ごみの分け方・出し方」ごみカレンダー等を活用した情報発信	全戸配布するごみカレンダーやごみガイドブックを活用し、ごみの分別等を促進する。分別区分の変更等が生じた際には、内容を更新する。			●	▶						循環型社会推進課
【拡充・重点】多言語によるごみ出しマナーの周知	居住する外国人に対して、やさしい日本語等を用いて正しいごみ出しルールの周知を図る。	●			▶						循環型社会推進課 国際まちづくり推進課
【新規】マイボトル持参運動の促進	市民がマイボトルを利用しやすい環境の整備や啓発事業等を行う。	●	●		▶						循環型社会推進課

基本方針：【事業系ごみの発生抑制】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R 8	R 9	R10	R11	R12	R13 以降	
「手前どり運動」促進事業	食品ロスの削減に向けた取組を共に進める事業者や団体等の拡充を図るとともに、食品関連事業者等の取組に対する支援を行う。		●		▶						循環型社会推進課
（再掲） フードドライブの実施支援事業	市民や事業者から余った食材や賞味期限の近い食品を集め、未利用食品等を提供するための活動の支援等を行う。	●	●		▶						循環型社会推進課
【新規】 事業者・従業員向け啓発・勉強会事業	事業者や従業員に対して、家庭とは異なるごみ処理のルール等について、学ぶ機会を作っていく。		●		▶						循環型社会推進課 廃棄物対策課
【拡充】 食品残さの資源化事業の促進	食品関連事業者全体から発生する「食品残さ」を緑のリサイクルセンター等へ搬入し、それをういて生産した肥料で地域内循環を図る。		●	●	▶						循環型社会推進課 清掃施設課
【重点】 事業系資源物等のリサイクル施設（民間施設含む）への誘導	リサイクルが可能な紙類（新聞/雑誌/段ボール/OA 紙/その他の古紙など）、枯草、せん定枝等を民間施設等へ搬入するよう誘導する。		●		▶						清掃施設課

基本方針：【使用済製品等の再使用の促進】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
粗大ごみの再生施設「リユース工房」事業	物を大切に長く使う意識啓発やごみ減量や再使用・リサイクルに対する理解を深めるため、家庭から粗大ごみとして排出された家具等を清掃・補修し、リユース家具として展示販売する。	●			→						循環型社会推進課
【新規】リユーススポットの拡充	リユーススポットを市内施設等に出展するなど、市民の利便性向上を図るとともに、対象品目に応じて実施場所を検討する。	●			→						循環型社会推進課

施策の柱：②資源の循環利用の促進

基本方針：【資源の再生利用の促進】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
【重点】 雑紙分別袋の利用促進事業	紙資源のリサイクルを推進するため雑紙分別袋の利用促進を啓発する。	●			▶						循環型社会推進課
（再掲）【拡充】 生ごみの堆肥化等による地域循環の検討	生ごみをコンポスト等で堆肥化して、地域の市民農園等と連携し再利用する。	●	●		▶						循環型社会推進課
（再掲）【拡充】 コンポスト等の活用促進事業	家庭から発生する生ごみについては、再生利用（堆肥化等）を促進する。生ごみ処理機器購入補助金の促進や、カバン型コンポストの配布場所の拡充等を検討する。	●			▶						循環型社会推進課
集団回収活動の促進事業	リサイクルを積極的に推進している自治区や子ども会等の団体に対して報奨金を交付し、ごみの減量化及び資源化を促進する。	●			▶						循環型社会推進課
【重点】 製品プラスチックの再商品化の検討・促進事業	「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に対応し、プラスチック製容器包装にプラスチック製品等を加えた「プラスチック資源」の再商品化を検討・促進する。	●	●		▶						循環型社会推進課 清掃業務課
【重点】 質の高いリサイクルの推進事業	水平リサイクルの推進や、現在行われている販売店の自主回収に対して、市と事業者の連携により更に資源の回収を促進する。また、民間の資源回収拠点や事業者の店舗等と連携した資源回収の検討を進める。	●	●		▶						循環型社会推進課
【拡充】 市民のライフスタイルや地域特性に応じた資源回収方法の検討とリサイクルステーション整備事業	都市部のリサイクルステーション運用時間の見直しや山間部での資源回収品目の拡充などを検討するとともに、リサイクルステーションの整備計画に基づき新設、移転、拡充等を検討する。	●			▶						循環型社会推進課 清掃業務課

基本方針：【新たな資源化方法の検討】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
【新規・重点】 使用済み紙おむつの再生利用の検討事業	今後、高齢化が進む社会においておむつの発生量が増加することが想定されるため、排出実態を把握した上で、再生利用に向けた検討を行う。			●							循環型社会推進課
【新規】 現在は焼却・埋立処理されているものの資源化検討事業	現在、焼却や埋め立て処理されている各清掃施設からの処理残さ等について、将来の処理体制の検討とあわせ資源化について検討を進める。			●							循環型社会推進課 清掃施設課

施策の柱：③廃棄物処理の脱炭素化

基本方針：【バイオマス・再生材利用等の検討】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
【新規】 バイオマス・再生材利用等の導入検討事業	指定ごみ袋等の原材料の一部にバイオマスや再生材利用等の導入を検討する。			●							清掃業務課 循環型社会推進課

基本方針：【廃棄物からのエネルギー回収・活用の推進】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
焼却施設におけるエネルギー回収を進め、地域でのエネルギー利活用事業	焼却施設において回収したエネルギーの活用等、CO2 排出量の削減のために導入すべき再生可能エネルギー等の地域内での利用に関する仕組みづくりを行う。		●	●							清掃施設課
【新規】 次期施設におけるエネルギー利活用方針検討事業	次期施設には、単なるごみ処理施設としての役割だけでなく、施設が持つ機能を活かし、多面的価値の創出を目指した検討を進める。			●							循環型社会推進課 清掃施設課
【重点】 植物性廃食用油資源化事業	回収した廃食用油を精製して、資源として再利用する。	●									循環型社会推進課
【拡充】 環境低負荷の収集車等の導入検討事業	技術動向に応じて水素車や再エネ由来のエネルギーを動力とする EV 車両・重機等の導入を検討する。			●							清掃業務課 清掃施設課

基本方針：【効率的・安定的な収集・運搬体制の構築】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
（再掲）【拡充】 環境低負荷の収集車等の導入検討事業	技術動向に応じて水素車や再エネ由来のエネルギーを動力とする EV 車両・重機等の導入を検討する。			●							清掃業務課 清掃施設課
ふれあい収集事業	ごみ出し困難な世帯で出た生活ごみの戸別収集を実施する。今後の高齢化社会に応じた事業の在り方についても検討を進める。			●							清掃業務課

事業	概要	市と			計画期間 (検討中)						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
【新規】 ごみ収集サポートシステム 導入事業	DX を活用したルート検討など、サポートシステムの導入による効率的な収集運搬体制の整備 し、広域な市域を効率よく収集するための収集運搬体制を構築する。		●	●	▶						清掃業務課
ごみ・し尿等収集検討事業	効率的なごみやし尿の収集の方法や新たな分別分野に対応した収集方法の検討する。		●	●	▶						清掃業務課

施策の柱：④廃棄物の適正処理の推進

基本方針：【不適正排出防止への対策強化】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
事業系一般廃棄物搬入前検査事業	搬入物の適正処理を図るため、事業者自らや許可業者が搬入する事業系一般廃棄物について検査を実施し、不適正排出事業者に対して、収集事業者と共に排出事業者に対する啓発・指導等を実施する。		●		▶						清掃施設課
【新規・重点】 リチウムイオン電池対策事業	リチウムイオン電池が原因と考えられる収集車両や処理施設の火災が発生していることから、回収方法の見直し検討や市民に対する分別の周知徹底を図る。	●			▶						循環型社会推進課 清掃業務課
（再掲）【新規】 事業者への啓発事業	事業者や従業員に対して、家庭とは異なるごみ処理のルール等について、学ぶ機会を作っていく。		●		▶						循環型社会推進課
（再掲）【重点】 事業系資源物等のリサイクル施設（民間施設含む）への誘導事業	リサイクルが可能な紙類（新聞/雑誌/段ボール/OA紙/その他の古紙など）、枯草、せん定枝等を民間施設等へ搬入するよう誘導する。		●		▶						清掃施設課

基本方針：【不法投棄・不適正処理への対策強化】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
不法投棄対策事業	不法投棄対策連絡会による不適正処理対策の連携や不法投棄パトロール隊への支援、監視カメラの設置等を行うと共に、発見された不法投棄物の回収、処理を行う。	●	●		▶						清掃業務課
不用品回収業者への監視・指導事業	不適正な廃棄物の取扱いを防止するため、不用品回収業者への監視・指導を行う。		●		▶						廃棄物対策課
ごみステーションからのごみの持去りの監視・指導事業	ごみステーションからのごみの持去り禁止条例に基づいた監視・指導を行い、ごみステーションに排出されたごみの適正処理を図る。		●		▶						循環型社会推進課
DX・AI・IoTを活用した不法投棄等の早期発見・対策の検討事業	DX・AI・IoTを活用した対策の検討を進める。また、航空写真の解析による調査や通報に関する覚書締結団体からの通報により、不法投棄等を早期に発見し、対応する。	●	●		▶						廃棄物対策課

施策の柱：⑤持続可能な廃棄物処理体制の構築

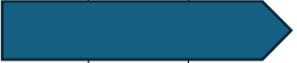
基本方針：【災害廃棄物処理体制の強化】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
【重点】 災害廃棄物処理体制の整備	災害廃棄物処理計画に従って、地域や民間事業者と連携した災害廃棄物処理体制を構築する。	●	●	●							循環型社会推進課

基本方針：【安定かつ効率的なごみ処理体制の構築】

事業	概要	市と			計画期間（検討中）						関係課
		市民	事業者	市	R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
処理施設の維持管理と計画的な大規模修繕・整備事業	計画的な設備修繕や延命化整備を実施し、ごみ処理施設を安定的に稼働させる。 主要設備の経年劣化が進行している施設では、今後も安定稼働を継続する上で大規模修繕等を検討し、適正な時期に必要な整備を行う。			●							清掃施設課
グリーン・クリーンふじの丘の残余容量確保事業	将来の埋立ごみ量の見込みに対し、外部の最終処分場を活用し、経費の削減と平準化の視点を踏まえ、グリーン・クリーンふじの丘の残余容量を確保する。			●							清掃施設課
グリーン・クリーンふじの丘第2期埋立処分場の整備事業	第1期埋立処分場の埋立終了に備え、第2期埋立処分場の開設に向けた整備等を行う。			●							清掃施設課 循環型社会推進課
【新規】 次期施設整備及び運営事業の検討事業	将来に渡って安定かつ効率的なごみ処理を確保するための施設整備及び運営について、検討を進め、施設整備計画を策定する。			●							循環型社会推進課

基本方針：【費用負担の在り方の検討】

事業	概要	市と			計画期間 (検討中)						関係課
		市民	事業者	市	R 8	R 9	R10	R11	R12	R13 以降	
ごみ処理費用負担の検討事業	排出者負担の公平性を確保するため、排出量に応じたごみ処理費用負担のあり方（有料化等）を検討する			●							循環型社会推進課
【新規】 次期施設整備に向けた基金等の設置検討事業	将来の施設整備に備え、基金等の設置を検討する。			●							循環型社会推進課
ごみ処理費に関する情報発信事業	市のごみ処理費用に対する理解を促進するため、情報提供を行う。			●							循環型社会推進課
ごみ処理手数料の検討事業	ごみ処理手数料の見直しを定期的実施する。			●							循環型社会推進課

施策の柱：⑥学習機会・知識の提供・情報発信

基本方針：【分かりやすい情報の公開・発信】

事業	概要	市と共に			市	計画期間（予定）						関係課
		市民	事業者			R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
【重点・新規】 戦略的な情報発信	環境学習事業に加え、市民・事業者の協力が全ての基盤となるため、施策の柱や個別事業に応じたテーマやターゲットを意識した効果的な情報の公開・発信を行う。 その際、情報の受け取り側（市民・事業者・各種団体/若者・高齢者/都市・山村部/転入者・外国人など）に応じて、発信する内容や場所、発信媒体・ツールを使い分ける。	●	●		●							循環型社会推進課

施策の柱：⑦共働の推進

基本方針：【各主体との連携体制構築と市民参加の機会創出】

事業	概要	市と共に			市	計画期間（予定）						関係課
		市民	事業者			R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
【重点・新規】 ごみ処理や資源循環について、関係主体と連携した市民が学ぶ・自ら考える仕掛けづくり	市民団体や事業者など様々な主体との連携体制を構築し、普段の生活の中で、ごみ処理や資源循環について考えるきっかけを与える仕掛けを作っていく。 また、将来の豊田市を担う子どもたちが大人になってから、自ら考えて行動できるように、継続的に豊田市のごみ処理の現状を学べる機会を作っていく。	●	●		●							循環型社会推進課

指標に対する主な施策と効果

① 1人1日当たりのごみ排出量

i) 家庭系ごみ（燃やすごみ）

燃やすごみの内訳として約3～4割が厨芥類（生ごみ）であることや、紙類やプラスチック製容器包装等の資源が約3割前後含まれていることを踏まえ、発生抑制と資源物の分別率の向上により、約45gの削減を目指す。

関連する主な事業

事業	削減見込み
食品ロス削減に向けた啓発・情報発信事業	約45g減
コンポスト等の活用促進事業	
「資源・ごみの分け方・出し方」ごみカレンダー等を活用した情報発信	
市民のライフスタイルや地域特性に応じた資源回収方法の検討とリサイクルステーション整備事業	
雑紙分別袋の利用促進事業	
集団回収活動の促進事業	
製品プラスチックの再商品化の検討・促進事業	
粗大ごみの再生施設「リユース工房」事業	
リユーススポットの拡充	
マイボトル持参運動の促進	

ii) 家庭系ごみ（総排出量）

啓発等によって資源化推進を行うことにより、資源回収量は増加することが考えられるが、発生抑制と分別率の向上により燃やすごみ等を減量し、家庭系ごみと資源回収量の総量を約45g削減することを目指す。

関連する主な事業

事業	削減見込み
食品ロス削減に向けた啓発・情報発信事業	約45g減
質の高いリサイクルの推進事業	※燃やすごみのほか、埋めるごみや粗大ごみ等の削減効果も含むが、燃やすごみ等から分別された資源物は回収量が増えるため、総排出量としての削減量は燃やすごみと同等となる。
地域・世代などの対象に応じたごみ減量・分別等に関する効果的な啓発事業	
「資源・ごみの分け方・出し方」ごみカレンダー等を活用した情報発信	
多言語によるごみ出しマナーの周知	
製品プラスチックの再商品化の検討・促進事業	

②燃やすごみ排出量（家庭系＋事業系）

前計画では、事業系の燃やすごみを指標として設定していたが、将来のごみ焼却施設整備を見据え、家庭系と事業系を合わせた燃やすごみ量として管理する。

家庭系ごみの排出量は、①の指標に連動するため、関連する主な事業は① i) と同じである。

事業系ごみの発生量は景気状況の影響を大きく受けるものの、食品ロスや不適正排出（プラスチック類）、紙類などの資源物の混入があるため、発生抑制や適正排出・分別の意識を高め削減を目指す。

燃やすごみの総排出量は目標年度と比較して、約 10%の削減を目指す。

事業系ごみ削減に関連する主な事業

事業
事業者・従業員向け啓発・勉強会事業
事業系資源物等のリサイクル施設（民間施設含む）への誘導
食品残さの資源化事業の促進

③最終処分量（直接埋立）

埋めるごみの発生抑制と資源の分別率の向上等により直接埋立量を約 10%削減することを目指す。

関連する主な事業

事業
粗大ごみの再生施設「リユース工房」事業
質の高いリサイクルの推進事業
市民のライフスタイルや地域特性に応じた資源回収方法の検討とリサイクルステーション整備事業
地域・世代などの対象に応じたごみ減量・分別等に関する効果的な啓発事業 「資源・ごみの分け方・出し方」ごみカレンダー等を活用した情報発信
現在は焼却・埋立処理されているものの資源化検討事業

④家庭系ごみ分別協力率（プラスチック使用製品廃棄物）

プラスチック製容器包装と製品プラスチックの分別促進により、約 20 ポイントの上昇を目指す。

なお、現在は製品プラスチックを燃やすごみとして処理しているため、基準年の協力率はプラスチック製容器包装に対するものである。

関連する主な事業

事業
製品プラスチックの再商品化の検討・促進事業
市民のライフスタイルや地域特性に応じた資源回収方法の検討とリサイクルステーション整備事業
地域・世代などの対象に応じたごみ減量・分別等に関する効果的な啓発事業
「資源・ごみの分け方・出し方」ごみカレンダー等を活用した情報発信

今回の部会の論点(環境基本計画)

① めざす環境像、基本方針(取組分野)の構成について、前回いただいたご意見等を踏まえ、事務局で再整理したため、ご意見をいただきたい。

- ・めざす環境像 → 表現を大幅に修正
- ・基本方針(取組分野)の設定
 - 安全安心と共働の統合は見直し。
安全安心の中でも、環境基本計画が担う「生活環境」の部分を基本方針に据える。
共働の分野は、各分野の具体の取組として包含する。

② 生活環境の分野における施策の柱、指標や目標値を再整理したため、PDCAを回すにあたり、「評価可能な指標となっているか」「目標値の設定は適切か」などの観点で、ご意見をいただきたい。

③ その他

計画の素案や、別冊として管理する施策・事業一覧のイメージを、参考資料として作成中。
追加事業や講ずべき施策などがあれば、ご意見いただきたい。

前回部会の主なご意見

- 次期豊田市環境基本計画素案は、いただいたご意見を踏まえて作成いたします。
具体的な対応方針や、次期豊田市環境基本計画素案以外に反映するご意見については参考資料「課題管理表」をご覧ください。

対応箇所	主なご意見※	対応
めざす環境像(第2章第2節)	A) 「豊かな心」についての説明が必要 B) 情報の適正管理や先進的な技術の活用、地域間・世代間のつながりを要素として入れるべき C) 「豊かな心と自然」の解釈がしづらい	A) めざす環境像の説明文を追加 B) めざす環境像のイメージに左記の要素を取り入れ、説明文を追加 C) 解釈しやすくめざす環境像を修正
基本方針(第2章第3節)	D) 安全安心を個別施策にするのであれば、共働よりも安全安心が表に出た方が市民意識に浸透する E) 他部署が抱える問題について横串を指して把握すべき	D) 基本方針4を安全安心(生活環境)分野に変更し、行動・共働の分野を各基本方針に包含 E) 他部署が抱える問題を各基本方針に対応付けて課題として抽出する
施策の体系(第3章第1節)	F) 気候変動への適応において防災の観点は位置付けるべき	F) 防災の観点を基本方針4から基本方針1に移行
施策の内容(第3章第2節)	G) 基本方針4の施策検討における課題抽出アプローチに違和感がある H) 施策の柱について説明が必要	G) 基本方針4の施策方向性を再検討 H) 各施策の柱について「施策の方向性」にて説明

※他部会でいただいたご意見も含む

ご意見を反映した箇所は以降ページの青字箇所です。

次期計画の全体構成

- 次期豊田市環境基本計画の目次構成は以下のとおりです。

前回部会からの変更点

変更の経緯

第1章 環境基本計画とは
 第1節 計画の基本的事項
 第2節 計画策定の背景

第2章 計画の理念・目標
 第1節 計画の基本理念
 第2節 めざす環境像 **審議事項**
 第3節 基本方針 **審議事項**

←めざす環境像を再検討

表現の修正、説明文を作成
 (意見A~C)

←基本方針4を変更

「行動共働の分野」を基本方針4でなく各基本方針に位置付ける(意見D~F)

第3章 目標達成のための施策の展開
 第1節 施策の体系 **審議事項**
 第2節 施策の内容 **審議事項**

←基本方針4を変更

「行動共働の分野」を基本方針4でなく各基本方針に位置付ける(意見D~F)

←指標・目標値を設定、施策の方向性を具体化

変更した基本方針を踏まえ、施策の方向性や指標・目標値を設定(意見G、H等)

第4章 計画の推進と進行管理
 第1節 計画の推進体制
 第2節 計画の進行管理

資料編

第2章 計画の理念・目標

第1節 計画の基本理念

- 豊田市は、市域の約7割に広大な森林を有し、世界的にも貴重な湿地が保全されているなど、豊かな自然に恵まれています。その一方、自動車産業を核としたものづくり産業の中核都市として、先進的な技術を集積しています。この技術の集積を環境分野で最大限に活かすことにより、将来にわたって環境先進都市としての発展が期待されています。
- このような自然と都市が共存した環境は、日本の縮図とも捉えることができ、これらの強みを活かした新しいライフスタイルを生み出すポテンシャルを備えています。
- 私たちは、「WE LOVE とよた」を合言葉に、**共働の理念のもと**、“豊かな自然の恵み”と“先進的な技術”を活かして、将来にわたって環境にやさしく、多様で豊かな豊田市をつくります。

第2節 めざす環境像

審議事項

「めざす環境像」のキャッチフレーズ修正案に関してご意見をいただきたい。

第9次豊田市総合計画の目指す将来像や将来都市構造にも位置付けられている「豊かな心」がめざす環境像としても実現され、そのベースとして「人と自然」があること表現しています。

豊かな心を育む、人と自然にやさしいまち・とよた

★第9次豊田市総合計画「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」

- 豊かな自然や歴史・文化・芸術、ものづくり産業・技術など多様な資源。
- こうした資源に愛着や誇りを持って、守り、更に大きく育て、次代を担う子どもたちへつないでいくことで、安心と輝きに包まれた豊かな豊田市のミライをつくりだしていくことが大切。
- 「つながり」と「チェンジ(変化)・チャレンジ(挑戦)」によって、一人ひとりが主役となってミライをひらく「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」を目指す。

●豊田市環境基本条例

市、事業者及び市民のすべてが協働して、環境への負荷の低減に努めるとともに、人と自然とが共生することのできる健全で恵み豊かな環境を保全し、創造していくことにより持続的な発展が可能な社会を実現していく。

▲アンケート調査結果

◆ワークショップ結果

要素

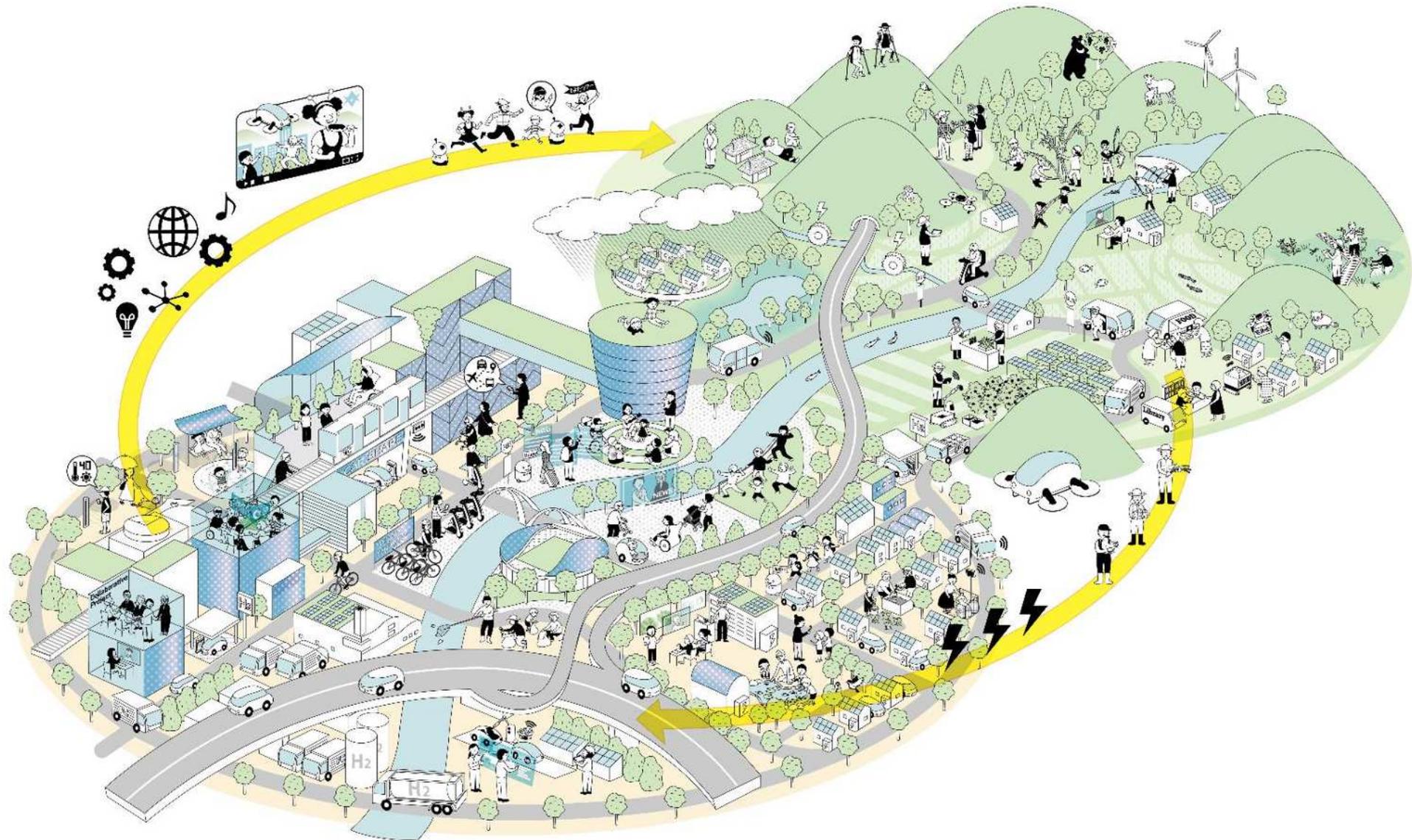
- ★次代を担う子どもたちへつないでいく
- ★多様な資源への愛着や誇り
- ★豊かな豊田市のミライ
- ★一人ひとりが主役
- 市、事業者及び市民の共働
- 健全で恵み豊かな環境
- 持続的な発展が可能な社会
- ▲再生可能エネルギーの導入促進
- ▲気候変動影響への対策
- ▲廃棄物の適正処理や不法投棄の防止
- ◆豊かな自然と共生するまち
- ◆快適に生活し、移動できるまち
- ◆地域のつながりの中で持続可能な暮らしが定着したまち
- ◆地域資源を活かして経済発展していくまち

第2章 計画の理念・目標

第2節 めざす環境像 『豊かな心を育む、人と自然にやさしいまち・とよた』のイメージ

【めざす環境像の説明文】

めざす環境像の中で、都市部と山間部が共生し各エリアで取り組んでいることや先端的な技術・情報を積極的に活用することで地域・世代間の公平が確保されている様子や、人と自然が双方向につながりあっている様子から高い生活の質につながっていることを「豊かな心」が育まれている状態として表現しました。



第2章 計画の理念・目標

第3節 取組分野と基本方針

審議事項

安全安心のうち生活環境分野を基本方針4に位置付け、行動共働の分野は各基本方針に包含し、環境分野の取組の明確化と、共働の取組により達したい内容を明確化したい。

次期計画の取組分野

次期計画の取組分野における基本方針(案)

1 気候変動

【脱炭素社会を実現するまち】

暮らしや企業活動の中で脱炭素に貢献する行動や経営が浸透し、まちの特性や強みを活かして、新たなエネルギーや技術の利活用を進めることで、脱炭素社会が実現し、気候変動に適応したまちを目指します。

2 自然共生

【豊かな自然と人がつながり、ミライへつなぐまち】

市の豊かな自然と関わり共生するライフスタイルやワークスタイルが定着し、自然から受ける恵みを最大限享受しており、それらを守り・育み・活用する活動・行動が積極的に行われていることで、より良好な状態で将来世代に繋ぐまちを目指します。

3 資源循環

【ミライにつながる循環型のまち】

限りある資源を大切に思う価値観やライフスタイルが浸透しており、資源を余すことなく循環利用が可能となる高度な資源循環システムが確立されていることで、持続可能な循環型社会が実現したまちを目指します。

4 生活環境

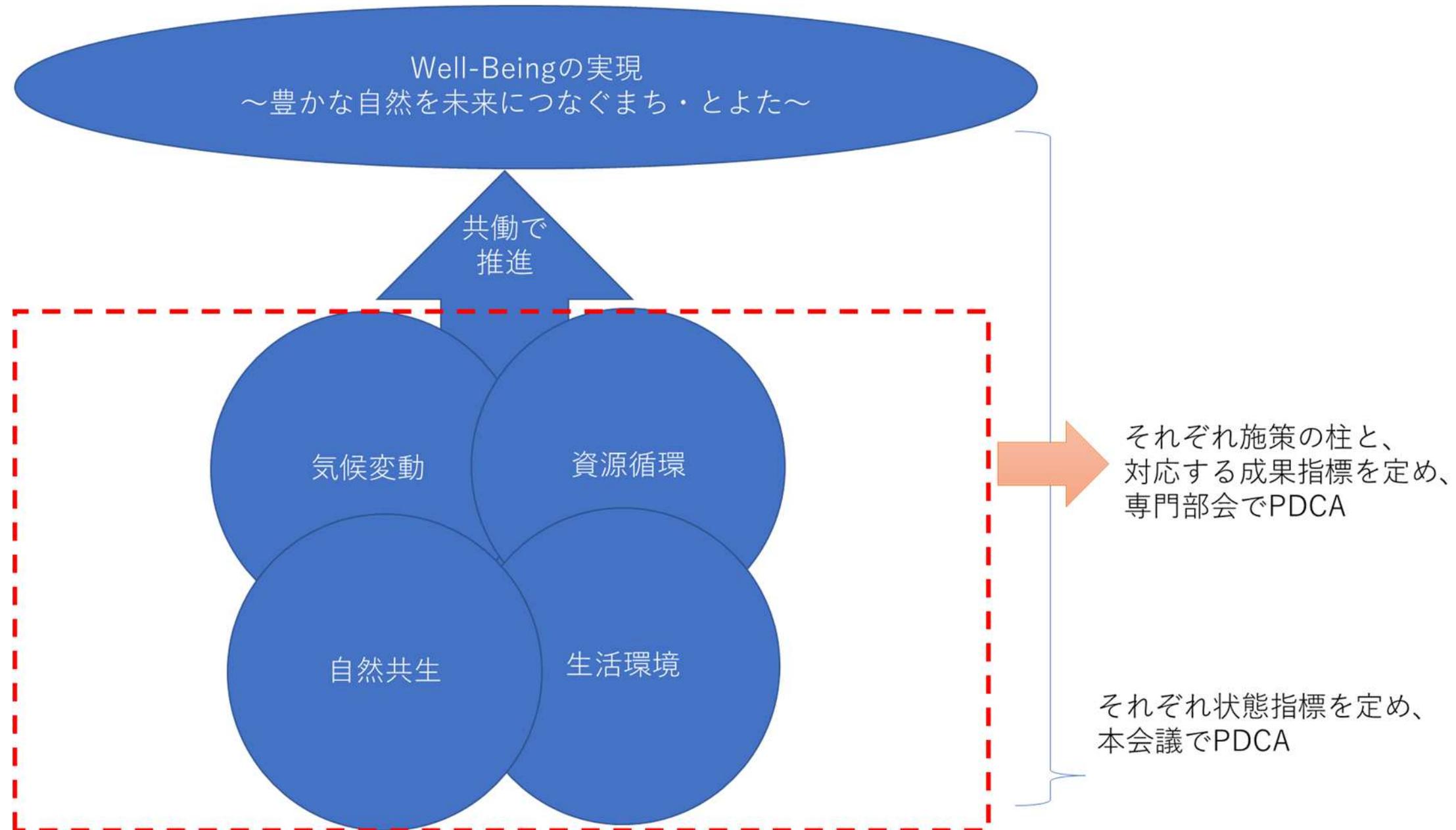
【良好な生活環境をミライにつなぐまち】

環境汚染などのリスクへの対策や、市民事業者の自主的な取組により、身近な生活環境が良好に維持されており、心地よく快適に暮らせるまちを目指します。

- ・ 現行計画の「行動・共働の分野」は、各取組分野の推進の基本理念や推進手法として包含。

第2章 計画の理念・目標

第3節 取組分野と基本方針の連関イメージ図



第3章 目標達成のための施策の展開

第1節 施策の体系

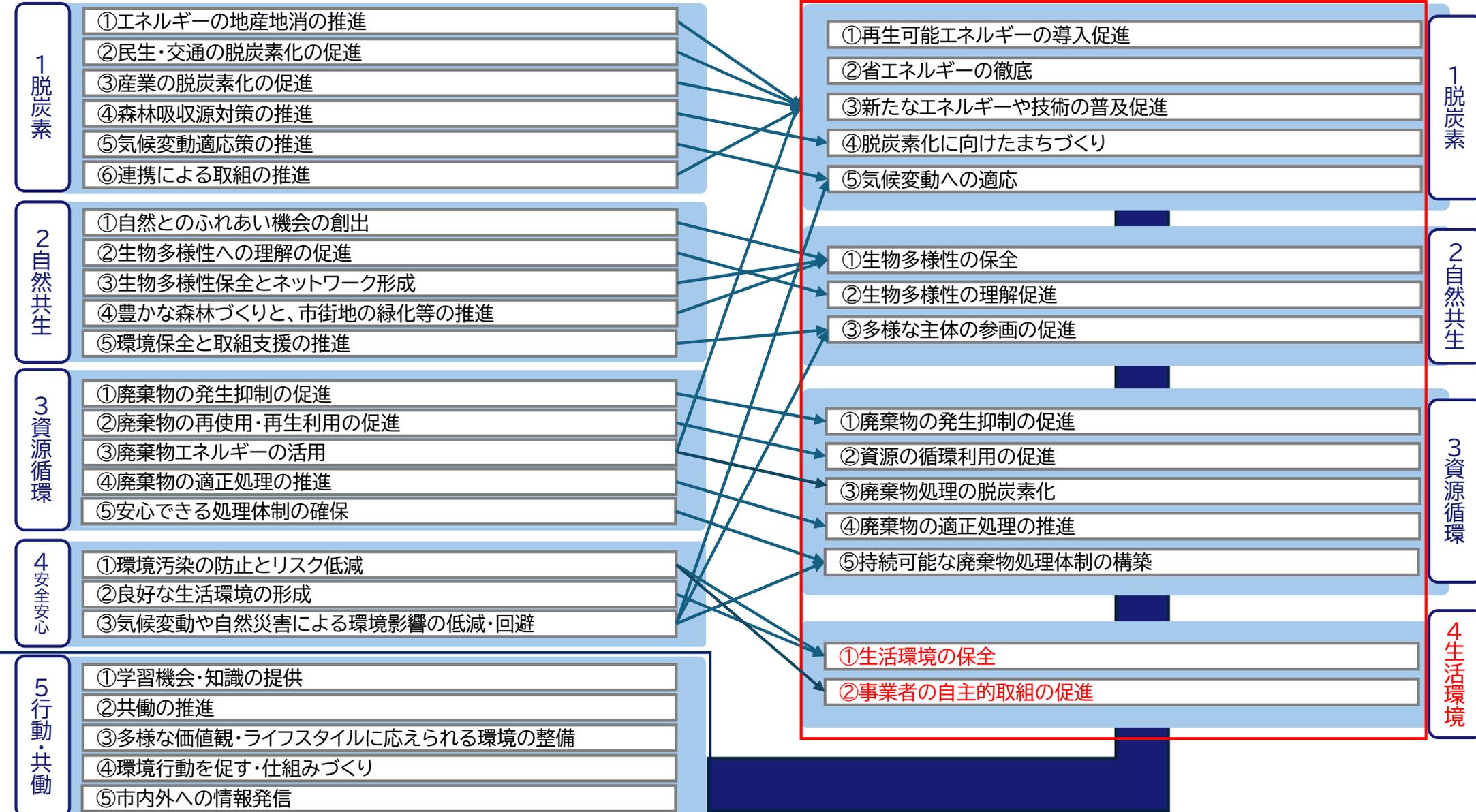
審議事項

より市民に伝わりやすい施策体系とするため、簡素化したい。

→ 本日の部会では、施策の柱の示し方に関してご意見をいただけますと幸いです。

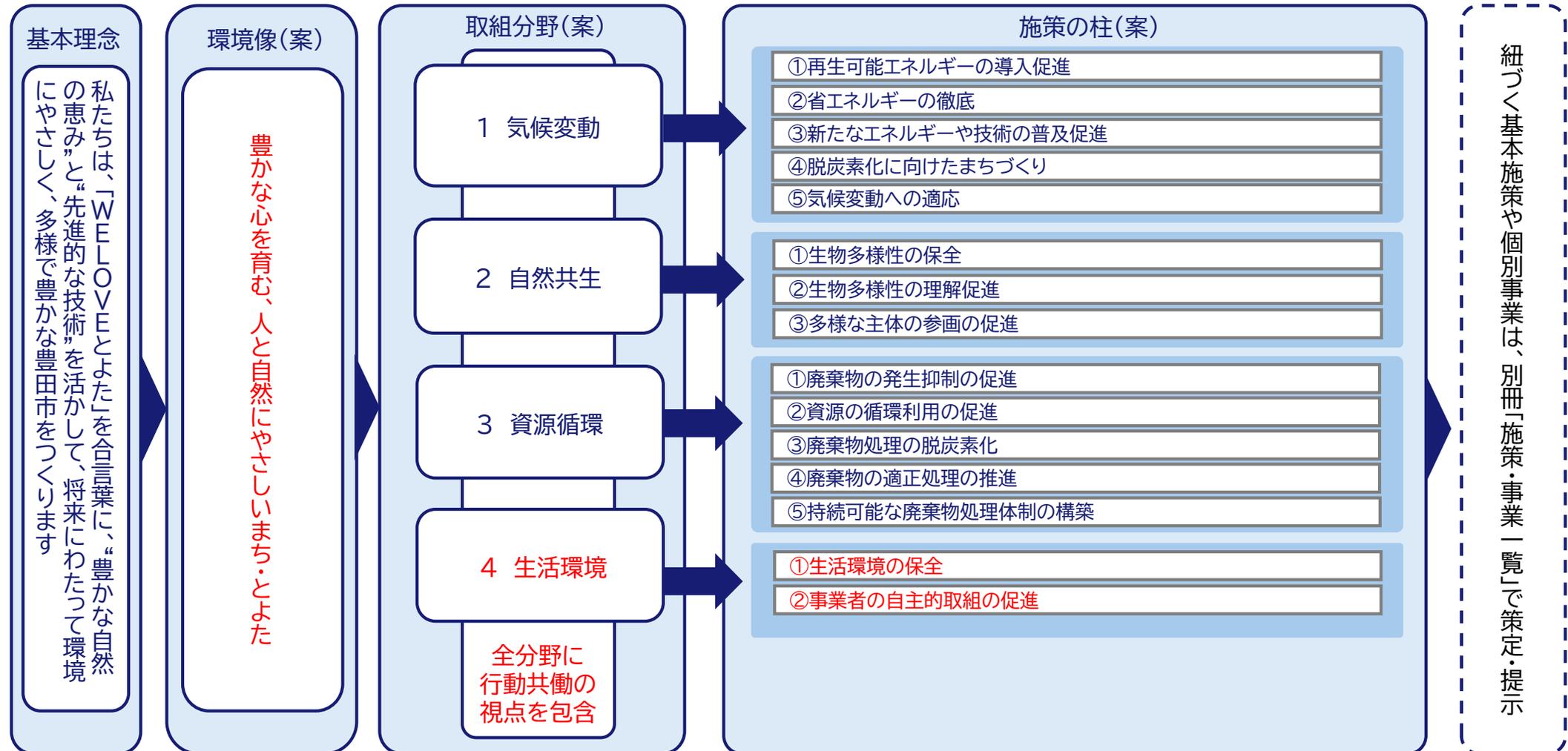
現行計画の施策の柱

次期計画の施策の柱(案)(※今後、意見等を踏まえ修正)



次期計画の全体構成

- 次期豊田市環境基本計画の体系は以下のとおりです。※第1回環境審議資料の体系を更新



第3章 目標達成のための施策の展開

第2節 施策の内容

以下の部分については、本日議題1「一般廃棄物処理計画について」のご議論の内容を適用してまいります。

取組分野3 資源循環

一般廃棄物処理基本計画の内容を踏まえて整理

・資源循環にかかる改定のポイント

①めざす姿のブラッシュアップ

:資源投入量・消費量の抑制やストックの有効活用、サービス化等を通じた付加価値向上などにより、循環経済への移行を図っていることをめざす姿に反映

② 循環型社会に向けた目標値の再検討

:循環型社会実現に向けた指標・目標値を設定

③ 一般廃棄物処理における課題を踏まえた検討

:ごみ排出状況やごみ組成調査、ヒアリング等から課題を抽出

④ 実施事業の拡充

:循環型社会実現に向けた取組の強化を施策に反映

第3章 目標達成のための施策の展開

第2節 施策の内容

審議事項

以下の改定方針に関するご意見を頂戴したい。

- ・現行計画の「安全安心社会」の施策の中から、生活環境に関する施策をこの取組分野に位置付け
- ・気候変動による激甚化や自然の持つ公益機能については、それぞれ気候変動、自然共生の分野でPDCAを実施したい

取組分野4 生活環境

生活環境にかかる改定のポイント

- ① **PDCA体制の強化と対象の明確化**
:環境分野の取組についてPDCAを実施するため、「生活環境」を取組分野に位置付け、部会設置を検討。
- ② **目標値の再検討**
:良好な生活環境の維持に関する指標・目標値を設定

第3章 目標達成のための施策の展開

第2節 施策の内容

審議事項

生活環境の維持向上の指標として、評価していくべき指標があればご意見いただきたい。

取組分野4 生活環境

目指す姿

- 市が事業者の法令遵守状況を監視し、環境情報を正確かつ分りやすく市民に共有することで、市民、地域の自主的な環境への取組が活性化し、住民の安心や満足度が向上している。
- 事業者による、各環境法令の基準を上回る自主的な取組によって、市民の快適な生活環境が維持されている。

指標・目標

まちの状態指標と目標値

進捗管理 指標区分	指標名	現状値(年度)	目標値 (2030年度)	目標値 (2035年度)
まちの状態指標	周辺環境への満足度(全体)	55% (2024)	55%以上 (維持・向上)	55%以上 (維持・向上)

成果指標の案

- ・生活環境の保全 → 環境基準の達成率、適合率
- ・事業者の自主的な取組の促進 → 大気水の保全、騒音・振動の発生を抑制している事業者の割合
環境保全に係る体制を構築している事業者の割合

第3章 目標達成のための施策の展開

第2節 施策の内容

取組分野4 生活環境

施策の柱① 生活環境の保全

現状と課題

- 大気汚染、水質汚濁、土壌・地下水汚染、騒音・振動、悪臭の防止のため、法・条例に基づく常時監視等の各種モニタリング調査や、事業者の法令順守状況を監視し、基準等違反事業者に指導を行った。
- 市民アンケート調査の結果では、「空気のきれいさ」が約6割、「静かさ」が約5割、「河川等の水のきれいさ」が約4割の満足となっている。事業者による環境汚染の防止とリスク低減が図られ、市民がその状態を認知することが必要。
- 市は市民等の身体及び財産に係る被害を防止し、安心かつ安全で快適な生活環境の確保を目的として、ごみ屋敷等の不良な生活環境の解消、生活環境に関する苦情の解消、事故による環境影響防止、路上喫煙の防止、大規模開発に伴う生活環境影響の防止、ポイ捨てなどのマナーやモラルに関する周知・啓発などの対策を行っている。
- これらの対策を地域と連携しながら実施し、安全で安心して暮らすことができる生活環境の形成を推進している。その一環として、民間企業と連携して喫煙所の適正管理に努め、イベントにおける指導員による定期的な巡回を行ってきた。ボランティア団体と連携した豊田市駅周辺の清掃活動についても継続している。
- 清掃活動や啓発等を行っているが、たばこのポイ捨て数は減少しておらず、今後も支援や指導等を継続して行いながら、理解促進や環境配慮意識の向上などから、活動を多様な世代・主体に拡大していくことが必要。

施策の方向性

- 市の環境情報の信頼性や正確性を確保したうえで市民に分かりやすく情報共有することで、市民が安心して暮らせるまちを目指す。
- **市民が地域での自主的な環境への取組を行う意識付けを活性化させる施策を進める**ことで、良好な生活環境の形成を目指す。
- 環境負荷物質排出事業者の指導監視や法令に基づく常時監視を通して、環境基準達成率・適合率の維持向上させることで生活環境の保全を目指す。

第3章 目標達成のための施策の展開

第2節 施策の内容

取組分野4 生活環境

施策の柱② 事業者の自主的取組の促進

現状と課題

- 市は環境汚染の防止とリスク低減のため、市内の主要な事業者と「公害防止協定」を締結し、公害規制を進めてきた。平成20年度からは多様化する環境問題へ対応するため「公害防止協定」から「環境の保全を推進する協定」へ見直しを行い、法令による規制基準より厳格な協定値を定め、管理・指導することで環境への負荷低減を図ってきた。
- 協定企業による協議会を設立し、勉強会や講演会、工場見学により協議会構成員のレベルアップを図るとともに、そこで得た知識や技術の情報発信や中小企業を対象としたセミナーを行い、市内企業全体の環境意識や技術の底上げを図ってきた。
- 協定値を超過した一部事業所があった。

施策の方向性

- 事業者との協定に基づく取組の促進及びリスクコミュニケーションを推進する。
- 協議会活動の推進により、協定事業者を含めたすべての事業者による環境取組への意識向上を目指す。